

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	10
1年					
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	11	
2年					
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	12	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	13	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	14	
2年					
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2		
2年					

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15
		2年			
	生命科学と社会 BIO200F 閉講	1学期	2	2	
		2年			
情報社会を読む INF200F 閉講	1学期	2	2		
	2年				
地域資源管理論 ENV200F 閉講	2学期	2	2		
	2年				
■教養演習科目	教養演習 A I (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	16
		2年			
	教養演習 A I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習 A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	18
		2年			
	教養演習 A II GES202F 高木 駿	2学期	2	2	19
		2年			
	教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	20
		2年			
	教養演習 B I GES301F 閉講	1学期	3	2	
		3年			
教養演習 B II GES302F 閉講	2学期	3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	21
		1年			
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	22
		1年			
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	1年	23
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	1年	24
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	1年	25
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	1年	26
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	文化と表象 MCC001F 閉講	2学期	1	2	1年	
言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2	1年		
芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	1年	27	
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	1年		
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	1年		
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	1年	28	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	29
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	30
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	31
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	32
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	33
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	34
		1年			
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	35
		1年			
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	36	
	1年				
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	37	
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 休講	1学期	1	2	38
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	39
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	40
		1年 (2015年度以降入学生)			
	地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	41
		1年 (2015年度以降入学生)			
	現代の国際情勢 IRL003F 篠崎 香織 他	1学期	1	2	42
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	43
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	44
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 閉講	1学期	1	2	45
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	46
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	47
		1年			
国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	48	
	1年				
韓国の社会と文化 ARE010F 金 慶湖	2学期	1	2	49	
	1年				
エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2	50	
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	51	
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	52	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	ものとの人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	45	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 加藤 絢子	1学期	1	2	46
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	47
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	48
		1年			
	人文地理学 GEO110F 美谷 薫	2学期	1	2	49
		1年			
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	50
		1年			
	地誌学 GEO112F 美谷 薫	2学期	1	2	51
		1年			
	日本国憲法 LAW120F 棟形 康平	2学期	1	2	52
		1年			
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	53
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	54	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	55
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	56
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	57
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	58
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	59
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	60
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	61
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	62
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	63
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	64
		1年			
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	65	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	66	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	67	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	68	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	69	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	70
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	71
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 真鍋 和博	1学期	1	2	72
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	73
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	74
	1年				
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	75
	2年				
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	76
	2年				
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2	
	2年				
	サービ斯拉ーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	77
	1年				
	サービ斯拉ーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	78
	1年				
	プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2	
	2年				
	プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習Ⅳ CAR381F 閉講	2学期	3	2	
	3年				
■教養特講	教養特講Ⅰ SPL001F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	教養特講Ⅱ (現代社会とエシカル消費) SPL002F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	教養特講Ⅲ SPL003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	教養特講Ⅳ SPL004F 休講	2学期	1	2	
	1年				
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	79
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	80
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	81
	2年 (2016年度以降入学生)				
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	82
	2年 (2016年度以降入学生)				
	まなびと企業研究Ⅰ CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	83
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究Ⅱ CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	84	
3年 (2016年度以降入学生)					
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	情報メディア演習 INF330F 閉講	1学期	3	2	
	3年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語Ⅰ (比人 1 - F) ENG101F 團迫 雅彦	1学期	1	1	85
	比人 1 - F				
	英語Ⅰ (比人 1 - G) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	86
	比人 1 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (比人 1-F) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	87
		比人 1 - F			
	英語II (比人 1-G) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	88
		比人 1 - G			
	英語III (比人 1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	89
		比人 1 - F			
	英語III (比人 1-G) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	90
		比人 1 - G			
	英語IV (比人 1-F) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	91
		比人 1 - F			
	英語IV (比人 1-G) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	92
		比人 1 - G			
	英語V (比人 2-C) ENG201F 十時 康	1学期	2	1	93
		比人 2 - C			
	英語V (比人 2-D) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	94
		比人 2 - D			
	英語VI (比人 2-C) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	95
		比人 2 - C			
	英語VI (比人 2-D) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	96
		比人 2 - D			
英語VII (比人 2-C) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	97	
	比人 2 - C				
英語VII (比人 2-D) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	98	
	比人 2 - D				
英語VIII (比人 2-C) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	99	
	比人 2 - C				
英語VIII (比人 2-D) ENG212F 安丸 雅子	2学期	2	1	100	
	比人 2 - D				
英語IX (英中国済営比人律政 3年) ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	101	
	英中国済営比人律政 3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語X (英中国済営比人律政 3 年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	102
		英中国済営比人律政 3 年			
	英語XI (英中国済営比人律政 3 年) ENG302F ロバート・マーフィ	1学期	3	1	103
		英中国済営比人律政 3 年			
	英語XII (英中国済営比人律政 3 年) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	104
		英中国済営比人律政 3 年			
■第二外国語	中国語I (1 - a) CHN101F 野村 和代	1学期	1	1	105
		済営人律政群 1 年			
	中国語I (1 - b) CHN101F 板谷 俊生	1学期	1	1	106
		済営人律政群 1 年			
	中国語II (1 - a) CHN111F 野村 和代	2学期	1	1	107
		済営人律政群 1 年			
	中国語II (1 - b) CHN111F 板谷 俊生	2学期	1	1	108
		済営人律政群 1 年			
	中国語III (1 - a) CHN102F 艾文婷	1学期	1	1	109
		済営人律政群 1 年			
	中国語III (1 - b) CHN102F 于 佳	1学期	1	1	110
		済営人律政群 1 年			
	中国語IV (1 - a) CHN112F 艾文婷	2学期	1	1	111
		済営人律政群 1 年			
	中国語IV (1 - b) CHN112F 于 佳	2学期	1	1	112
		済営人律政群 1 年			
中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	113	
	英済営人律政群 2 年				
中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	114	
	英済営人律政群 2 年				
中国語VII CHN202F 未定	1学期	2	1	115	
	英済営人律政群 2 年				
中国語VIII CHN212F 未定	2学期	2	1	116	
	英済営人律政群 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	117
		英国済営比人3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	118
		英国済営比人3年			
	上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	119
		英国済営比人3年			
	上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	120
		英国済営比人3年			
	朝鮮語I (1 - a) KRN101F 吳 香善	1学期	1	1	121
		英中比人1年			
	朝鮮語I (1 - b) KRN101F 金 元正	1学期	1	1	122
		英中比人1年			
	朝鮮語I (1 - c) KRN101F 安 滯珠	1学期	1	1	123
		英中比人1年			
	朝鮮語I (1 - d) KRN101F 金 京姫	1学期	1	1	124
		英中比人1年			
	朝鮮語II (1 - a) KRN111F 奈良 美香	2学期	1	1	125
		英中比人1年			
	朝鮮語II (1 - b) KRN111F 金 慶湖	2学期	1	1	126
		英中比人1年			
朝鮮語II (1 - c) KRN111F 安 滯珠	2学期	1	1	127	
	英中比人1年				
朝鮮語II (1 - d) KRN111F 金 京姫	2学期	1	1	128	
	英中比人1年				
朝鮮語III (1 - a) KRN102F 金 惠媛	1学期	1	1	129	
	英中比人1年				
朝鮮語III (1 - b) KRN102F 吳 珠熙	1学期	1	1	130	
	英中比人1年				
朝鮮語III (1 - c) KRN102F 安 滯珠	1学期	1	1	131	
	英中比人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語III (1 - d) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	132
		英中比人 1年			
	朝鮮語IV (1 - a) KRN112F 金 惠媛	2学期	1	1	133
		英中比人 1年			
	朝鮮語IV (1 - b) KRN112F 吳 珠熙	2学期	1	1	134
		英中比人 1年			
	朝鮮語IV (1 - c) KRN112F 安 瀨珠	2学期	1	1	135
		英中比人 1年			
	朝鮮語IV (1 - d) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	136
		英中比人 1年			
	朝鮮語V KRN201F 安 瀨珠	1学期	2	1	137
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI KRN211F 安 瀨珠	2学期	2	1	138
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	139
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	140
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語I KRN301F 安 瀨珠	1学期	3	1	141
		英中国済営比人 3年			
上級朝鮮語II KRN311F 安 瀨珠	2学期	3	1	142	
	英中国済営比人 3年				
上級朝鮮語III KRN302F 金 惠媛	1学期	3	1	143	
	英中国済営比人 3年				
上級朝鮮語IV KRN312F 金 惠媛	2学期	3	1	144	
	英中国済営比人 3年				
ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	145	
	済営人律政 1年				
ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	146	
	済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	147
		済営人律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	148
		済営人律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	149
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	150
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	151
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	152
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	153
		済営人律政 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	154
		済営人律政 1年			
	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	155
		済営人律政 1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	156
		済営人律政 1年			
フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	157	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	158	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	159	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	160	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語I SPN101F 宮城 志帆	1学期	1	1	161	
	中国済営人律政 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語II		2学期	1	1	162
	SPN111F	宮城 志帆	中国済営人律政 1年			
	スペイン語III		1学期	1	1	163
	SPN102F	辻 博子	中国済営人律政 1年			
	スペイン語IV		2学期	1	1	164
	SPN112F	辻 博子	中国済営人律政 1年			
	スペイン語V		1学期	2	1	165
	SPN201F	青木 文夫	英中国済営比人律政 2年			
スペイン語VI		2学期	2	1	166	
SPN211F	青木 文夫	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII		1学期	2	1	167	
SPN202F	辻 博子	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII		2学期	2	1	168	
SPN212F	辻 博子	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I		1学期	1	1	169
	JSL101F	清水 順子	留学生 1年			
	日本語II		1学期	1	1	170
	JSL102F	金 元正	留学生 1年			
	日本語III		1学期	1	1	171
	JSL103F	小林 浩明	留学生 1年			
	日本語IV		2学期	1	1	172
	JSL111F	清水 順子	留学生 1年			
日本語V		2学期	1	1	173	
JSL112F	則松 智子	留学生 1年				
日本語VI		2学期	1	1	174	
JSL113F	小林 浩明	留学生 1年				
日本語VII		1学期	2	1	175	
JSL104F	則松 智子	留学生 2年				
日本語VIII		2学期	2	1	176	
JSL114F	清水 順子	留学生 2年				

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	177
	留学生 1年				
	日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	178
	留学生 1年				
日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	179	
留学生 1年					
日本事情(社会)B JPS104F 清藤 隆春 他	2学期	1	2	180	
留学生 1年					
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学 松本 亜紀	2学期	2	2	181
	社会心理学 田島 司	2学期	2	2	182
	対人心理学 田島 司	1学期	2	2	183
	臨床心理学 田中 信利	1学期	2	2	184
	カウンセリング論 田中 信利	2学期	2	2	185
	コミュニケーション論 休講	1学期	2	2	
	学習心理学 大塚 一徳	2学期	2	2	186
教育心理学 山下 智也	2学期	2	2	187	
発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	188	
障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2		
心理療法論 中島 俊介	2学期	2	2	189	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	心理統計 山本 健太郎	集中	2	2	190
	老年心理学 石塚 優	2学期	2	2	191
	生理心理学 麦島 剛	1学期	2	2	192
	社会意識論 入江 恵子	2学期	2	2	193
	社会意識論 (英語) 休講	2学期	2	2	
	文化社会学 阪井 俊文	1学期	2	2	194
	文化社会学 (英語) 休講	1学期	2	2	
	家族社会学 濱野 健	2学期	2	2	195
	理論社会学 休講	集中	2	2	
	教育社会学 恒吉 紀寿	1学期	2	2	196
	情報社会論 濱野 健	1学期	2	2	197
	消費社会論 濱野 健	2学期	2	2	198
	フィールドワーク論 井上 大輔	1学期	2	2	199
	環境社会学 岩松 文代	2学期	2	2	200
	人間環境地理学 野井 英明	2学期	2	2	201

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	生態人類学 竹川 大介	1学期	2	2	202
	人間性の進化 チョウ ピンピン	2学期	2	2	203
	比較表象文化 MCC210M 真鍋 昌賢	1学期	2	2	204
		2年			
	日本の大衆文化 JPS212M 真鍋 昌賢	2学期	2	2	205
		2年			
	人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	社会調査の基礎 休講	1学期	2	2	
	相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	相談援助の理論と方法 1 SOW262M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 SOW263M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	相談援助の理論と方法 3 SOW264M 休講	1学期	2	2	
		2年			
地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 休講	1学期	2	2		
	2年				
福祉行財政と福祉計画 休講	1学期	3	2		
福祉サービスの組織と経営 休講	2学期	3	2		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	社会保障	1学期	2	2	
	SOW240M 休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	
	SOW220M 休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	
	SOW221M 休講	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2	
	休講				
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	
	SOW223M 休講	2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	
	SOW241M 休講	2年			
	保健医療サービス	2学期	2	2	
	SOW230M 休講	2年			
	権利擁護と成年後見制度	1学期	3	2	
	休講				
	相談援助演習 1	2学期	2	2	
	休講				
	相談援助演習 2	1学期	3	2	
	休講				
相談援助演習 3	1学期	3	2		
休講					
相談援助演習 4	2学期	3	2		
休講					
相談援助演習 5	1学期	4	2		
休講					
相談援助実習指導 1	1学期 (ペア)	3	2		
休講					
相談援助実習指導 2	2学期	3	1		
休講					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	相談援助実習	2学期	3	6	
	休講				
	心理学研究法	1学期	3	2	206
	松本 亜紀				
	心理学実験実習II	1学期(ペア)	3	2	207
	田中 信利 他				
	環境経済学	2学期	3	2	208
	ECN340M 牛房 義明	3年			
	教育制度論	1学期	3	2	
	休講				
	教育制度論	1学期	3	2	209
	見玉 弥生				
	教育課程論	2学期	3	2	210
	見玉 弥生				
	教育原理	1学期	1	2	211
	見玉 弥生				
	教職論	1学期	1	2	212
	楠 凡之				
生涯学習学	1学期	2	2		
休講					
主体形成論	2学期	2	2	213	
恒吉 紀寿					
教育相談	1学期	2	2	214	
山下 智也					
生徒・進路指導論	2学期	2	2		
休講					
次世代育成論	2学期	2	2	215	
山下 智也					
社会教育計画論	2学期	2	2		
休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	生涯学習編成論	1学期	2	2	
	休講				
	現代社会と社会教育	1学期	2	2	
	休講				
	教育工学	2学期	2	2	
	休講				
	道徳教育指導論	2学期	2	2	216
	船原 将太				
	教育方法学	2学期	2	2	
	休講				
	人権教育論	1学期	2	2	217
	河嶋 静代				
	特別活動論	2学期	2	2	
	休講				
	倫理学	2学期	2	2	218
	PHR210M 清水 満	2年			
	博物館概論	1学期	2	2	219
	MUS200M 門田 彩	2年			
	コミュニティスポーツ論	1学期	2	2	220
	HSS220M 山本 浩二	2年			
スポーツ産業論	1学期	2	2	221	
内田 満					
健康科学	2学期	2	2	222	
高西 敏正					
スポーツ心理学	1学期	2	2	223	
柴原 健太郎					
身体適応論	1学期	2	2	224	
高西 敏正					
身体スポーツ論	2学期	2	2	225	
柴原 健太郎					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目	トレーニング論 梨羽 茂	1学期	2	2	226
■演習・卒論科目	演習 A - 1 松本 亜紀	1学期	3	2	227
	演習 A - 1 田島 司	1学期	3	2	228
	演習 A - 1 田中 信利	1学期	3	2	229
	演習 A - 1 休講	1学期	3	2	
	演習 A - 1 休講	1学期	3	2	
	演習 A - 1 濱野 健	1学期	3	2	230
	演習 A - 1 竹川 大介	1学期	3	2	231
	演習 A - 1 入江 恵子	1学期	3	2	232
演習 A - 1 小賀 久	1学期	3	2	233	
演習 A - 1 山下 智也	1学期	3	2	234	
演習 A - 1 楠 凡之	1学期	3	2	235	
演習 A - 1 恒吉 紀寿	1学期	3	2	236	
演習 A - 1 児玉 弥生	1学期	3	2	237	
演習 A - 1 柴原 健太郎	1学期	3	2	238	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1 高西 敏正	1学期	3	2	239
	演習 A - 1 岩松 文代	1学期	3	2	240
	演習 A - 1 税田 慶昭	1学期	3	2	241
	演習 A - 2 松本 亜紀	2学期	3	2	242
	演習 A - 2 田島 司	2学期	3	2	243
	演習 A - 2 田中 信利	2学期	3	2	244
	演習 A - 2 休講	2学期	3	2	
	演習 A - 2 休講	2学期	3	2	
	演習 A - 2 濱野 健	2学期	3	2	245
	演習 A - 2 竹川 大介	2学期	3	2	246
	演習 A - 2 入江 恵子	2学期	3	2	247
	演習 A - 2 小賀 久	2学期	3	2	248
	演習 A - 2 山下 智也	2学期	3	2	249
	演習 A - 2 楠 凡之	2学期	3	2	250
	演習 A - 2 恒吉 紀寿	2学期	3	2	251

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 見玉 弥生	2学期	3	2	252
	演習 A - 2 柴原 健太郎	2学期	3	2	253
	演習 A - 2 高西 敏正	2学期	3	2	254
	演習 A - 2 岩松 文代	2学期	3	2	255
	演習 A - 2 税田 慶昭	2学期	3	2	256
	演習 B - 1 松本 亜紀	1学期	4	2	257
	演習 B - 1 田島 司	1学期	4	2	258
	演習 B - 1 田中 信利	1学期	4	2	259
	演習 B - 1 休講	1学期	4	2	
	演習 B - 1 休講	1学期	4	2	
	演習 B - 1 濱野 健	1学期	4	2	260
	演習 B - 1 竹川 大介	1学期	4	2	261
	演習 B - 1 入江 恵子	1学期	4	2	262
	演習 B - 1 小賀 久	1学期	4	2	263
	演習 B - 1 山下 智也	1学期	4	2	264

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B-1 楠 凡之	1学期	4	2	265
	演習B-1 恒吉 紀寿	1学期	4	2	266
	演習B-1 見玉 弥生	1学期	4	2	267
	演習B-1 柴原 健太郎	1学期	4	2	268
	演習B-1 高西 敏正	1学期	4	2	269
	演習B-1 岩松 文代	1学期	4	2	270
	演習B-1 税田 慶昭	1学期	4	2	271
	演習B-2 松本 亜紀	2学期	4	2	272
	演習B-2 田島 司	2学期	4	2	273
	演習B-2 田中 信利	2学期	4	2	274
	演習B-2 休講	2学期	4	2	
	演習B-2 休講	2学期	4	2	
	演習B-2 濱野 健	2学期	4	2	275
	演習B-2 竹川 大介	2学期	4	2	276
	演習B-2 入江 恵子	2学期	4	2	277

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B-2 小賀 久	2学期	4	2	278
	演習B-2 山下 智也	2学期	4	2	279
	演習B-2 楠 凡之	2学期	4	2	280
	演習B-2 恒吉 紀寿	2学期	4	2	281
	演習B-2 児玉 弥生	2学期	4	2	282
	演習B-2 柴原 健太郎	2学期	4	2	283
	演習B-2 高西 敏正	2学期	4	2	284
	演習B-2 岩松 文代	2学期	4	2	285
	演習B-2 税田 慶昭	2学期	4	2	286
■基礎演習科目	人間関係学基礎演習I 休講	1学期	1	2	
	人間関係学基礎演習II 柴原 健太郎	2学期(ペア)	1	2	287
■概論科目	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	288
	基礎心理学 税田 慶昭 他	1学期	1	2	289
	社会学概論 入江 恵子 他	1学期	1	2	290
	現代社会と福祉1 SOW100M 休講	1学期	1	2	
1年					

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■概論科目	現代社会と福祉2 休講	2学期	1	2	
	人間環境概論 岩松 文代 他	1学期	1	2	291
	人類学概論 竹川 大介	2学期	1	2	292
	教育学概論 恒吉 紀寿 他	1学期	1	2	293
	生涯スポーツ学概論 高西 敏正 他	2学期	1	2	294
	心理学実験実習I 税田 慶昭 他	2学期 (ペア)	2	2	295
■実験実習科目	社会調査実習 (フィールドワーク) 竹川 大介 他	1学期 (ペア)	2	2	296
	社会調査実習 (サーベイ) 濱野 健 他	2学期 (ペア)	2	2	297
	人間環境実験・実習 岩松 文代 他	1学期 (ペア)	2	2	298
	生涯教育・生涯スポーツ実習 高西 敏正 他	1学期 (ペア)	2	2	299
	国際関係の理論 IRL200M 阿部 容子	1学期	2	2	300
■自由科目	国際関係の争点 IRL101M 大平 剛	2学期	1	2	301
	経済地理学I ECN242M 柳井 雅人	1学期	2	2	302
	経済地理学II ECN243M 柳井 雅人	2学期	2	2	303
	日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介	1学期	2	2	304
			2年		
			2年		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	博物館経営論 MUS210M 永尾 正剛	2学期	2	2	305
	2年				
	博物館資料論 MUS211M 門田 彩	2学期	2	2	306
	2年				
	博物館資料保存論 MUS214M 佐藤 浩司	2学期	2	2	307
	2年				
	博物館展示論 MUS213M 門田 彩	2学期	2	2	308
	2年				
	博物館教育論 MUS215M 岩本 史緒	1学期	2	2	309
	2年				
	博物館情報・メディア論 MUS212M 那須 孝幸	1学期	2	2	310
	2年				
	博物館実習I MUS280M 門田 彩	2学期(ペア)	3	2	311
	3年				
博物館実習II MUS380M 門田 彩	1学期(ペア)	4	1	312	
4年					
法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	313	
1年					
国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	314	
2年					
国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	315	
2年					
政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期	1	2	316	
1年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習1 EDU380C 休講	2学期	3	2	
	3年				
	教育実習2 EDU480C 休講	1学期	4	2	
	4年				
	教育実習3 EDU481C 休講	1学期	4	2	
	4年				

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	
	EDU490C 休講	4年			
■必修科目	社会科教育法 A	1学期	3	2	317
	EDU240C 下地 貴樹	3年			
	社会科教育法 B	2学期	3	2	318
	EDU241C 吉村 義則	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	319
	EDU242C 下地 貴樹	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	320
	EDU243C 下地 貴樹	3年			
	公民科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU244C 休講	3年			
	公民科教育法 B	2学期	3	2	
	EDU245C 休講	3年			

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	321
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	322
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	323
	1年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	324	
1年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	325	
2年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	326
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	327
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	328
	1年				
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	329
1年					
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2		
1年					
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	330	
1年					
企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2		
1年					

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	331
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	332
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	333
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	334
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	335
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	336
		1年			
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	337	
	1年				
そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	338	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	339	
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	340	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	341
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	342
		1年			
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	343
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	344
		2年			
■専門教育科目 ■選択科目	対人心理学 田島 司	1学期	2	2	345

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	臨床心理学	1学期	2	2	
	休講				
	コミュニケーション論	1学期	2	2	
	休講				
	教育心理学	2学期	2	2	337
	山下 智也				
	発達心理学	1学期	2	2	338
	税田 慶昭				
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	339
	税田 慶昭				
	教育社会学	1学期	2	2	340
	恒吉 紀寿				
	人体の構造と機能及び疾病	1学期	2	2	
	SOW231M 休講	2年			
	相談援助の基盤と専門職 1	2学期	1	2	
	SOW260M 休講	1年			
	相談援助の基盤と専門職 2	1学期	1	2	
	SOW261M 休講	1年			
	相談援助の理論と方法 1	1学期	2	2	
	SOW262M 休講	2年			
相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2		
SOW263M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2		
SOW264M 休講	2年				
地域福祉の理論と方法 1	1学期	2	2		
SOW210M 休講	2年				
地域福祉の理論と方法 2	1学期	2	2		
SOW211M 休講	2年				
福祉行財政と福祉計画	1学期	3	2		
SOW242M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	福祉サービスの組織と経営	2学期	3	2	
	SOW251M 休講	3年			
	社会保障	1学期	2	2	
	SOW240M 休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	
	SOW220M 休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	
	SOW221M 休講	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2	
	SOW222M 休講	2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	
	SOW223M 休講	2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	
	SOW241M 休講	2年			
	保健医療サービス	2学期	2	2	
	SOW230M 休講	2年			
環境経済学	2学期	3	2		
ECN340M 休講	3年				
教育課程論	2学期	3	2	341	
見玉 弥生					
教育原理	1学期	1	2	342	
見玉 弥生					
教職論	1学期	1	2	343	
楠 凡之					
生涯学習学	1学期	2	2	344	
恒吉 紀寿					
教育相談	1学期	2	2	345	
山下 智也					
生徒・進路指導論	2学期	2	2	346	
楠 凡之					

文学部 人間関係学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	教育工学	2学期	2	2	
	休講				
	道徳教育指導論	2学期	2	2	347
	船原 将太				
	教育方法学	2学期	2	2	348
	下地 貴樹				
	人権教育論	1学期	2	2	
	休講				
	特別活動論	2学期	2	2	349
	楠 凡之				
	コミュニティスポーツ論	1学期	2	2	
	HSS220M 休講	2年			
	スポーツ産業論	2学期	2	2	
	休講				
健康科学	2学期	2	2	350	
高西 敏正					
身体適応論	1学期	2	2		
休講					
身体スポーツ論	2学期	2	2	351	
柴原 健太郎					
トレーニング論	1学期	2	2		
休講					
■概論科目	心理学概論	2学期	1	2	
	休講				
	現代社会と福祉 1	1学期	1	2	
	SOW100M 休講	1年			
現代社会と福祉 2	2学期	1	2		
SOW101M 休講	1年				
■自由科目	経済地理学I	1学期	2	2	
	ECN242M 休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	経済地理学II ECN243M 休講	2学期	2	2	352
	2年				
	法学総論 LAW100M 小野 憲昭	1学期	1	2	352
	1年				
	国際法I LAW250M 休講		2	2	352
	2年				
国際法II LAW251M 休講		2	2	352	
2年					
政治学 PLS100M 休講			1	2	352
1年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1 EDU380C 児玉 弥生 他	2学期	3	2	353
	3年				
	教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	354
	4年				
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	355	
4年					
教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2	356	
4年					
■必修科目	社会科教育法 A EDU240C 休講	1学期	3	2	357
	3年				
	社会科教育法 B EDU241C 休講	2学期	3	2	357
	3年				
	社会科教育法 C EDU242C 休講	1学期	3	2	357
	3年				
	社会科教育法 D EDU243C 休講	2学期	3	2	357
	3年				
	公民科教育法 A EDU244C 下地 貴樹	1学期	3	2	357
	3年				
公民科教育法 B EDU245C 吉村 義則	2学期	3	2	358	
3年					

歴史と政治【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
- 「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦―「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災―「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化―二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化―戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交―1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議―「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変―「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊―「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相―謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

歴史と政治【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 さまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

ことばの科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読

事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

生活世界の哲学【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田國江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス (日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎 (1) ミクロとマクロ (日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎 (2) 宇宙で生まれた物質 (中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎 (3) 生命と分子 (日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性 (1) 生物の分類と系統 (日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性 (2) ウイルスは生物か (日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性 (3) 単細胞生物と多細胞生物 (日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性 (4) 生態系と進化 (日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性 (5) 多様な生命 (日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性 (1) 遺伝子の名前 (日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性 (2) 多様性を生む生殖 (日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは (1) 科学と疑似科学 (日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは (2) 太陽と地球の環境 (中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは (3) 人類の起源 (日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ (日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4.質の高い教育をみんなに」「8.働きがいも経済成長も」「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」「10.人や国の不平等をなくそう」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

- 「知識」
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と統後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

可能性としての歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能(一)です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。

・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

言語と認知【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第9回 ヒューマンエラー(松田)
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者からの課題の講評など(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% (最終)課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の(最終)課題を提出しない限り評価不能(一)となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習:担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】 共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
 - 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
 - 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
 - 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)
 - 5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー
- 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 AI	GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。
出席が全くない受講者に対しては、一（評価不能）評価とする。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジュメ作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
*教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジュメの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各回のレジюме作成 100%
- * レジюмеを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジюмеの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決断するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジюмеの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Years クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

動物のみかた 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%
・ レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

現代人のこころ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
			環境都市としての北九州
			ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

環境都市としての北九州【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(外部講師)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤教育センター・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 6回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業(大学院マネジメント研究科・松永)
- 8回 施設見学(環境ミュージアム)
- 9回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 10回 環境問題とNPO①(都市交通、外部講師)
- 11回 環境問題とNPO②(フードバンク、外部講師)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 特別講義(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター・石川)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
期末レポート・・・10%
課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
・見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
・環境首都検定は12月11日(日)の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自律的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用するのがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を探り、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」

美術手帖編集部 美術出版社 2009

「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014

「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017

「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

芸術と人間【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・ ・ 50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。
レポート・ ・ 40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・ ・ 10%
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスに关する最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			社会学的思考	SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活しているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『生活からみる社会のすがた』, 稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編, 学文社, 2022年3月刊行予定

○ 『現代の社会学的解読』, 山本努・辻正二・稲月正著, 学文社, 2014年, ¥2640 (古書)

『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』, 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規, 2021年, ¥2,750

その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著/(公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

「女性はわかまえているべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいるかもしれませんが、違和感を覚えた人もいるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自律的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

ジェンダー論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

障がい学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に興味をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3. 健康と福祉」「16. 平和と公正」「17. パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方
			LAW002F

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自律的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

法律の読み方 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

- 【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
- 三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

企業と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自律的行動」都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

都市と地域【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念:『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例(LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題(合計) ... 40% 最終クイズ(2回合計) ... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能(-)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11.まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2015年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
		地域防災への招待	
		SSS001F	

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor	篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科 大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科 久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科																																			
履修年次 1年次 /Year	単位 2単位 /Credits	学期 1学期 /Semester	授業形態 講義 /Class Format	クラス 1年 /Class																																
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <tr> <th>2011</th><th>2012</th><th>2013</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>												2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022			○	○	○	○	○	○				
2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022																									
		○	○	○	○	○	○																													

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

現代の国際情勢【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(篠崎)オリエンテーション
- 第2回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(1)概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(2)現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回(阿部)米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回(政所)国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回(政所)国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回(久木)2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
- 第8回(久木)2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
- 第9回(篠崎)世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回(大平)東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回(デルガド) Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
(※英語での講義です)
- 第12回(白石)中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回(柳)朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回(柳)北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回(下野)台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%
- 小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連
- 第4回(阿部)9. 産業・技術革命
- 第5回、第6回(政所)16. 平和と公正
- 第7回(久木)3. 健康と福祉を
- 第8回(久木)10. 不平等をなくす
- 第9回(篠崎)11. まちづくり
- 第11回(デルガド)9. Innovation and Infrastructure (産業・技術革命)
- 第12回(白石)17. グローバル・パートナーシップ
- 第15回(下野)5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】 国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

韓国の社会と文化 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	40%
毎回のコメントカード	30%
その他、小レポートなど	30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるインタロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

【授業内容】一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。
【到達目標】歴史学的手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学的手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題（30％）と期末試験（70％）によって評価する。
6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 7回 前漢前期(3) -呂后-
 - 8回 前漢中期(1) -武帝-
 - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 11回 前漢後期(1) -元帝-
 - 12回 前漢後期(2) -成帝-
 - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。
講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店.
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房.
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座4 地域と景観』古今書院.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念（1）：地域①（地域概念、等質地域と機能地域）
- 第3回 人文地理学の基礎概念（2）：景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念（3）：地域②（地域構造、認知地域）
- 第5回 人文地理学の基礎概念（4）：環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念（5）：分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学（1）：人口
- 第8回 人間と社会の地理学（2）：村落
- 第9回 人間と社会の地理学（3）：都市①（都市概念、都市化、都市システム）
- 第10回 人間と社会の地理学（4）：都市②（都市空間構造、都市変化）
- 第11回 産業と経済の地理学（1）：農業
- 第12回 産業と経済の地理学（2）：工業
- 第13回 産業と経済の地理学（3）：商業
- 第14回 産業と経済の地理学（4）：流通
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題：40点、学期中に実施する作業レポート：20点、期末レポート：40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが，授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は，次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので，出席に際しては，色鉛筆（12色程度），定規，電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。履修条件はありませんが，全体として作業量の多い講義ですので，その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に，よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については，講義中に説明をしますが，高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探索するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。
本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論[第2版]』朝倉書店.
山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II(人文・社会編)』, 朝倉書店.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。
6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが、授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は、次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。履修条件はありませんが、全体として作業量の多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが、大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については、講義中に説明をしますが、高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 /Instructor 棟形 康平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。	
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			日本国憲法	LAW120F

授業の概要 /Course Description

日本国憲法の基本的な考え方について概説する。
講義では、現実の政治や社会の諸問題にも触れつつ、日本国憲法が保障する人権の内容や統治機構の仕組みが理解できるように努める。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）2,530円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 内山奈月・南野森『憲法主義』（PHP研究所、2014年）
- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 憲法とは何か・立憲主義
- 第3回 違憲審査制
- 第4回 国民主権・民主主義
- 第5回 人権総論
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 思想良心の自由・信教の自由
- 第9回 表現の自由
- 第10回 経済的自由
- 第11回 国会
- 第12回 内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 憲法改正
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習・復習をする。
また、講義内容についてのノートを作成するなどして復習を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立憲主義、基本的人権、統治機構、国民主権、民主主義
SDG 5. ジェンダー平等、SDG 16. 平和と公正

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第5回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

メンタル・ヘルスI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み(課題の提出) 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題をMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔(オンデマンド)授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウエイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・ヘルスI
			HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...70% レポート...30%

4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅ですぐに運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回~7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回~9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回~11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回~13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
 4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・エクササイズII
			HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%
4回以上欠席した場合は評価不能(－)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション能力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活を爽りあるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%
※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。

⑤講義

⑥授業終了後、大福帳を提出する。

⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

キャリア・デザイン 【昼】

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会 (税込1,980円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな(自己表現)のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリューススコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームズ W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
最終レポート・・・30%
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
- <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

- <基本事項>
- ※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
- ※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- <履修者調整について>
- ※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。

例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ペンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%
毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%
最終レポート・・・30%
なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点
経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのか、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力
従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

- <授業の進め方>
- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
 - ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
 - ③第3回までにグループピングと挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
 - ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
 - ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
 - ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
 - ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体に実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇
- 第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング
- 第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力
- 第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング
- 第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション
- 第07回 教員への相談会
- 第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ
- 第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ
- 第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ
- 第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方
- 第13回 教員への相談会
- 第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講して下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良い市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能（-）とします。

また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能（-）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。

講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。

受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナリーシップ

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
			地域の文化と歴史
			HIS170F

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

なお、2022年度において本講義は遠隔(オンデマンド)授業での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期以降の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 12 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 13 回： 《文化》地域の文化財
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2021年度のゲストの所属組織例（2022年度も概ね同様の予定だが、変更となる可能性がある）（順不同）

《 北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など 》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す課題への取り組み状況）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 李 錦東 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域の社会と経済
			ECN170F

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、皆さんの出身地が北九州であってもその他の地域であっても、学生生活を過ごす北九州地域への理解を深め、また、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

■要注意!

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の社会と経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※講義の内容及び順番は、ゲストスピーカーの都合などにより変更しますので、あらかじめご理解ください。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：北九州の産業と40年周期説
- 第3回：統計からみる北九州の産業
- 第4回：地域の企業①【地元企業関係者等による説明】
- 第5回：地域の企業②【地元企業関係者等による説明】
- 第6回：地域の企業③【地元企業関係者等による説明】
- 第7回：地域の企業④【地元企業関係者等による説明】
- 第8回：地域の企業⑤【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の起業環境【NPO等の専門家による説明】
- 第10回：地域のコミュニティ【NPO等の専門家による説明】
- 第11回：地域の取り組み【市役所など行政関係者による説明】
- 第12回：地域の環境ビジネス【関連活動をしている関係者による説明】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：北九州市の人口と未来
- 第15回：まとめー住みたいまち 北九州 -

※地域の企業とは今後日程などの調整が必要です。ご参考までに、2021年度にご登壇していただいた企業(の方)は、次の通りです。①プレミアムホテル門司港総支配人、②極東ファティ㈱代表取締役社長、③ヤフージャパン株式会社 エリアリーダー、④クラウン製パン株式会社総務部、⑤株式会社井筒屋、⑥シャボン玉石けん株式会社社長、などです。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回)：100%

※ ショートレポートのが、授業や講演内容を反映していない・質問などの趣旨とは異なる・内容がチンプンカンプンでよくわからない(理解不能、未提出含む)などと評価された回数が、5回以上だと評価不能になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。平素より地域の現状と変化などについてアンテナを張って、本授業の事前・事後に情報収集に努めましょう。活字新聞、TV、インターネット等も有効に利用してください。また、授業中に興味を持った事項については、皆さんのキャリア形成や知見を広めるなどのために、各自調べて理解を深めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

※※ 授業計画及び内容は、ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容を変更しますので、予めご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの大学時代の4年間を過ごす「北九州」ですが、本科目『(北九州)地域の社会と経済』を受講することで、北九州に対する理解はもちろん、北九州地域への関心や愛着、愛郷心をもてるようになります。また、皆さんの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や知恵、刺激などを得ることができるよう。ゲストスピーカーは、地域や産業の第一線で活躍活躍している方が多く、彼らの話を聞くことで、皆さんが地域の現状と課題とビジョンを理解し、地域に密着した人材として、地域での活躍ができる切っ掛けやステップを見つけることにつながります。私は、皆さんが大学を卒業した後、4年間過ごしたまちについて、愛着をもって語れる人になってほしいと思っています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域のにぎわいづくり RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を理解し、自らの考えをまとめ、考察すること等を通じ、地域への理解を深め、にぎわいづくりに関する視野を広げることを目指す。

2022年度においては、行政および地域の各種団体等の協力のもと、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

(実施方法について)

2022年度において本講義はメディア授業(遠隔授業)での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

全15回の授業のうち、2ないし3回はリアルタイムのライブ方式(同時双方向型)での実施を予定し、残りの回はオンデマンド方式での実施を予定している。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。詳細については第1回授業で説明する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関して論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
 ※第3回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり① 【地域社会活性化】
- 第 6回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり② 【地域経済活性化】
- 第 7回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 8回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
 ※第8回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第10回 《文化芸術》MICEによるにぎわいづくり
- 第11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第13回 《観光等》商業振興によるにぎわいづくり
- 第14回 《観光等》食を活かしたにぎわいづくり
- 第15回 企業の視点からみたにぎわいづくり

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
 ※ライブ方式(同時双方向型)の回を上記よりも1回増やして計3回とする可能性がある。第1回授業で説明する。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。

※参考：2021年度のゲストの所属組織の例(2022年度においては一部変更を行う)
 《北九州市役所(観光課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室、世界体操・新体操選手権推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州、福岡北九州フェニックス株式会社、毎日新聞》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す課題への取り組み状況)：100%
 ※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能(-)とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
 事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や企業・地域団体等でのにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			北九州市の都市政策
			PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

※2022年度はすべてメディア授業（オンデマンド方式）で実施します。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

北九州市の都市政策 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第3回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第4回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第5回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第6回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第7回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第8回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第9回 門司区のまちづくり【区政、門司港レトロ、観光】
- 第10回 地元就職【就職支援、UIJターン】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州工コタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

- ・欠席（毎回レポートの不提出を欠席とみなします）が5回以上の場合は、評価不能（-）とします。
- ・期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」(3年次)の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

- 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

まなびと企業研究I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%
レポートを7回以上提出しない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域(社会)貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。	
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。	
			まなびと企業研究II	CAR370F

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体を題材にしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。みんなと一緒に合同企業説明会に行つて進路を選ぶ時代は終わり、自分で進路を見出し、手繰り寄せる時代にすでに変わりました。

そして新型コロナウイルスの流行により、時代の変化は加速しました。コロナ禍における企業倒産は、資金繰り対策や持続化給付金、雇用調整助成金、特別定額給付金などの緊急政策によって抑制できたものの、対人接触業務が前提である「コロナ対人4業種」(宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業)においては、コロナ感染拡大時に採られた「接触7~8割削減」政策は「対人3割経済」となり、売上現状は止まらず、債務が膨大しています。なお「コロナ対人4業種」は地産地消型なので、地域内の他業種への影響も大きく、地域内の小売り・卸売りに携わる中小企業への影響も否定できません。その突破口となるのが、感染拡大予防に加え国民の福祉を向上させ、かつ新たな機会を生み出す「攻めと守りを両立」させた、暮らしや社会のデジタル化(DX)です。DXによって適切な情報提供・支援提供により安心して暮らせる生活を維持(守り)しながら、同時にDXによってピンチをチャンスと捉え新しいビジネスを創造(攻め)することが、ニューノーマル時代のビジネスの基本路線と言えるでしょう。同時に企業団体は、DXを提案できる力はもちろん、人間にしかできない質の高いコミュニケーションスキルや、答えのない課題に果敢に挑戦するマインド、そしてAIには思いつかない創造性を持つ大学生が求められ、逆にDXを提案する力を持たず、低いコミュニケーション能力や指示されたことしかできない低いマインド、本やネットに載っていることを真似ることしかできない大学生は、社会のどこからも求められないでしょう。

では今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用しつつ、様々な企業団体について可能な限りアクセスし、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手(企業団体)を知る」、さらに夏のインターシップなどに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習(Problem-based-Learning)です。
【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る(自己分析)、相手を知る(企業団体研究)、就職活動のプランを創る。
(到達目標) 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロルS.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トウエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 最終プレゼンテーション(企業団体研究成果発表会)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業のプレゼンテーション...39%

最終プレゼンテーション...28%

振り返りレポート...28%

最終レポート...5%

なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、レポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

3年生の場合は、就職活動のブラッシュアップとお考え下さい。4年生の場合は、就職活動中であればそのまま活用できる内容です。すでに内定をお持ちの場合は、残る大学時代をどう過ごすかについて考える機会にしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

英語I (比人1-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人1-F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (センゲージラーニング) (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: Shopping (動詞)
- 第3回 Unit 2: Daily Life (名詞)
- 第4回 Unit 3: Transportation (代名詞)
- 第5回 Unit 4: Jobs (形容詞と副詞)
- 第6回 Unit 5: Meals (時制)
- 第7回 Unit 6: Communication (受動態・分詞)
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / 腕試し
- 第9回 Unit 7: Fun (動名詞と不定詞)
- 第10回 Unit 8: Office Work (助動詞)
- 第11回 Unit 9: Meeting (比較)
- 第12回 Unit 10: Travel (前置詞)
- 第13回 Unit 11: Finance (接続詞)
- 第14回 Unit 12: Business (関係詞)
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

英語I (比人 1-F) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

英語I (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「450点」です。（このスコアは前年度を参考にして出しています）

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST

著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200 (税込み)

☆授業ではTOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

英語I (比人 1-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書以外の問題集に取り組むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語II (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ● 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 ● 英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。		
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「450点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

英語II (比人 1-F) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語II (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいいて、学初級レベルで、常活のニーズを充することができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く
- 3回 分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

英語II (比人 1-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回 の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語III (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

英語III (比人 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

英語Ⅲ (比人 1-G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 14 周目と 15 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語IV (比人 1-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

英語Ⅳ (比人 1-F) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
(b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
(c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
(d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
(e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 14 周目と 15 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語V (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7 978-4-906033-61-4
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

英語V (比人 2 - C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
指定 e-learning の学習状況: 20%
小テスト：10%
期末試験：50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中やMoodle上で指示をしますので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

英語V (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&Rテスト）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TEST パーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ￥2420(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Web Sites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8 978-4-906033-63-8
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2021.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
指定 e-learning の学習状況: 20%
小テスト：10%
期末試験：50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

英語VII (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Education 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Personal Stories 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Personal Stories 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Style and Fashion 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Style and Fashion 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Interesting Lives 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Interesting Lives 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Our World 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Our World 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Organizing your time [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語VII (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

英語VIII (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、リーディングセクションの英文を文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

教科書 /Textbooks

American Vibes: People, Places and Perspectives
著者：Todd Rucynski & Yoko Nakagawa
金星堂 (2,970円 [税込])
ISBN: 978-4-7647-4094-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 第2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 第3回 Chapter 2 Maine
- 第4回 Chapter 3 New York City 1
- 第5回 Chapter 4 New York City 2
- 第6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 第7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 第8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 第9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 第10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 第11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 第12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 第13回 Chapter 12 Arizona-- Grand Canyon, Route 66
- 第14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 第15回 Chapter 15 Seattle, Washington まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況、課題の提出状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

英語VIII (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1単位 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VIII	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

American Vibes People, Places and Perspectives 「映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点」 Todd Rucynski 他著 金星堂 ¥2970(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Chapter1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter2 Maine
- 4回 Chapter3 New York City 1
- 5回 Chapter4 New York City 2
- 6回 Chapter5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter8 Oswego, New York
- 10回 Chapter9 Austin, Texas
- 11回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15回 Chapter14 Los Angeles 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

※小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備

事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国济営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Mark D. Stafford, successful keys to the TOEIC listening and reading test 2, 桐原書店, 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Unit 1 Daily life
- 第 2 回 Unit 2 Places
- 第 3 回 Unit 3 People
- 第 4 回 Unit 4 Travel
- 第 5 回 Unit 5 Business
- 第 6 回 Unit 6 Office
- 第 7 回 Technology
- 第 8 回 Personnel
- 第 9 回 Management
- 第 1 0 回 Purchasing
- 第 1 1 回 Finances
- 第 1 2 回 Media
- 第 1 3 回 Entertainment
- 第 1 4 回 Health
- 第 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・90% 授業への取り組み・・・10%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、応用的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (文脈を考える①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (文脈を考える②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (文脈を考える③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (言語外の知識を利用する①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (言語外の知識を利用する②)
10回	聴解 (多様なアクセントに注目する①)	読解 (言語外の知識を利用する③)
11回	聴解 (多様なアクセントに注目する②)	読解 (言外の意味を捉える①)
12回	聴解 (多様なアクセントに注目する③)	読解 (言外の意味を捉える②)
13回	聴解 (多様なアクセントに注目する④)	読解 (言外の意味を捉える③)
14回	聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英中国济営比人律政 3 年 /English Law and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 X I
			ENG302F

授業の概要 /Course Description

This is a "deep thinking in English" class at the English XI level.
We will work together and enjoy conversations in English.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

ENGLISH XI is an "Active Learning" style course for English XI level students.
We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.
We will then assess each other and make our own videos.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

英語XIのレベルにあわせた動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。
英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語XI (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
(b) Chapter 2 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
(c) Chapter 3 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
(d) 試験(Final Essay) 25%
(e) *Active Learning努力点 (± 20%) の変動が加わります。

数式は $[(a+b+c+d)÷4] ±20%$ です。

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-)

*1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

*Active Learning努力点が ± 20%の「変動力」もあるので、Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔一対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語XIのレベルにあわせ、学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国济営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

教科書 /Textbooks

English Central (4 Month Academic Premium)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Case Study 1 - and discussion in class [Speaking, Skills] [Writing Skills]
- 第 3 回: Case Study 2 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 4 回: Case Study 3 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 5 回: Student Presentations (1) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 6 回: Case Study 4 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 7 回: Case Study 5 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 8 回: Case Study 6 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 9 回: Case Study 7 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 10 回: Student Presentations (2) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 11 回: Case Study 8 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 12 回: Case Study 9 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 13 回: Case Study 10 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 14 回: Case Study 11 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 15 回: Student Presentations (3) [Group Presentation] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Topic based discussion and writing

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やししながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

中国語II (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | ポイント説明 |
| 2回 | 第九課 | 宮島と下関(本文) |
| 3回 | 第十課 | ポイント説明 |
| 4回 | 第十課 | 九州(本文) |
| 5回 | 第十一課 | ポイント説明 |
| 6回 | 第十一課 | 福岡(本文) |
| 7回 | 第十二課 | ポイント説明 |
| 8回 | 第十二課 | 佐賀(本文) |
| 9回 | 第十三課 | ポイント説明 |
| 10回 | 第十三課 | 長崎(本文) |
| 11回 | 第十四課 | ポイント説明 |
| 12回 | 第十四課 | 四国(本文) |
| 13回 | 第十五課 | ポイント説明 |
| 14回 | 第十五課 | 仙台と北海道(本文) |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | 宮島と下関(会話) |
| 2回 | 第九課 | 練習 |
| 3回 | 第十課 | 九州(会話) |
| 4回 | 第十課 | 練習 |
| 5回 | 第十一課 | 福岡(会話) |
| 6回 | 第十一課 | 練習 |
| 7回 | 第十二課 | 佐賀(会話) |
| 8回 | 第十二課 | 練習 |
| 9回 | 第十三課 | 長崎(会話) |
| 10回 | 第十三課 | 練習 |
| 11回 | 第十四課 | 四国(会話) |
| 12回 | 第十四課 | 練習 |
| 13回 | 第十五課 | 仙台と北海道(会話) |
| 14回 | 第十五課 | 練習 |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

- 第1回 授業説明、基礎復習
- 第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習
- 第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習
- 第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習
- 第8回 場面の体験1
- 第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習
- 第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習
- 第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第14回 第6課② 読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%
※ 5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、
評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 翻訳力 作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

到達目標）
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業時に説明する。（前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する予定。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期	
第1回	第7課① 文法、翻訳、聴解練習
第2回	第7課② 会話、リスニング、作文練習
第3回	第8課① 文法、翻訳、聴解練習
第4回	第8課② 会話、リスニング、作文練習
第5回	場面の体験1
第6回	第9課① 文法、翻訳、聴解練習
第7回	第9課② 会話、リスニング、作文練習
第8回	第10課① 文法、翻訳、聴解練習
第9回	第10課② 会話、リスニング、作文練習
第10回	場面の体験2
第11回	第11課① 文法、翻訳、聴解練習
第12回	第11課② 会話、リスニング、作文練習
第13回	第12課① 文法、翻訳、聴解練習
第14回	第12課② 会話、リスニング、作文練習
第15回	場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%
 ※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、
 評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
 欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、初級、中級を一通り終えた学習者が、さらに中国人に問いかけ、自由に話し合い、そして纏まった表現で自分の意志を話せるように図る。

授業内容は、日本を舞台にした、極めて身近な材料を取り上げ、自分のことから、家族、そして周囲の人への話題を広めていく。

講義の進み方

一課を二回に分けて進む。

一回目、必要な単語や文法表現を説明し、本文の音読練習と一問一答(ピンインなしの会話文を用いる)の形で日本語文意の確認を行う。

二回目、参考文の音読練習、と日本語文意を確認し、「自由会話」に挙げられたタイトルの一つを選び、発表する。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

教科書：『中国語実習コース』白水社

著作者：張 乃方

出版日：2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ガイダンスで説明を行う。

上級中国語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回
授業ガイダンス
1学習内容の説明
2成績判定基準の説明
3中国語能力確認「自己紹介」
- 第二回
第一課「自己紹介」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第三回
第一課「自己紹介」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第四回
第二課「家庭」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第五回
第二課「家庭」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第六回
第三課「父母」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第七回
第三課「父母」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第八回
第四課「友達」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第九回
第四課「友達」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十回
第五課「居住」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十一回
第五課「居住」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十二回
第六課「通勤通学」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十三回
第六課「通勤通学」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十四回
第七課「飲み物」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十五回
第七課「飲み物」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 平常点50% (日常の授業への取り組み10%、課題の成績40%)

成績評価の方法 /Assessment Method

2 定期試験50%
ただし、通期で遠隔授業を行う場合、また、対面試験を行う条件に満たさない場合、最終成績評価は平常点に基づいて算出する。

評価不能の基準について

- 1、5回以上無断欠席する場合（5回を含む）
- 2、期末試験に無断欠席する場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 事前学習：新出単語や会話文を勉強する前に、本文音源を聞き、出来るだけ真似して発声練習する。
- 2 事後学習：配る練習プリントやテキスト練習問題を用い、授業にて学習した知識をこまめに復習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する情報や中国人に関することに、より関心を持つようになるのは望ましい。

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、初級、中級を一通り終えた学習者が、さらに中国人に問いかけ、自由に話し合い、そして纏まった表現で自分の意志を話せるように図る。

授業内容は、日本を舞台にした、極めて身近な材料を取り上げ、自分のことから、家族、そして周囲の人への話題を広めていく。

講義の進み方

一課を二回に分けて進む。

一回目、必要な単語や文法表現を説明し、本文の音読練習と一問一答(ピンインなしの会話文を用いる)の形で日本語文意の確認を行う。

二回目、参考文の音読練習、と日本語文意を確認し、「自由会話」に挙げられたタイトルの一つを選び、発表する。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

教科書：『中国語実習コース』白水社

著作者：張 乃方

出版日：2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ガイダンスで説明する。

上級中国語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回
後期授業ガイダンス
第八課「休日」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第二回
第八課「休日」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第三回
第九課「送り迎え-電話の会話」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第四回
第九課「送り迎え-電話の会話」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第五回
第十課「病気」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第六回
第十課「病気」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第七回
第十一課「入院」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第八回
第十一課「入院」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第九回
第十二課「旅行」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十回
第十二課「旅行」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十一回
第十三課「手紙」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十二回
第十三課「手紙」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十三回
第十四課「ローン」
1語彙学習
2本文音読練習、日本語文意確認、聴解問題練習
- 第十四回
第十四課「ローン」
1参考文の音読練習、日本語文意確認
2決めたタイトルで会話発表
- 第十五回
総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 平常点50% (日常の授業への取り組み10%、課題の成績40%)
 - 2 定期試験50%
- ただし、通期で遠隔授業を行う場合、また、対面試験を行う条件に満たさない場合、最終成績評価は平常点に基づいて算出する。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価不能の基準について

- 1、5回以上無断欠席する場合（5回を含む）
- 2、期末試験に無断欠席する場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 事前学習：新出単語や会話文を勉強する前に、本文音源を聞き、出来るだけ真似して発声練習する。
- 2 事後学習：配る練習プリントやテキスト練習問題を用い、授業にて学習した知識をこまめに復習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する情報や中国人に関することに、より関心を持つようになるのは望ましい。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語IIIと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭 『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年。2500円+税。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど】
- 13回 かしこまった丁寧形 用言活用の仕組み
- 14回 数詞のまとめ 【漢字語数詞、固有語数詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%) 日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題 (50%)

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

朝鮮語I (1 - c) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の手も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。

受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。

また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】

朝鮮語の語彙や文法を学び自己紹介、簡単な挨拶表現や簡単な文章を読んで理解できることを目標としています。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、朝鮮語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字
- 2回 基本母音字のドリル、基本子音字の練習、音節と単語読み
- 3回 激音と濃音
- 4回 複合母音
- 5回 ハングルの終声(パッチム)
- 6回 発音変化
- 7回 ハングル表記法及び話してみましよう。
- 8回 第11課 大学生ですか？
- 9回 第12課 会社員ではありません。
- 10回 第13課 どこで学びますか。
- 11回 11～13課までの復習
- 12回 第14課 暑くありませんか。
- 13回 第15課 誕生日はいつですか。
- 14回 14～15課までの復習
- 15回 助詞のまとめ及び総復習

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験 : 50%
 - ・ 日常の授業への取り組み : 40% (小テスト4回)
 - ・ レポート : 10%
- ※成績評価の対象としない場合(評価不能)について
- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
 - ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 予習 : 次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。
- ①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。
- ②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。
- 復習 : 以下の①~③について計60分程度の復習を行うこと
- ①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。
- ②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。
- ③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 奈良 美香 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（叢基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Iで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの学習内容確認、復習
- 2回 用言の否定表現
- 3回 丁寧形Ⅰ、エヨ・イエヨ・アエヨ。
- 4回 漢字語・固有語固数字【誕生日】【年齢】【時刻】
- 5回 助詞のまとめ
- 6回 丁寧形2 - 1【打ち解けた丁寧形】
- 7回 丁寧形2 - 2【打ち解けた丁寧形】ドリル
- 8回 尊敬表現1【用言】
- 9回 尊敬表現2【特殊な尊敬語、名詞、助詞】
- 10回 尊敬表現敬3【数字と敬語を使った場面会話練習】
- 11回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】
- 12回 過去形のドリル【日記作成】
- 13回 好みを尋ね合う【注文場面の会話練習】
- 14回 希望・勧誘・提案表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題(50%)
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回する予定の練習問題をノートに予習すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。

受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。

また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですが。
- 13回 24課 市庁から近いですが。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習小テスト
- 15回 総まとめ

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点（小テスト4回）
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合（評価不能（-））について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能（-）とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解の第一歩として、朝鮮語の基礎力・基礎知識を習得することを目標に、講義を進める。朝鮮語学習の初級段階において最も重要な発音の訓練に重点を置き、ハングル文字について解説する。発音や文字に慣れる作業と並行して、基礎的な語彙・文法、簡単な挨拶文や会話表現を紹介する。授業においては毎回、発音練習を課す。また基礎的な語彙や文章表現の暗誦・作文などを課す。
・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。その他、授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠 (2007) 『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』 白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化の紹介【映像資料】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【自己紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点：20%、小テスト(3回)：30%、課題(2回)：20%、発表(1回)：10%、期末テスト：20%
- ・授業時間数の3分の2以上を出席していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

履修上の注意 /Remarks

関連の講義を幅広く受講することにより、朝鮮語スキルのより高いレベルを目指すことができます。

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滌珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【かしまった「です・ます」体の作り方】
- 11回 韓国文化紹介【映画鑑賞】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 13回 家族紹介【存在詞を使ってペアで質問と応答】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで趣味・専攻などを質問と応答】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、平常の学習状況+小テスト(2回)+課題(50%)。
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていきますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・ 40% レポートや課題・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲの履修を受け、朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解のために、朝鮮語の基礎力・基礎知識を学習する。授業内容は、朝鮮語Ⅲをステップアップした内容で、ハングル表記をマスターする。応用的な語彙・文法を習得し、少し長めの文章・平易な会話表現などを習得することを目標とする。

・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠 (2007) 『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』 白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形 1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞 1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字 1【【おいからですか】【買い物】
- 3回 助詞 2、漢数字 2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形 2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形 2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字 1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字 2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ペアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 グループ発表(会話)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点：20%、小テスト(3回)：30%、課題(2回)：20%、発表(1回)：10%、期末テスト：20%
- ・授業時間数の3分の2以上を出席していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

朝鮮語Ⅳ(1 - a) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

関連の朝鮮語授業を並行して受講することによって復習効果が得られるとともに、朝鮮語のコミュニケーション能力を向上させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何 / どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、助詞と疑問詞のまとめ復習
- 2回 うちとけた「です・ます」体(해요体)の作り方
- 3回 月日の言い方【何曜日・何月何日】【韓国の記念日】
- 4回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 5回 【僕の一週間の予定】発表
- 6回 不規則な「해요体」
- 7回 動詞・形容詞の否定文、行為目的表現【～しに行く・来る】
- 8回 好き・嫌いを尋ね合う、場所の単語を覚える
- 9回 韓国文化紹介【言語表現・しぐさ】
- 10回 過去形のドリル
- 11回 希望表現【日記作成・発表】
- 12回 反対語・関連語で単語を覚える練習
- 13回 予定・推測表現
- 14回 理由や根拠、動作の進行・状態を表す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 50%、日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題... 50%。

5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 変則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 変則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄹ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄹ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄹ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション（韓国語で自己紹介を含む）
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ... 50%
5回以上欠席した場合、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)르까요?, -(으)르 것 같다】
- 4回 . 作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回 . 読解【宿泊先の予約】
- 6回 . 聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로, 밖에】
- 7回 . 作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回 . 韓国の観光事情について話し合う
- 9回 . 読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回 . 聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다(가)】
- 11回 . 作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回 . 読解【終了式】
- 13回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)는지, -(으)르 게요】
- 14回 . 作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『Enjoy!! 韓国の文化と言語』(自主制作出版物により、授業時に案内)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 第1課 ビビンバが美味しい理由
- 第4回目 会話に役立つ文法①
- 第5回目 フリートーク①
- 第6回目 第2課 韓服と着物
- 第7回目 会話に役立つ文法②
- 第8回目 フリートーク②
- 第9回目 ドラマで学ぶ韓国の社会と文化
- 第10回目 第3課 便利なマンション暮らし
- 第11回目 会話に役立つ文法③
- 第12回目 フリートーク③
- 第13回目 第4課 いつでもどこでもデリバリー
- 第14回目 会話に役立つ文法④
- 第15回目 フリートーク④ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 60% 期末レポート... 40%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

フリートーキングや発表を多く取り入れます。間違いを恐れずに、積極的に取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『Enjoy!! 韓国の文化と言語』(自主制作出版物により、授業時に案内)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 第5課 恋愛と結婚
- 第4回目 会話に役立つ文法①
- 第5回目 フリートーキング①
- 第6回目 第6課 「オッパ」ってお兄さん？彼氏？
- 第7回目 会話に役立つ文法②
- 第8回目 フリートーキング②
- 第9回目 ドラマで学ぶ韓国の社会と文化
- 第10回目 第7課 スキンシップを好む韓国人
- 第11回目 会話に役立つ文法③
- 第12回目 フリートーキング③
- 第13回目 第8課 「みんな一緒に」と「おひとりさま」
- 第14回目 会話に役立つ文法④
- 第15回目 フリートーキング④ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 60% 期末試験... 40%

※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

フリートーキングや発表を多く取り入れます。間違いを恐れずに、積極的に取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業を実施することを前提に作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アップファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

ドイツ語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 ドイツ語Iのまとめと補足

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

- ・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。
- 1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
- 2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
- 今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
- ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。ただし、毎時間必ず出席してください。遠隔授業では毎週 Moodle を参照してください。担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方を表す表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 ドイツ語IIのまとめと補足

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。

1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

ドイツ語II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提して行われます。
受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。
遠隔授業では、毎週 Moodle を参照してください。
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。
Was ist dein Vater von Beruf?
Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。
Was hast du am Wochenende gemacht?
Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。

Was isst du zu Mittag?

Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスツッキーの作り方。
- 15回 まとめ

ドイツ語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいは映像を使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ

東海麻衣子、ジャン＝ガブリエル サントニ 著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる(2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11~20
- 9回 家族について語る、ジャパ・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパ・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ
東海麻衣子 ジャン＝ガブリエル サントニ著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

松村博史他『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
 - 第4回：強制形、
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
 - 第6回：代名動詞の複合過去
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
 - 第10回：前未来
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

フランス語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
VIではLe petit prince (『星の王子さま』) のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

フランス語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰(前半)
- 2) unité 6：誰(後半)
- 3) unité 6：誰(総括)、リスニング
- 4) unité 7：何(前半)
- 5) unité 7：何(後半)
- 6) unité 7：何(総括)、小テスト
- 7) unité 8：どのように(前半)
- 8) unité 8：どのように(後半)
- 9) unité 8：どのように(総括)、読解
- 10) unité 9：過去について(前半)
- 11) unité 9：過去について(後半)
- 12) unité 9：過去について(総括)、小テスト
- 13) unité 10：仮定、条件(前半)
- 14) unité 10：仮定、条件(後半)
- 15) 後期の復習、プレゼンテーション

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語を初めて学ぶ学生が対象の授業です。文法事項を中心に練習問題や会話文、文化紹介も扱うテキストを使用し、基礎的なスペイン語文法を学習します。授業で新しく学ぶ内容は次週の学習内容のベースとなり、その繰り返しでスペイン語を身につけていきます。そのため復習と予習を毎週しっかりと行って下さい。授業ではスペイン語圏の文化についても紹介する予定です。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピゲータ 一実りのスペイン語I』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※初版は2017年ですが、今年改訂版が発行されています。授業では2022年の改訂版を使うので、購入時にしっかり確認して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を必ず準備して下さい。ただ詳細は初回授業で説明しますので、購入はその後で大丈夫です。

iPhoneやiPadの使用者には「辞書by物書堂」というアプリをお勧めします。アプリ内ストアで、小学館の『西和中辞典』と『和西辞典』がセットになった辞書コンテンツ「小学館 西和中辞典・和西辞典」を買うことができます。Android用としてはLogoVista提供のアプリに白水社『現代スペイン語辞典・和西辞典 改訂版』があります。

代表的な中型辞書として小学館『西和中辞典』、白水社『現代スペイン語辞典』、研究者『プエルタ新スペイン語辞典』、三省堂『クラウン西和辞典』などがあります。小型辞書は小学館『プログレッシブ スペイン語辞典<第2版>カレッジエディション』、『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』、三省堂『デイリーコンサイズ 西和・和西辞典』などがあります。書店や生協で購入可能です。

電子辞書の使用者には、スペイン語辞書の追加コンテンツもあります。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、文字と発音
- 第2回 音節分け、アクセント
- 第3回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第4回 主格人称代名詞、ser動詞、文の構造
- 第5回 指示語、estar動詞
- 第6回 小テスト1 (1 ~ 3 課)、形容詞、hay
- 第7回 現在形規則活用
- 第8回 規則活用の練習、日付、時間
- 第9回 現在形不規則活用 (語幹母音変化)
- 第10回 直接目的格人称代名詞、muyとmucho
- 第11回 小テスト2 (4 ~ 6 課)、現在形不規則活用 (yo不規則、複合型)
- 第12回 現在形不規則活用 (その他)、間接目的格人称代名詞
- 第13回 gustar型動詞、前置詞格人称代名詞
- 第14回 gustar型動詞の練習、天候
- 第15回 小テスト3 (7・8 課)、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(3回)30%
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト (<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語という新しい言語との出会いを楽しみましょう。そのために授業ではスペイン語を使う上での基本ルール (= 文法) を覚えていきます。音楽や映画、書籍、絵画、料理、スポーツなど様々なテーマでスペイン語圏の文化に積極的に触れてみましょう。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

1学期の「スペイン語Ⅰ」に引き続き、初級文法の学習を進めます。現在形の再帰動詞及び過去形と完了形を中心に扱います。未来形や接続法も導入することにより、修了後の更なる学習へ繋がるレベルを目指します。スペイン語圏の文化やニュースについても紹介します。(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギータ 一実りのスペイン語Ⅰ』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※1学期「スペイン語Ⅰ」と同じテキストの続きを扱います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期で用意した辞書を引き続き使います。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習、再帰動詞
- 第2回 無人称文、接続詞que
- 第3回 点過去形規則活用
- 第4回 点過去形規則活用の練習
- 第5回 小テスト1(9・10課)、点過去形不規則活用
- 第6回 点過去形不規則活用の練習、関係代名詞que、所有形容詞後置形
- 第7回 小テスト2(10・11課)、点過去形の練習
- 第8回 現在分詞、不定語・否定語
- 第9回 過去分詞、現在完了形、受動態
- 第10回 小テスト3(12・13課)、比較級
- 第11回 最上級、関係副詞donde
- 第12回 線過去形、過去形の使い分け
- 第13回 小テスト4(14・15課)、過去形の練習、未来形の紹介
- 第14回 過去未来形・命令形・接続法の紹介
- 第15回 2学期の総復習、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(4回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト

(<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>)やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「スペイン語II」では過去形や完了形など現在形以外の時制も学びます。辞書にも慣れ表現できることの幅が広がるだけでなく、好きな曲の歌詞が理解できるようになったり、憧れのスポーツ選手のプロフィールやインタビューが読めるようになったりします。覚えることはたくさんありますが、自分の「好き」をスペイン語で楽しむ体験を積み重ねていって欲しいと思います。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はともすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

スペイン語Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国营放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスはどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課～9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVスペイン語辞典（小学館）
 級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナウイルスの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ（題材未定）を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)

新スペイン語 (研究社)

現代スペイン語辞典 (白水社)

プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)

パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)

クラウン和西辞典 (三省堂)

その他

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)

スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)

スペイン (増田監修: 新潮社)

スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)

スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)

スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)

スペイン語基礎文法 (ロボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について: 全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能: 定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集しており、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際になにがしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』（1学期と同じものを使用）中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際になにがしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 %
ポートフォリオ評価 ... 50 % (自己評価30%/ピア評価20%)

- ・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 期末テスト...30%
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題はMoodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...50%
ポートフォリオ評価 ...50%(自己評価...30% ピア評価...20%)

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。
(到達目標)
・ 大学生活での学び方を理解し、資料を分析し、発信するなど主体的に学ぶためのスキルを身につけている
・ 仲間と協働し、コミュニケーションし課題解決できる
・ 「論理的思考力」をもとに、自分の意見や主張を相手に伝えることができる

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	論理的思考力(1)リストアップ・マッピング
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	論理的思考力(2)イラストを見て考える
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(3)表・グラフの内容を読み取る
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	論理的思考力(4)マッピングしながら読む
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	論理的思考力(5)登場人物になったつもりで読む
7回	スタディスキル(6)表・グラフを描いてみよう	論理的思考力(6)どちらがいいか考えながら読む
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	論理的思考力(7)理由を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	論理的思考力(8)意味を考えて読んでみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	論理的思考力(9)イラストを見て書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	論理的思考力(10)定義を試してみる
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう(テーマ決め・準備)	論理的思考力(11)理由を考えて書いてみる 1
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう(レジュメ作成・準備)	論理的思考力(12)理由を考えて書いてみる 2
14回	スタディスキル(13)発表をやってみよう(発表と自己評価)	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう(評価)	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておく。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考える。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

日本語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(－)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学に必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

(到達目標)

- ・書かれている内容をさまざまな角度から検討し、批判的に読むことができる
- ・書き手の思考の筋道を追いながら問題を探し出し、明確な問いを立て、文章を吟味しながら読む技術を身につけている
- ・自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞きながら仲間と協働的に学ぶことができる

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版) ¥1,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ:日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み(課題を含む)...60%

- ・三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進める。事後学習としては、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなう。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいください。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング 批判的読み メタ・コンテンツ 全体把握 言語タスク 認知タスク

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

・授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

・ 授業への3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、「境目」「母性」と「父性」の間をゆれる」「ことばと文化を結ぶために」の3つの読み物を題材とする。これらの題材を、各自の考えをまとめるためのリソースや共通の土台としながら、クラス内で議論していく。最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

(到達目標)

- ・ 複数のリソースをもとに、自分自身の考えをつくっていくことができる
- ・ クラス内での対話を通して自分の考えをつかみ、相手にわかるように表現できる
- ・ 文化に対する問題意識や価値観を認識し、自分の考えをレポートとしてまとめる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

- ・ 三分の一の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めておく。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換 対話

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国の現状と比較しながら自分たちの問題として考えていく。

各テーマやトピックについて主体的に学び、知識を得ることで自分自身の考えや意見を持つ。また、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(到達目標)

- ・ 幅広い分野から日本について知る
- ・ 様々なテーマについて主体的に学び、自分自身の意見を持つ
- ・ クラスで意見交換することで、分析能力やコミュニケーション能力を身につける

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異文化を理解する①」(概要・事例・理解)
- 3回 「異文化を理解する②」(比較・考える・表現する)
- 4回 「多文化共生社会①」(概要・事例・理解)
- 5回 「多文化共生社会②」(比較・考える・表現する)
- 6回 「コロナ社会①」(概要・事例・理解)
- 7回 「コロナ社会②」(比較・考える・表現する)
- 8回 「就職活動①」(概要・事例・理解)
- 9回 「就職活動②」(比較・考える・表現する)
- 10回 「日本社会と子ども①」(概要・事例・理解)
- 11回 「日本社会と子ども②」(比較・考える・表現する)
- 12回 「無縁社会①」(概要・事例・理解)
- 13回 「無縁社会②」(比較・考える・表現する)
- 14回 「発表」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% 授業への取り組み・発表...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (-) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマについて調べ、自分の考えをまとめてくること。
事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしておく。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業であるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められる。必ず初回のオリエンテーションには参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいってください。

キーワード /Keywords

文化 社会 多様性 課題 分析

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清藤 隆春 / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

認知心理学【昼】

担当者名 松本 亜紀 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間の認知過程における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の諸問題について人間の認知過程の視点から分析・検討ができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間の諸問題について人間の認知過程の観点から主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

認知心理学

PSY242M

授業の概要 /Course Description

われわれは、目や耳などの感覚器官を通して多くの情報を同時に受け取って処理している。認知心理学では、人間をコンピューターと同様な一つの情報処理システムとして捉える。われわれが外界から受け取った情報は、符号化、貯蔵される。貯蔵された情報は必要に応じて検索され、新しく受け取った情報との比較が行われる。このような一連の情報処理過程を認知過程という。
本講義では、人間の認知過程に関わる基礎領域として「視覚認知」、「注意」、「記憶」を講義する。その上で、より高次の認知過程である「感情」、「知識」、「問題解決」、「意思決定」について解説する。

(到達目標)

【知識】人間の認知過程における基礎的専門的知識を体系的かつ総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 認知心理学 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋(編)(2010)有斐閣
- 認知と思考の心理学 松尾太加志(編)(2018)サイエンス社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、認知心理学とは何か
2. 認知心理学の歴史
3. 注意 その1【注意とは何か、注意の種類】
4. 注意 その2【注意の理論】
5. 注意 その3【視覚的注意】
6. 注意 その4【パターン認知】
7. 注意 その5【注意の反応抑制】
8. 記憶 その1【記憶の過程、感覚記憶】
9. 記憶 その2【短期記憶、長期記憶】
10. 記憶 その3【忘却の理論】
11. 記憶 その4【長期記憶の分類】
12. 問題解決 その1【問題解決の手段、問題解決を阻むもの】
13. 問題解決 その2【推論】
14. 認知と感情
15. まとめ

認知心理学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%
授業内レポート 20%
授業外レポート 10%

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

最初の授業時間に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 社会心理学の観点から諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 社会の諸問題を社会心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会心理学

PSY210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会心理学における幅広い分野の研究を紹介していく予定である。基礎的な知識を学んでもらうと同時に、より深い社会心理学的な問題に興味をもってもらいたい。

到達目標は、社会におけるさまざまな問題が社会心理学的な問題と関わっていることを理解できること、また、社会心理学の基礎的な理論と用語を説明できること、さらに、講義内容をさらに深める発展的学習が自主的に行えるようになることである。

DP 1 知識

社会心理学における代表的研究の内容と概念を正しく理解している。

DP 3 思考・判断・表現力

理解した知識を用いて現実社会の事柄に関連させて思考することができる。

教科書 /Textbooks

「社会心理学のストーリー」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	社会的推論
第3回	対人距離と他者の存在意義
第4回	対人葛藤と共感
第5回	自己意識, 自己概念
第6回	自己評価, 自尊心
第7回	集団の定義, 集団力学
第8回	自己と集団の関わり
第9回	集団間関係
第10回	個人的アイデンティティと社会的アイデンティティ
第11回	偏見, 同調, 服従
第12回	自己に関する矛盾と統合
第13回	現代社会における自己, 大衆社会化, 都市化
第14回	社会心理学の方法論
第15回	社会心理学のまとめ, 小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%
評価材料となる小テストを1回も受けなかった場合は原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

社会心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

(到達目標)

DP1 知識

対人心理学における代表的研究の内容と概念を正しく理解している。

DP3 思考・判断・表現力

理解した知識を用いて現実社会の事柄に関連させて思考することができる。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人認知
第3回	ステレオタイプ
第4回	帰属過程
第5回	社会的態度
第6回	対人魅力
第7回	対人関係の発展と崩壊
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	攻撃と援助
第14回	現代社会における対人心理の諸問題
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度)… 100%
評価材料となる小テストを1回も受けなかった場合は原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

対人心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズムや発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

到達目標

【知識】臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か【発達課題】
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編【発達障害】
- 第4回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第6回 児童期の発達課題と不適応：理論編【箱庭療法】【勤勉性】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】
- 第8回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：事例編【同一性拡散】
- 第10回 中年期の発達課題と不適応：理論編【世代性】【中年期心性】
- 第11回 中年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第12回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：事例編【回想法】
- 第14回 まとめ(その1)：発達課題から見た不適応について
- 第15回 まとめ(その2)：発達課題から見た不適応の援助について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% まとめの課題 ... 50%

6回以上欠席した場合や、レポートやまとめの課題を未提出の場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、事例の概要をまとめて提出する。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことが望ましい。

臨床心理学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	カウンセリングについての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	カウンセリングに関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

カウンセリング論

PSY232M

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理カウンセリングに関する基礎的知識の習得を目指す。カウンセラーとクライアントとの二者関係で成立する心理カウンセリングにおいて、カウンセラーとクライアントはそれぞれどのような役割を担いながら、カウンセリングを進めていくのかについて、カウンセリングの事例や逐語録等を手掛かりとして分析的に解明し、その実態を明らかにする。
なお、教員が提示するテーマや質問について小集団で討論を行い、討論された内容を全体に返して論点の整理を行いながら最適解を導き出すアクティブ・ラーニングの手法によって授業を進めていく予定である。

到達目標

【知識】カウンセリングに関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理カウンセリングとは何か
- 第2回 カウンセラーの役割について(1)【ラポール】【受容的態度】
- 第3回 カウンセラーの役割について(2)【感情の反射】【傾聴】
- 第4回 カウンセラーの役割について(3)【感情の明確化】【共感的理解】
- 第5回 クライアントの役割について【自己内省】【自己受容】
- 第6回 カウンセリングの実際【援助的技法】【ノンバーバル・コミュニケーション】
- 第7回 カウンセリングのプロセス【主訴】【中断・終結】
- 第8回 心理カウンセリングの流派(1)【精神分析】【洞察】
- 第9回 心理カウンセリングの流派(2)【行動療法】【系統的脱感作法】
- 第10回 心理カウンセリングの流派(3)【認知療法】【認知の歪み】
- 第11回 心理カウンセリングの流派(4)【マインドフルネス】【うつ】
- 第12回 心理カウンセリングの流派(5)【回想法】【進路選択】
- 第13回 心理アセスメント【受理面接】【治療契約】
- 第14回 カウンセリングの実際：心理臨床家による講演
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回) ... 80% 平素の成績 ... 20%

レポートすべてを未提出の場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布した資料等をもとに授業内容を振り返り、整理しておくこと。

カウンセリング論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

学習心理学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	学習心理学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学における学習の視点から社会の諸問題を捉え分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	心理学における学習の観点から社会の諸問題について主体的に学習する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

学習心理学

PSY221M

授業の概要 /Course Description

到達目標：学習心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

学習(learning)に関する心理学的アプローチについて概説する。特に、学習意欲、学習行動の基礎理論、知識と問題解決、教育との関連、学習の評価といった問題について、具体例を交えながら講義する。

(到達目標)

【知識】学習心理学に関する基礎的な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 授業のすすめ方について、意欲の問題 【意欲】
- 2回 内発的動機づけと外発的動機づけ 【動機づけ】
- 3回 行動主義における学習の定義 【行動】
- 4回 認知主義における学習の定義 【認知】
- 5回 状況主義における学習の定義 【状況】
- 6回 学習における知識と表象 【知識】
- 7回 問題解決と学習 【問題解決】
- 8回 教育における教授と学習の問題 【教育】
- 9回 学習における個人差 【個人差】
- 10回 記憶と学習 【記憶】
- 11回 知能と学習 【知能】
- 12回 発見学習と仮説実験授業 【仮説】
- 13回 学習と評価 【評価】
- 14回 自己学習 【セルフ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出... 50% テスト... 50%。

課題が未提出、テストが未受験の場合は評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。

事後学習としては、課題の作成が必要である。

学習心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習心理学の実験を体験し実験データの処理を通して心理学における学習について学びを深めます。

キーワード /Keywords

行動 学習 行動科学 心理学 認知 思考

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

発達心理学【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房
¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

発達心理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霜山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国、日本の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。東洋の人間観に立脚する独創的な学説にふれることにより他文化の心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルス(心の健康)にも興味を持つことを期待したい。また個人の心理の健康は個人だけでは達成できない、ソーシャルヘルス(社会的健康)やSDGs(持続可能な開発目標)にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康(SDGs 3)や平和と暴力(SDGs 16)にも触れたい。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書
「神経質の本態と療法」 森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論【エリクソンの発達理論】
- 3回 心理療法の歴史【フロイト・ユング・アドラー・森田正馬】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, 森田の心理学【東洋的人間観】
- 5回 アドラー心理学について1【ライフスタイル】【共同体感覚】
- 6回 アドラー心理学について2【劣等感】【感情道具論】
- 7回 森田療法とその主要理論【あるがまま】【生の欲望】
- 8回から10回 森田療法とその基礎理論【感情の法則】【目的本位】【精神交互作用】
- 11回から13回 森田療法の実際(不安とうつを治す)【とらわれ】【セルフヘルプグループ】
- 14回 認知行動療法について【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理的な負荷を感じて追い詰められている人が増えている。特にここ2・3年はコロナ禍のもとさまざまな精神疾患を発症した人が増えている。その原因はいろいろと考えられるが「心理的な負荷が極度に高い出来事」が最多である。日頃から自分の周りに観られる心理的な負荷に関する事案を意識して生活してほしい。さらに学習した内容や心構えを生活の中で実践して方法や考え方を体得するよう望みたい。

心理療法論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」「アドラー心理学」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理療法における「感情」に関する認識を深めるようにしてもらいたい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。
森田療法、アドラー心理学、に強い関連がある。

心理統計【昼】

担当者名 /Instructor 山本 健太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学の実験や調査等から得られたデータの統計的分析に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	統計学的な視点から諸問題を的確に分析・解決していくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	統計的手法によって所与の問題についての検討を主体的に学習する。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理統計

PSY240M

授業の概要 /Course Description

心理学は、実証的な根拠に基づいてこころの仕組みを理解しようとする学問である。そのため、実験や調査を通してデータを収集し、適切な統計的手法を用いて結果を解析できる能力が必要とされる。
この授業では、心理学における統計概念の理解と実践への応用を目指し、統計手法の基礎的理論とその活用方法について、分析ソフトによる演習を交えながら解説を行う。

(到達目標)

【知識】心理学の実験や調査等から得られたデータの統計的分析に関する基礎的知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小宮 あすか・布井 雅人 『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 講談社 2018年
南風原朝和 『心理統計学の基礎』 有斐閣アルマ 2002年
吉田寿夫 『本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房 1998年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 統計の基礎
- 2 回 エクセルを用いたデータの整理
- 3 回 量的変数の関係の分析
- 4 回 質的変数の関係の分析
- 5 回 統計的仮説検定の考え方
- 6 回 平均値の差の検定【t検定】
- 7 回 平均値の差の検定【1要因の分散分析】
- 8 回 平均値の差の検定【2要因の分散分析その1】
- 9 回 平均値の差の検定【2要因の分散分析その2】
- 10 回 中間テスト
- 11 回 相関分析と回帰分析
- 12 回 重回帰分析
- 13 回 因子分析
- 14 回 その他の分析
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・ 40%
レポート課題・・・ 40%
日常の授業への取り組み・・・ 20%

中間テスト・レポートの未提出や、無断欠席があった場合は原則評価不能(-)とする。

心理統計【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と，授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

エクセルについては事前に扱ってみて使い方に馴れておくことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 老化に伴う心理的側面の変化について基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 老化による心理的側面の変化に伴う課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

老年心理学

PSY213M

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方と心理学の中核的テーマである認知機能(知能、記憶・学習・情報処理)、パーソナリティと社会的適応について、老化に伴う変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、今日問題とされている認知症についての話も加えている。これは老年期の心理的問題や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の心理的問題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方、社会学的捉え方
- 第3回 老年期に関する心理学的・社会学的視点からの理論
- 第4回 老年期の認知機能の変化 - 認知機能を見る際の枠組み
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化【知能とは、結晶性能力と動作性能力】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化【測定方法と測定時の留意点】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化に影響する要因
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 1【記憶のモデル】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 2【記憶の種類】
- 第10回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 3【記憶機能の変化の要因、病気の影響】
- 第11回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 4【老年期の記憶の病的変化】
- 第12回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 5【アルツハイマー型認知症について】
- 第13回 老年期のパーソナリティ 1【社会通念：時代背景・社会環境、人の気持ちは分かるか】
- 第14回 老年期のパーソナリティ 2【成熟したパーソナリティ、OldestOldと社会関係】
- 第15回 老年期のさまざまな心理的問題

成績評価の方法 /Assessment Method

全回数の3分の2以上の出席を最終試験受験資格とし、これを超えて欠席した場合と、出席が足りていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

試験 60% 授業への参加・課題提出 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知能、記憶、パーソナリティなどの心理学の基本領域を学習しておく。

老年心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生理心理学【昼】

担当者名 麦島 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生理心理学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	生理心理学の視点から諸問題を捉え、分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生理心理学的観点から人間の諸問題に問題意識をもち、主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生理心理学

PSY241M

授業の概要 /Course Description

心理学が研究対象とする知覚・認知・学習・情動・こころの不調などを理解するには、脳を中心とする身体のはたらきとの関係を検討することも意義が大きい。とくに近年、こころに関する神経科学が進展し、心理学が育んできた諸理論がサイエンスの前線として注目されるようになった。この授業ではまず神経科学の基本的知識を講義し、次にこころと脳（身体）との関係を解説する。また、授業期間中に生理心理学に関連する重要な研究が発表されれば適宜紹介する。同時にこの分野が持つ「総合知」の側面もお伝えしたい。なお、旧カリキュラムのみ対応の科目なので、受講者の単位取得のために支援的な授業が可能である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。印刷資料を適宜配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。
例えば良書としては
○カールソン, N.R. (泰羅雅登 他 監訳) (2013) 神経科学テキスト 脳と行動 丸善出版
○岡田隆 他 (2015) 生理心理学・第2版 サイエンス社
など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 生理心理学とは。
第2回～第6回 神経細胞の構造と機能。【活動電位・シナプス・神経伝達物質】
第7回～第12回 脳の構造と機能。【脳幹・間脳・大脳基底核・大脳辺縁系・大脳新皮質】
第13回 意識・覚醒・睡眠。【脳波・事象関連電位】
第14回 学習・記憶・認知。【長期増強・海馬】
第15回 こころの不調。【統合失調症・抑うつ・ADHD・臨床神経心理学】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験により評価する。
学期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

できれば授業後にノートと配付資料を再読して概要を再確認されたい。

履修上の注意 /Remarks

高校や教養教育科目などでの生物学・化学の履修状況にかかわらず、分かりやすく解説します。
脳とこころの関係について知りたい人すべてにお勧めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

旧カリキュラムのみ対応の科目なので、受講者の単位取得のために寄り添った授業が可能です。ぜひ臆せず受講してください。

生理心理学 【昼】

キーワード /Keywords

脳とこころ

社会意識論 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 社会意識論	SOC210M
(比文) 比較社会意識	SOC210M

授業の概要 /Course Description

わたしたちの生活に密接なものひとつに「男」「女」という性別があります。ジェンダーとは、そうした男・女といった身体の違いに、例えば「男らしさ」「女らしさ」などの様々な意味をつけたもの、または意味をつけることを指します。この授業では、ジェンダー概念と女性学との関係と歴史、ジェンダーに関する諸問題について考察します。授業はグループ毎のディスカッションやプレゼンテーションなど、積極的な授業参加によって成り立ちます。

到達目標：

【知識】社会学におけるジェンダー論の基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】ジェンダー論の観点に基づいた論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤文香監修(2019)『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店
- 荻野美穂(2014)『女のからだ：フェミニズム以後』岩波新書

社会意識論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ジェンダーとは
ジェンダー概念の説明と整理。コース全体を貫くテーマについて。
2. 女性学とジェンダー研究—その1
その起源と発展を社会背景から考察する。
3. 女性学とジェンダー研究—その2
日本におけるフェミニズムと基本文献の読解。
4. 男性学とは
男性学の歴史、理論と現在の状況。
5. 生殖とジェンダー—その1
日本における産児調節運動について。
6. 生殖とジェンダー—その2
生殖技術の発展をめぐる諸問題について。
7. 多様なセクシュアリティ
異性愛も含めたさまざまなセクシュアリティとカテゴリーについて。
8. セクシュアリティと社会運動
「LGBT」、「クエア」をめぐる社会運動の興隆と傾向について。
9. メディア文化におけるジェンダー表象
ジェンダーメディア分析の方法と実践。
10. 教育とジェンダー
文系・理系におけるジェンダー差、隠れたカリキュラム、女子大学の存在意義について。
11. 就労とジェンダー
ワークライフバランス、M字型就労、ガラスの天井について。
12. 貧困とジェンダー
女性をめぐる貧困の構造と支援について。
- 13、14. グループ発表
15. 授業の総括
これまでの授業内容をふまえた上で、今後のジェンダー研究の課題について議論する。

暦に沿って講義の順番が前後したり、内容が変更になることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内発表 / コメントシート (40%)、定期試験 (60%)
原則として6回以上欠席した場合は評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布するプリント類に事前に目を通してから授業に臨むこと。また、授業後は書籍や新聞をはじめとしたメディアに当たり、授業で扱ったテーマの理解を深めること。
グループワークでは積極的に参加・発言すること。
オンラインで実施される場合は、関連する参考映像、記事などに目を通し、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況の変化により、シラバスの内容を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学【昼】

担当者名 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化現象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間)文化社会学	SOC211M
(比文)比較社会文化	SOC211M

授業の概要 /Course Description

社会学が「文化」として捉える事象は幅広い。本科目では、音楽や観光、コンビニ、ゲーム、ファッション、恋愛など、学生にとって身近なトピックと思われるものを題材として取り上げ、社会学の諸理論を用いて考察する。身近な事柄を客観的、批判的に読み解くことで、社会的な視点を感覚的に理解できるようになることを目指す。

(到達目標)

【知識】文化社会学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】文化社会学の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

井上俊・長谷正人(編)「文化社会学入門」ミネルヴァ書房 2010年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：文化社会学と近接領域
- 第3回：文化と階級・階層
- 第4回：文化と権力
- 第5回：文化とメディア
- 第6回：文化とジェンダー
- 第7回：文化と消費
- 第8回：都市の文化(コンビニ、カフェ、オタクなど)
- 第9回：アートの文化(音楽、マンガなど)
- 第10回：身体の文化(スポーツ、ファッション、フィットネスなど)
- 第11回：娯楽の文化(観光、ゲーム、テーマパークなど)
- 第12回：暮らしの文化(食生活、住まい、出産・育児など)
- 第13回：人間関係の文化(恋愛、友だち、職場など)
- 第14回：儀礼の文化(結婚式、クリスマス、祭りなど)
- 第15回：まとめとレポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

講義の中で実施する小レポート(20%)と期末レポート(80%)
なお、出席が3分の2に満たない場合は評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の指定箇所を読んで予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

文化社会学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族社会学【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会における家族の重要性とその変容について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	家族という身近なテーマを通して、社会の成り立ちとその変化を分析する能力を養う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	社会における家族制度と、その問題点について批判的に把握する能力を持つ。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

家族社会学

SOC215M

授業の概要 /Course Description

家族の「脱領域化」をキー概念とし、今日の家族をめぐる様々な事象を横断的にとりあげ、そこから現代社会の成り立ちとその変動を社会的に考察することを目的とする。家族を社会の中に位置づけ、さらにそれを時には国境を越える範囲での諸々の社会的組織や制度との関わりの中で捉え直し、私たちの親密な関係性やその規範意識、さらには家族をめぐる「問題」意識が、社会の変化とともにどのように流動的に変容しているかを考察する。講義で取り上げる事例は主に国内事例であるが、比較の対象として他国の事例を取り上げたり、あるいは日本の家族をめぐる国際的な事例にもふれる。

到達目標

【知識】家族社会学に関する基礎的な知識を身につける。

【思考・判断・表現力】家族社会学の観点からの論理的な分析をもとに批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につける。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適時資料を配付。

※本講義内容に即したリーディングリストを講義の中で配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション：拡張する家族【脱領域化】
- 2回 縮小する家族：産業化と家族の変容【家族史】
- 3回 近代家族と家族の中の不均衡【権力】と【家父長制】
- 4回 個を単位とする現代家族【個人化】【婚姻】
- 5回 第1回から第4回の振り返り
- 6回 アジアの家族の現在【ジェンダー】【男性性】【比較家族論】
- 7回 結婚と「わたし」【夫婦別姓】
- 8回 家族の中の性とその広がり【セクシュアリティ】
- 9回 家族と子ども【子の権利】
- 10回 共同養育をめぐる【共同親権】【共同養育】
- 11回 第6回から第10回の振り返り
- 12回 現代家族のグローバル化【国際結婚】【ハーグ条約】
- 13回 家族の再編成①【離婚】【ステップファミリー】
- 14回 家族の再編成②【養子縁組】【代理出産】
- 15回 まとめ：家族の脱領域化から見る「社会の家族」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 10%

第一課題(小テスト) 10%

第二課題(中テスト) 30%

期末レポート 50%

※全ての成績評価の合計が0点以下の場合は判定不能「-」とする。

家族社会学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等での配付資料には事前に目を通すこと。
レポートに備え、配付資料や講義ノートをもとに講義内容をよく復讐しておくこと。
講義で紹介した関連書籍について図書館等で確認しておくこと。
講義で紹介した事例について関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。
事前資料が配付された場合、必ず目を通してから講義に出席すること。
社会的情勢によっては遠隔での講義に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスに掲載した授業計画は一部変更されることがある。

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育社会学の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育と社会に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 教育に関する社会事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育社会学

EDU225M

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐると教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐると社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐると近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐると近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐると社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とします。

教育社会学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

情報社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会におけるメディアの重要性について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代に固有のメディアが、社会や個人意識の変化にもたらす影響を、具体的な事例を使いながら分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	メディアと社会の関わりについて、批判的な視点を持つことができる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報社会論

SOC213M

授業の概要 /Course Description

私たちの日常生活にありふれた様々な「メディア」を通じ、社会学的な視点からの理論と方法論を身につける。人と社会との関係において、このような「メディア」が人と人、そして人との結びつける上でいかなる役割を果たしているのかを理解する

到達目標

【知識】メディア社会学に関する基礎的な知識を身につける。

【思考・判断・表現力】メディア社会学の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につける。

教科書 /Textbooks

なし。ただし、必要に応じてリーディングを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池田理知子・松本健太郎, 2010, 「メディア・コミュニケーション論」ナカニシヤ出版。
辻泉(他), 2018, 「メディア社会論」有斐閣ストゥディア。
藤田真文(編), 2016, 「メディアの卒論-テーマ・方法・実際 [第二版]」ミネルヴァ書房。
吉見俊哉, 2013, 「メディア文化論-メディアを學人のための15話 改訂版」有斐閣。
吉見俊哉(編), 2001, 「メディア・スタディーズ」せりか書房。
また、必要に応じてリーディングリストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【注】ゲスト講師による特別講義を含む。講義計画は変更することがある。

- 第1回：オリエンテーション：「メディア」とは何か。本講義について。
- 第2回：メディア史-そのスナップショット：モダンからポストモダン、そしてその先へ
- 第3回：メディア研究の方法①：記号論の基礎
- 第4回：メディア研究の方法②：オーディエンス研究
- 第5回：第1回から第4回の振り返り
- 第6回：メディアと大衆文化：マンガから見る社会
- 第7回：メディアとジェンダー①：ジェンダー再生産装置としてのメディア
- 第8回：メディアとジェンダー②：ジェンダーと消費社会のメディアーション
- 第9回：メディアとセクシュアリティ：BL作品とその批評の再読解
- 第10回：メディアと人種・エスニシティ：メディアによる再生産と異種混溶性
- 第11回：第6回から第10回の振り返り
- 第12回：メディアと権力：テクノロジーと監視のネットワーク
- 第13回：メディアと新しい連帯：情動・公共圏・民主主義
- 第14回：メディアと身体：身体の拡張性と「ポストヒューマン」
- 第15回：まとめ：社会を理解するためのメディア研究

情報社会論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 10%
第一課題 (小テスト) 10%
第二課題 (中テスト) 30%
期末レポート 50%
※全ての成績評価の合計が0点以下の場合は判定不能「-」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等で事前にリーディングや資料が配布された場合、必ず一読して授業に臨むこと (60分程度)。また、講義後は配布資料と自作の講義ノートを用い課題に向けた復習を実施しておくこと (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

社会学的な視点からの講義となるため内容を深く理解する上で、関連する基幹教育科目や専門科目を履修しておくことが望ましい。図書館に設置された「社会学がわかる」コーナーに配架された文献に主体的に目を通しておくことで、講義の理解も深まる。社会的情勢によっては遠隔での講義に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習や卒業論文でメディアに関連する研究を取り上げたいと考えている場合、専攻の如何を問わず積極的に履修してください。

キーワード /Keywords

消費社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の消費行動と社会の関わりについて理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	消費行動を、経済行動に加え社会的な行動として捉え、具体的な事例をもとに分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	消費行動について、批判的な視点を獲得し、行動できる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

消費社会論

SOC214M

授業の概要 /Course Description

社会における「モビリティ」の拡大をキー概念とし、今日の観光と人の移動をめぐる様々な事象を横断的にとりあげ、そこから現代社会の成り立ちとその変動を社会的に考察することを目的とする。観光の成り立ちとその展開を社会の中に位置づけ、観光という事象とそれを取り巻く諸々の社会的組織や制度との関わりを分析することから、移動に基礎を置く社会がいかにして構成されつつあるかを検証する。講義では国内外様々な事例を取り上げるとともに、こうした事例を分析するための社会理論や文化理論を多岐にわたり紹介する。

到達目標

- 【知識】メディア社会学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】メディア社会学の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につける。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適時資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適時紹介。
※本講義内容に即したリーディングリストを講義の中で配布予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション：移動する社会【モビリティ】
 - 2回 観光の誕生【近代化】【産業化】
 - 3回 消費社会と観光①：理論編【記号論】【再魔術化】
 - 4回 観光者の誕生【ポスト・ツーリスト】【パフォーマンス】
 - 5回 消費社会と観光②：事例編【テーマパーク】
 - 6回 第1回から第5回の振り返り
 - 7回 社会の観光①：ポピュラー・カルチャーと観光【コンテンツ・ツーリズム】
 - 8回 社会の観光②：負の遺産の観光化【ダークツーリズム】
 - 9回 社会の観光③：歓呼と自己規定【バックパッカー・ツーリズム】
 - 10回 社会の観光④：観光と労働【ワーキングノリデー】
 - 11回 社会の観光⑤：観光と国家【修学旅行】【伝統文化】
 - 12回 第7回から第11回の振り返り
 - 13回 社会の観光⑥：ソフトパワーとしての観光!?【インバウンド・ツーリズム】【セルフオリエンタリズム】
 - 14回 社会の観光⑦：あたらしい時代の観光【COVID-19】
 - 15回 まとめ：モビリティからみる「社会の観光」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 10%
第一課題(小テスト) 10%
第二課題(中テスト) 30%
期末レポート 50%
※全ての成績評価の合計が0点未満の場合は判定不能「-」とする。

消費社会論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等での配付資料には事前に目を通すこと。
レポートに備え、配付資料や講義ノートをもとに講義内容をよく復讐しておくこと。
講義で紹介した関連書籍について図書館等で確認しておくこと。
講義で紹介した事例について関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。
事前資料が配付された場合、必ず目を通してから講義に出席すること。
社会的情勢によっては遠隔での講義に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスに掲載した授業計画は一部変更されることがある。
定期的に観光地に足を運び、自身の観光者としての経験を積み重ねておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 /Instructor 井上 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フィールドワークに関する、さまざまな技能を学習する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人的な質的調査にもとづく事例の分析から問題点を抽出し、考察を行う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	フィールドワークの技法を社会的なさまざまな実践に応用する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フィールドワーク論

ANT212M

授業の概要 /Course Description

この授業では、さまざまなフィールドワークの報告を紹介しながら、フィールドワークのエッセンスを学びます。フィールドワークとは、他者の生活の場で、他者とふれあい、他者について知り、それを伝えることをです。

インターネットなどのメディアを通じて多くの情報が氾濫し、検索エンジンを使えば、世界中のどんなことでも手のひらの中で調べられる現在の生活の中で、フィールドに出向いて自分の身体で体験する意義は何なのか、そしてその体験を自分の言葉で、あるいは映像で表現する意義は何なのか。フィールドワークの理論と実践、楽しさについて、受講者と一緒に考えていきます。

《到達目標》

知識：フィールドワークに関する基礎的な知識を身につけている。

コミュニケーション力：フィールドワークに関する多くの事例を学び、調査に必要なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』2015 篠原徹○
- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』2006 菅原和孝○
- 『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』2008 宮本常一・安溪遊地○
- 『ヤシガラ椀の外へ』2009 ベネディクト・アンダーソン○
- 『驚きの介護民俗学』2012 六車由実○
- 『飯場へ: 暮らしと仕事を記録する』2017 渡辺 拓也○
- 『なぜふつうに食べられないのか』2015 磯野真穂○
- DVD『祝の島』2011 瀬戸あや○

その他講義中に適宜紹介します。

フィールドワーク論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：フィールドワークとは
- 第2回 なぜフィールドワークをするのか
- 第3回 どうフィールドワークをするのか
- 第4回 フィールドとであう
- 第5回 フィールドの中で生活する
- 第6回 さまざまなフィールド：自然
- 第7回 さまざまなフィールド：異文化
- 第8回 さまざまなフィールド：身近な生活
- 第9回 フィールドワークの計画を立てる
- 第10回 他者を知ること-調査・参与観察
- 第11回 他者を知ること-身体活動・技法の習得
- 第12回 他者を知ること-分析・比較
- 第13回 理解したことを伝える：論文
- 第14回 理解したことを伝える：作品
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中のディスカッションに参加：30%
 講義で紹介した「活動」に参加、「書籍」を読む、「ドキュメンタリー映画」を観るといような体験をして講義内容をふまえたレポートを書く：70%
 授業の中で課されたレポートの提出がない場合は、評価対象外とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介するイベントに参加することを推奨します。
 授業中に紹介する本を読むことを推奨します。
 「北方シネマ」で上映されるドキュメンタリー映画を活用します。
 生活の中で、ふと興味をもったことについて立ち止まってそれを知ろうとする姿勢を歓迎します。
 web掲示板等を活用して議論を進めます。

履修上の注意 /Remarks

授業の時間外でのさまざまな活動への参加を推奨し、それについてのレポートが課題となることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で自分の考えや疑問を発信してください。一方的に講義をするのではなく、みなさんの好奇心に沿いながら授業が進んでいくことを期待しています。

キーワード /Keywords

フィールドワーク 他者理解 共感 ドキュメンタリー映画

環境社会学【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会と環境の相互作用について、人文社会学および自然科学的に専門知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会と環境の相互作用に関する法則や問題を発見し、理論や解決策を考察する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	健全な環境を支える社会のあり方について主体的に考え、学習していく基盤をつくる。
	コミュニケーション力		

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境社会学

ENW250M

授業の概要 /Course Description

人と自然、人と植物の関係について、主に人文学的な考察をする講義です。ここで事例にする自然は、日本人にとって密接な植物である竹です。竹は「万能性」とも表現できるような、多くの場面で活用される特性を持っています。人もまた、竹に対して、その時代の文化や社会の状況に合わせて独特の反応をしてきました。「竹をみて、人を知る」、「竹を知って、色々なことが分かる」、こうした学びを期待しています。

到達目標

この講義では、竹をめぐる、時間的にも空間的にも多様な視点からの知識や分析を提供することによって、人と植物の豊かになったがりの仕組みを考え、幅広い問題意識を持ってもらうことが目標です。そして、各自がそれぞれに自然に対する関心事項を見つけ、卒業論文のテーマを自由に構想する準備になることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

教室で講義資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中西進校注「万葉集：全訳注原文付 1～4」講談社
- 宮内泰介編著「半栽培の環境社会学」昭和堂
- 室井緯「竹」法政大学出版局
- 白幡洋三郎「プラントハンター」講談社
- その他、講義中に随時、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【竹学の可能性】
- 2回 竹の言葉と想い【和歌・日本語】
- 3回 竹の生態と認識【竹笹の種・開花】
- 4回 竹製品の変化【道具・用途】
- 5回 伝統的な竹林業【マダケ・竹材加工・切り子】
- 6回 集落の生業史【モウソウチク・社会・環境】
- 7回 竹種と盛衰関係史【適材適所・産業】
- 8回 竹林拡大を考える【栽培史・政策史】
- 9回 中国と日本の筍食文化【交流・比較】
- 10回 台湾の筍食文化【多様性】
- 11回 竹の移動【採集・植物伝播】
- 12回 竹と異国情緒【観光・美竹林】
- 13回 竹製品の移動【近現代貿易史】
- 14回 竹籠から竹芸へ【博物・美術・蒐集家】
- 15回 まとめ【竹をみて人を知る・竹学の有効性】

環境社会学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験またはレポート・・・40% 日常の授業への取り組み・・・60%

6回以上欠席すると自動的に評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から竹や植物に関するものごとを意識して観察し、講義に備えること。
授業中に興味を持ったことや疑問に思ったことを自主的に調べ、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2020年度にスタートした新しい科目です。

キーワード /Keywords

人間環境地理学【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と自然との関係に問題意識を持ち主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境地理学

ENV240M

授業の概要 /Course Description

環境問題の原因は、人間の自然への誤った関わり方にあると考えられています。そのため、環境問題の正しい理解には、まず、人間と自然の関わりについて考えることが必要です。人間と自然の関わりには様々なものがありますが、この授業では、「自然の猛威」を通じて人間と自然の関わりについて考えます。同時に、自然の猛威がもたらす災害と防災・減災についても考えます。ここ数年、地球温暖化によって様々な自然の猛威の脅威が特に高まっています。私たち人間が、自然そのものを改変していることを考える必要があります。

私たちは、豊かで穏やかな自然を安息と感じ、荒れ狂う自然を猛威と感じますが、穏やかな自然も荒れ狂う自然も共に自然の営みです。私たちはそのような自然の営みの中で、生活していることも、想像してみましょう。

この授業の目標は、以下の通りです。

人間と自然の関係の基礎的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。

人間と自然の関係に問題意識を持ち、主体的に学習できる。

(到達目標)

【知識】自然と人間の関わりに関する専門的な知識を体系的かつ総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

ありません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○志岐常正著「災害と防災」本の泉社, 2018年, 1980円

○高橋和雄編著「災害伝承：命を守る地域の知恵」古今書院, 2014年, 3080円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の中の私たち 【自然の猛威が私たちの住む場所を作っている】
- 2回 自然の猛威とはなにか 【人間の環境としての自然の猛威】
- 3回 自然の猛威の分類 【自然の猛威にはどのようなものがあるか】
- 4回 地球上の自然の猛威の概要1 【プレートテクトニクス】
- 5回 地球上の自然の猛威の概要2 【地震と火山噴火】
- 6回 地球上の自然の猛威の概要3 【気象災害】
- 7回 生物災害と疫病 【疫病は歴史的に激しい恐怖と社会の混乱をもたらした。それは現代も変わらない。】
- 8回 干ばつと砂漠化 【地球上で最も被害が大きい災害の一つは干ばつである】
- 9回 日本は災害の国 【日本列島では様々な自然の猛威が繰り返しやってくる】
- 10回 島原大変 【噴火・地震・崩壊・津波が複合した日本列島の宿命のような歴史災害】
- 11回 火山の巨大噴火 【巨大噴火は非常に大きな被害をもたらす破局的な噴火である】
- 12回 火山の噴火と気候変動 【火山噴火は気候変動に関わっている】
- 13回 火山噴火の文明への影響 【火山噴火は人間に歴史上大きな影響を与えた】
- 14回 巨大地震と津波 【東日本大震災のような巨大地震は繰り返し発生する】
- 15回 まとめ【自然を正しく理解し、うまく付き合っていく必要がある】

人間環境地理学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 90% 小レポートまたは小テスト... 10%
試験(定期試験)を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然の猛威に関するテレビ番組、ウェブ情報、新聞記事、書籍などが、ここ数年特に多く発信されています。事前にそれらの情報を見たり読んだりしておきましょう。授業後はノートを整理し、配付されたプリントを再度よく読んで、将来的に使える形で整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然の猛威 地震 プレートテクトニクス 火山噴火 疫病 災害 防災 減災 自然との共生

生態人類学【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	さまざまな事例をもとに人間の本質についての理解を深める。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の普遍的な特性から諸社会問題を考察する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体と自然という内と外の環境の相互行為を理解し、人間の社会や文化を考える。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生態人類学

ANT210M

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

この授業の主な到達目標は、人間関係に関する専門的知識の習得のみならず、自分から課題を発見し実践の中でそれを考えることができるようになることです。ほかの人と考えを交換する討論も楽しみましょう。

(到達目標)

【知識】

人間と自然の関わりを理解し、文化や社会と環境との関係を総合的に理解できる。

【思考・判断・表現力】

講義の中でおこなわれる議論に参加し適切に発言することができる。

教科書 /Textbooks

講義中にみるドキュメンタリー映像

「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 NHKスペシャルほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

以下はほんの一部である

- 「生態人類学を学ぶ人のために」 秋道 智彌、市川 光雄、大塚 柳太郎 (編) 世界思想社
- 「イブの7人の娘たち」 ブライアン・サイクス (ヴィレッジブックス)
- 「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 NHKスペシャル取材班
- 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」 マイケル・S. ガザニガ: インターシフト
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」 フランス・ドウ・ヴァール: 紀伊國屋書店

生態人類学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ3回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。

- 第1講 課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
- 第2講 課題1の問題提起
- 第3講 課題1のプレゼンテーション
- 第4講 課題1のディスカッション
- 第5講 課題2の問題提起
- 第6講 課題2のプレゼンテーション
- 第7講 課題2のディスカッション
- 第8講 課題3の問題提起
- 第9講 課題3のプレゼンテーション
- 第10講 課題3のディスカッション
- 第11講 課題4の問題提起
- 第12講 課題4のプレゼンテーション
- 第13講 課題4のディスカッション
- 第14講 総論
- 第15講 最終討論

成績評価の方法 /Assessment Method

すべての回の発表とディスカッションをもとにした自己評価の発表を総合的に審査する 100%
最終討論の自己評価の審査に参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてきてください。毎回講義の前後にイメージトレーニングし、自分なりに議論の進め方を改善してみましょう。

履修上の注意 /Remarks

ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を発言できること。それは思考をすすめるとてもよい経験になります。難しい事はありません新しい考えが生まれてくる現場を楽しみながら参加して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、多様な他者の価値観を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

人間性の進化 【昼】

担当者名 /Instructor チョウ ピンピン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 進化論的な視点から人間性の獲得に至るプロセスを理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 進化論的な視点から現代社会との相関を考える。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 生物学的な特性に視野をひろげ、人間とはなにかを探究する。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間性の進化

ANT211M

授業の概要 /Course Description

本授業では、ヒトの「人間性」について考えます。

人間性やモラルは、時代や地域、文化や環境によって、さまざまな違いがあります。しかし、ヒトという種を概観すると、共通する「人間性」があることがわかります。それは複雑な社会をつくるために、長い進化の過程を経てヒトだけに備わった特別な能力なのかもしれません。

こうした「人間性」を明らかにすることは簡単なことではありませんが、たとえばヒトに近い動物の観察をとおして、ヒトにいたる進化の道のりについてさまざまな新しいアイデアを得ることができます。

授業の前半では、ヒトだけにそなわるユニークな性質である人間性の起源について語ります。後半では、最新の人類学の研究をもとに、そうした人間性から生まれる、情動や芸術を考え、普遍的な人間像を探ります。

(到達目標)

【知識】

人間性とはなにか。人間の本質と進化的背景を理解している。

【思考・判断・表現力】

幅広い社会現象について人間性の観点から考察することができる

指定の教科書はありません。

適宜レジュメの配布や参考文献を紹介します。

教科書 /Textbooks

特にありません。講義で紹介する幅広い本を読んでください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル.S.ガザニカ(著) 2010『人間らしさとはなにか?』インターシフト
- ドナルド・E・ブラウン 2002『ヒューマン・ユニバーサルズ』昭和堂
- ペーテル・ヤーデンフォッシュ 2005『人はいかにして知恵者となったのか』研究社
- 西田利貞 1999『人間性はどこから来たか? : サル学からのアプローチ』京都大学学術出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: イントロダクション
- 2: 人間性の起源
- 3: ヒトは他の動物と何が違うのか
- 4: ヒトの生物学的特性
- 5: ヒトの環境への適応
- 6: 社会行動の起源
- 7: 協力と裏切り
- 8: 道徳の起源
- 9: 他人の情動を感じる「心の理論」
- 10: 身体性と普遍性
- 11: 意識とはなにか
- 12: 芸術と美の起源
- 13: 人間文化の豊かさ
- 14: 人間性とは何か
- 15: まとめ

人間性の進化 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート (50%)
学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回キーワードや疑問を紹介するので、自分なりの答えや新たな疑問を考えておいてください。
興味のある、または関連する項目について、授業の前後で自分なりに調べ、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問を持ちながら、たのしく、一緒に勉強します。

キーワード /Keywords

人間性、道徳、協力行動、芸術、心の理論、普遍性

比較表象文化 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	表象を論じるための専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	表象を比較して論じるための専門的な方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	表象の比較を通して文化を見つめなおそうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較表象文化

MCC210M

授業の概要 /Course Description

本講義では「表象」という概念の基礎を理解・習得し、そのうえで人間の様々な表象行為を比較検討して考察することを目的としている。人間のコミュニケーションの根本を理解し、そこから文化社会を見つめなおす訓練をつんでいきたい。表象は視覚のみならず聴覚にもかかわる。声・身体といった人間の最も身近なメディアにも注目していく。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

(到達目標)

知識：表象文化についての専門的な知識を身につけている。

技能：表象文化を論じるために必要な情報を収集し分析できる。

思考・判断・表現力：表象の特徴について論理的に思考し、自分の考えを適切な方法で表現できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス-表象概念の説明-
- 第2回 写真は何を写すのか-ベンヤミンの思考をきっかけとして-
- 第3回 生活のなかの写真①-「におわせ」の想像力喚起-
- 第4回 生活のなかの写真②-表象装置としてのプリクラ-
- 第5回 写真「集」とは何か-北九州の表象-
- 第6回 公共広告の表象分析
- 第7回 歴史資料の表象分析①絵双六
- 第8回 歴史資料の表象分析②見立番付
- 第9回 メディア史のなかの表象-紙芝居の相関的位置づけ-
- 第10回 演じられる「らしさ」
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 比較表象分析①導入
- 第13回 比較表象分析②展開
- 第14回 比較表象分析③まとめ
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業参加、コメントカードなど）...約30% 学期末レポート...約70%

* レポートには製作物の作成が含まれることがある。

* レポート未提出の場合は「-」（評価不能）となる。

* 平常点が一定の基準を満たさない場合「-」（評価不能）となる。基準については第1回（ガイダンス）で説明する。

比較表象文化 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知した事例について調べておく

事後：授業内容でわからないところがないか復習しておく。関心をもった事項について自主的に調べてみる。

履修上の注意 /Remarks

授業時間外においては、毎回授業内容についてのノートを確認し、コメントカード執筆にそなえること。

授業時間内に、クイズやアンケートをおこなうので、デバイス（ノートPC、スマホなど）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の大衆文化についての専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の大衆文化についての専門的な研究方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の大衆文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本の大衆文化について知識を得て考察しようとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の大衆文化

JPS212M

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。現在の大衆文化のトピックをとりあげながら、問題意識を共有し、歴史的事象の紹介や事例分析をおこなっていく。とりあげる素材は、人間が生み出す物語あるいは芸が中心となる。現在を照らし返すきっかけを提供するという目的のもとに、近世・近代・現代に目配せをして事象の紹介をしていく。本講義の目標のひとつは、物語・場・受け手という焦点のあて方を知るなかで大衆文化研究のテーマを学ぶことにある。受講者は、そのテーマに基づき自らの問題意識を醸成していくことを求められる。ふたつには、日本の大衆文化史についての歴史的な知識をできるだけ増やしていくことにある。つまり、どの事象を扱ううえでも、必ず歴史的・社会的なコンテクストへの関心を深めていくことが求められる。

●到達目標

知識：日本の大衆文化についての専門的な知識に見つけている。

技能：日本の大衆文化を論じるために必要な情報の収集、分析ができる。

思考・判断・表現力：日本の大衆文化の特徴について論理的に思考し、自分の考えを適切な方法で表現できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 講義のデザイン
- 第2回 大衆文化史概説①【近世】【近代】
- 第3回 大衆文化史概説②【近現代】
- 第4回 大衆文化史概説③【現代】
- 第5回 物語の比較①【比較の基準】
- 第7回 物語の比較②【股旅】
- 第5回 物語の比較③【村落共同体】
- 第6回 物語の比較④【サラリーマン】
- 第7回 物語の比較⑤【家族】
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 上演空間の比較①【祝祭の渴望】
- 第10回 上演空間の比較②【歌舞伎】
- 第10回 上演空間の比較③【受容論的視点】
- 第11回 上演空間の比較④【演じる観客】
- 第12回 上演空間の比較⑤【歌舞伎の変貌】
- 第13回 上演空間の比較⑥【現代の上演空間】
- 第14回 映像鑑賞
- 第15回 総括

日本の大衆文化【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業参加への積極性、コメント提出) ...約30%
レポート...約70%
* 期末レポートに加え中間レポートを課すことがある。中間レポートのかわりに、中間試験がおこなわれることがある。
* レポート未提出が1つ以上あった場合「-」(評価不能)となる。
* 平常点が一定の基準を満たさない場合「-」(評価不能)となる。基準については第1回(ガイダンス)で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知された内容については各自調べておく
事後：コメント記述のために講義内容を復習しておく

履修上の注意 /Remarks

各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直し、なおかつ情報収集をまめに心がけていく必要がある。
授業時間内に、クイズやアンケートをおこなうので、デバイス(ノートPC、スマホなど)を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大衆文化というテーマは、誰にでも親しみやすいものである一方で意識をとぎすまさない、問題が見えてこないということもまた確かです。コメントカードにも自分が授業を聞いて考えたことを積極的に記述することを求める。

キーワード /Keywords

メディア、物語、芸、歴史

心理学研究法 【昼】

担当者名 松本 亜紀 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 様々な心理学領域における方法論の基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理学の研究法についての実践的技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理学における様々な研究法を実践の場で活用できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と協力してどのような研究手法が適切か検討することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学研究法

PSY243M

授業の概要 /Course Description

心理学は科学である。科学であるためには、事実を明らかにすること「実証」が必要である。
本講義では、人間の心を科学的に実証するための方法論を学ぶことにより、心理学のこれまでの研究知見を理解・解釈できるようになること、自ら研究を立案・実施できるようになることを目標とする。

(到達目標)

【知識】様々な心理学領域における方法論の基礎的知識を体系的かつ総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

心理学研究法 補訂版 一心を見つめる科学のまなざしー 高野陽太郎・岡隆(編)有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 心理学研究法とは何か
2. 実験と観察
3. 実証の手続き
4. 独立変数の操作(独立変数の種類)(純化・多重操作)
5. 独立変数の操作(インパクト)(妥当性)
6. 従属変数の測定
7. 剰余変数の測定
8. 実験法
9. 心理学に特有の問題
10. 調査法(質問紙の作成)
11. 調査法(尺度構成)
12. 検査法(妥当性と信頼性)
13. 観察法(データサンプリングの方法)
14. 観察法(時間見本法)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小課題 60%
学期末のレポート 40%

6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

心理学研究法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

心理学実験および心理統計を受講しておくとう理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学実験実習Ⅱ【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間関係の諸問題を分析・検討するための心理学研究法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	人間関係の諸問題を心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学実験実習Ⅱ

PSY281M

授業の概要 /Course Description

心理学の研究法である実験・調査・観察の具体的方法を学ぶ。
心理学の研究法である心理査定、面接法等の具体的方法を学ぶ。
到達目標は以下の通りである。
・心理学研究法に関する専門的知識を修得し、実際に使用することができる。
・心理学研究法によって、心理現象を分析・検討することができる。

到達目標

【知識】心理学の実験や実習の手法に関する基礎的な知識を身につけている。
【思考・判断・表現力】人間の心理や行動について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを適切に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(実験実習の進め方、認定心理士について)
- 2回 対人認知-性格特性リストから判断される他者の特性【t検定】
- 3回 自己意識-20答法の分類【χ²検定】
- 4回 同調行動-他者の判断が錯視図形の知覚に与える影響【相関係数】
- 5回 集団間行動-内集団バイアスの実験【t検定】【分散分析】
- 6回 質問紙法の実践(1)-質問項目の選定【妥当性】
- 7回 質問紙法の実践(2)-データの集計と分析【信頼性】【α係数】
- 8回 質問紙法による心理査定【YG性格検査】【STAI】
- 9回 投影法による心理査定【P-Fスタディ】
- 10回 知能検査による心理査定【知能指数】【知能偏差値】
- 11回 箱庭療法による心理面接【ラポール】【クライエント】【カウンセラー】
- 12回 催眠法による心理面接【後倒法】【変性意識状態】
- 13回 心理面接における行動観察【ノンバーバル行動】【行動評定】
- 14回~15回 まとめ(実験実習を体験しての集団討論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ...100%

指定されたレポートの半数以上が未提出の場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習として、実験実習の結果をレポートとしてまとめる。

心理学実験実習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

前もって「心理学実験実習I」並びに「心理統計」を受講しておくことが望ましい。
授業終了後は、指定された課題(レポート作成)に取り組むことを通して、実施した実験実習の内容についての理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

（到達目標）

【知識】

環境経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自律的行動力】

環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・藪田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨン：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
また、3回程度、外部講師による講演も行う予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育制度についての基本的な概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育制度論

EDU227M

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

到達目標

- (知識・理解) 教育制度についての基本的な概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
- (思考・判断・表現) 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
- (生涯学習力) 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%
- * 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格
 - * 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 教育について興味・関心をもって臨むこと。
- 配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
- 発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

教育制度論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育課程についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育課程に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 教育課程に関わる事項に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育課程論

EDU360M

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

教育課程論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小課題等） 40%

最終課題（試験） 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題（試験）受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題（試験）を受験しなかった場合は原則評価不能（ - ）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育原理

EDU110M

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

教育原理 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小課題等） 40%

最終課題（試験） 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題（試験）受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題（試験）を受験しなかった場合は原則評価不能（ - ）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教職についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教職についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教職論

EDU111M

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探索する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の体験報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

教職論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提に進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

主体形成論 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間の主体形成についての専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として解決できる方策を分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	主体形成の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

主体形成論

EDU221M

授業の概要 /Course Description

急速な社会変化、そして生涯学習社会への移行は私たち自身にも、これまで経験してきた知識中心の学習とは、まったく異なった学ぶ能力が必要になっていることを示しています。

本講義では、人間が主体的力量を形成していく（主体形成）とはどういうことか、その課題やプロセス、そして支援について、様々な領域の学習実践を取り上げながら考えていきます。

こうした検討を踏まえて、学習要求・ニーズと、学習必要・学習課題との区別と関連や、人間が主体的力量を形成していく意義、そして、それを支える専門性の重要な役割について理解を深めます。

（到達目標）

【知識】

生涯学習に関する基盤となる知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
末本誠他編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

生涯学習・社会教育の多様な活動、分野を取り上げながら、主体形成について考えます。

- 1回 生涯学習・生涯発達をとらえる枠組み
- 2回 生涯学習・生涯発達のプロセス-自己形成史を通して考える
- 3回 自然環境と主体形成
- 4回 環境問題と社会教育-北九州市の公害学習
- 5回 消費・生活と主体形成
- 6回 ジェンダー・家族と主体形成
- 7回 身近な人間関係と主体形成
- 8回 男女共同参画と男女平等
- 9回 人権と主体形成
- 10回 平和・共生と主体形成
- 11回 子ども・子育てと主体形成
- 12回 情報社会と主体形成
- 13回 地域と主体形成 一自治体
- 14回 地域づくりと主体形成 一地方創生
- 15回 エンパワーメントの支援

主体形成論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート... 80% 課題レポート... 20%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育相談の基本的な理念や方法を理解できている。近年の生徒が示す様々な問題事象とその要因についての基本的な理解をもっている。
技能	専門分野のスキル	● 教育相談に必要な基本的な相談スキルを実際の対人関係場面で活用できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 生徒個々人の発達課題を把握し、学校内外の関係者とも連携しながら、その自立を援助するための基礎的な力を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの感情やニーズに積極的に応答し、信頼関係を築きあげることができる。
	生涯学習力	● 多様な生徒や保護者との出会いの中から学びと気づきを得ることを通じて実践力の向上に努めている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育相談

EDU264M

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

教育相談【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解を含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
- 最終試験 60%
- （出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。）
- （6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：毎回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
- 事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
- 授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

- 教育相談、いじめ、不登校、虐待

次世代育成論 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	次世代育成について専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	次世代育成の課題について解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	次世代育成について主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

次世代育成論

EDU226M

授業の概要 /Course Description

多様な学習スタイルが求められる現代において、生涯学習の一環としての「参加型学習」に着目し、「参加型学習」の定義や特徴、現状を学ぶとともに（理論編）、参加型学習やそれに類する多様な学習法（協同学習や協調学習など）の手法・技法を実際に体験しながら理解を深める（実践編）。「参加型学習」を円滑に行うには、学習内容を理解し、学習者の状況を見極め、場の雰囲気醸成やその変化も敏感に感じ取りながら、有効にファシリテーションを行う必要がある。本授業ではそのファシリテーション能力の養成も目指す。

<到達目標>

【知識】参加型学習の理論及び各技法の長所と短所を理解している。

具体的には、

- ・「参加型学習」とは何かを理解し、「参加型学習」の手法や技法を説明することができる。
- ・「参加型学習」を進めるためのファシリテーターの役割を説明することができる。
- ・「参加型学習」において学習者の主体的参画を促すファシリテーション能力の基礎を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

協同学習の技法-大学教育の手引き エリザベス=パークレイ、パトリシア=クロス、クレア=メジャー(著) 安永悟(監訳) ナカニシヤ出版
協同学習入門-基本の理解と51の工夫 杉江修治(著) ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回【理論編】生涯学習とは何か、参加型学習とは何かを理解する
- 第2回【理論編】参加型学習の特徴と実践の実際を知る
- 第3回【理論編】[実践編]アイスブレイクの意義と役割を学ぶ、多様なアイスブレイクを体験する
- 第4回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ①(話し合いの技法)
- 第5回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ②(教え合いの技法)
- 第6回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ③(問題解決の技法)
- 第7回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ④(図解の技法)
- 第8回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ⑤(文章作成の技法)
- 第9回【理論編】[実践編]ファシリテーションテクニック①(参加型学習のプランニング)
- 第10回【理論編】[実践編]ファシリテーションテクニック②(ファシリテーショングラフィック)
- 第11回【実践編】参加型学習を企画し、ファシリテーション役を実践する①
- 第12回【実践編】参加型学習を企画し、ファシリテーション役を実践する②
- 第13回【実践編】参加型学習を企画し、ファシリテーション役を実践する③
- 第14回【理論編】[実践編]自らの実践を振り返り、参加型学習の評価について理解する
- 第15回【理論編】本授業のまとめ、参加型学習の今後を展望する

次世代育成論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・授業でのミニレポート...40%
最終レポート...60%
(出席について、3分の2以上の出席が最終レポート提出資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する(必要な学習時間の目安は60分)。また、自身がファシリテーション役等を実践する場合は、その準備を綿密に行う(必要な学習時間の目安は120分)。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。(必要な学習時間の目安は90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方的な講義形式ではなく、ペアワークやグループワーク、ファシリテーション実践等を頻繁に行うため、主体的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

参加型学習、協同学習、ファシリテーション、ワークショップ

道徳教育指導論【昼】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	道徳教育の指導について基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	●	道徳教育の指導についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	道徳教育の指導についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

道徳教育指導論

EDU262M

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。
本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第10回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

道德教育指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 /カワシマシズヨ /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人権教育についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人権教育についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人権教育論

EDU228M

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍の中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(70%)、課題(20%)、授業への参加度(10%)

遠隔授業に変更になった場合は評価の方法や割合が変わる(テストから課題に)可能性もあります。

人権教育論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパの倫理思想史の概説を行うが、三つの部に分けて、第1部は宗教から政治と倫理の区別、すなわち倫理学、法学の成立、第2部は近代の学問の分化独立にもかかわらず、政治と宗教が融合している事態、第3部は、それらの学問と美学、芸術の関係を思想史を見ることで学ぶ。中世・近代・現代ヨーロッパの倫理思想をカバーするものになっている。

- 【DP1 知識】倫理学について基礎的知識を修得する。
- 【DP2 技能】倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

なし。
資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

清水 満 『フィヒテの社会哲学』（九大出版会）○
ハインリヒ・マイヤー著、中道壽一、清水 満訳 『政治哲学が、政治神学が カール・シュミットの通奏低音』（風行社）○

倫理学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 インTRODクション

古代ギリシャにおいては、真・善・美・聖が融合していたことを理解する。

第2講

第1部 聖と善の分離(1)

中世から近世にかけて、聖と善の分離が分離していく様を、トマス・アクィナス、マキアヴェリ、ルターを通して学ぶ。

第3講 聖と善の分離(2)ホッブズ

ホッブズの「リヴァイアサン」を使い、聖と善の分離、主権概念の誕生を理解する。

第4講 第1部 聖と善の分離(3)スピノザ:宗教と国家の分離

『神学・政治論』を使い、ホッブズを受け継いで、近代の政治と宗教の分離の様を学ぶ。

第5講 聖と善の分離(4)カント

カントの主著『実践理性批判』で、宗教の道德への還元、『理性の限界内における宗教』で理性宗教の確立を理解する。

第6講 聖の善への取り込み(5)フィヒテ:理性宗教の確立

カントをさらに推し進めたフィヒテの思想を学ぶ。

第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい(1):ジャン=ジャック・ルソー

近代において確立した聖と善の分離が、分離しつつも根底では融合している様をルソーを切り口に理解する。

第8講 法と善と聖の分離とせめぎあい (2)カント

カントの「適法性」と「道徳性」の概念を学ぶ。カントは近代法学の定礎者でもあった。

第9講 法と善と聖の分離とせめぎあい (3)フィヒテ

フランス革命の哲学者ともいえるフィヒテの思想を『自然法の基礎』を中心に学ぶ。

第10講 法と善と聖の分離とせめぎあい(4)カール・シュミット

分離・独立したはずの近代の学問が根底では融合して、宗教性を背後にもつことをシュミットを通して学ぶ。「例外状態」「政治神学」を理解する。

第11講 第3部 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(1)カント

第3部は美学・芸術の哲学的考察を行う。まずはカントの美の概念と目的論を学ぶ。

第12講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(2)シラーの美と人倫

シラーの美の概念、公共性と芸術の関係を学ぶ。

第13講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(4)マルクス

マルクスの思想が誤解されてきたこと、彼が提唱したのはコミュニケーション主義としてのコミュニズムであることを理解する。

第14講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(5)ウィリアム・モリス

マルクスの継承者としてモダン・デザインの創始者モリスの民衆の芸術の思想を学ぶ。

第15講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(6)ハーバマス

ハーバマスのコミュニケーション的理性を学ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 59%

小レポート、確認テストの状況 31%

出席 10%

5回以上講義を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義レジメに、文献案内をつけるので、その中の一部を自分で読む。

履修上の注意 /Remarks

内容が硬いので、意欲のある学生の参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすいプレゼンテーションを心がけます。

質問などは遠慮なくして下さい。

キーワード /Keywords

政治と宗教 政治神学 美と人倫 目的論

博物館概論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	博物館に関する課題を発見し、適切な方法を用いて分析し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	博物館への関心を高める。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

博物館概論

MUS200M

授業の概要 /Course Description

博物館に関する基礎的な知識全般を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
具体的には、最新の博物館の動向をふまえながら、博物館の定義、種別、目的、機能、歴史、関係法規、また学芸員の役割や社会で求められている博物館像について学ぶ。実際の博物館での事象を具体例として検証することで、博物館の現状や課題について理解することを目指す。

(到達目標)

【知識】博物館概論に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】博物館概論について論理的に思考し、専門の見地から自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

【自律的行動力】博物館概論への関心を持ち続け、文化資源の有効活用につながる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令規則集』(日本博物館協会、1969年)
- ・ 『月刊 博物館研究』(日本博物館協会、1951年～)
- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・ 大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の手順と内容について)
- 2回 博物館の定義(意義と理念)
- 3回 学芸員とは?
- 4回 博物館の歴史【西洋】
- 5回 博物館の歴史【日本】①「博物館」ができるまで
- 6回 博物館の歴史【日本】②明治期以降
- 7回 博物館の種別および組織図
- 8回 博物館における展示 Display
- 9回 博物館における展示の種別
- 10回 展覧会をつくる
- 11回 博物館の展示の方法
- 12回 博物館における展示の企画と手法
- 13回 博物館と文化遺産
- 14回 博物館を取り巻く諸問題について
- 15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

博物館概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
定期試験...70%

- ※ 4回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ※ 15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- ※ 試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。
- ※ 諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能(一)となります。
- ※ その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。
授業後に、授業内で扱った展覧会や博物館について、インターネット等で詳細を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館などの文化施設を訪問する際の基本的事項を学ぶ授業です。授業内容は聞き流すことなく、ポイントをしっかりメモしてください。
この科目は、「学芸員」資格取得のために必要な科目です。「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでください。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

コミュニティスポーツ論【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域で行うスポーツ活動についての基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	地域で行うスポーツ活動を通じて専門分野の基礎的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域スポーツ活動においての諸問題を的確に捉え、運営や企画がスムーズに行えるよう導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域のスポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニティスポーツ論

HSS220M

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

<到達目標>

【知識】コミュニティスポーツ（地域スポーツ）に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 7回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 8回 スポーツ事業のプロモーション
- 9回 スポーツイベントがもたらす効果
- 10回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 11回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 12回 スポーツ指導に必要なコミュニケーションスキル
- 13回 文化としてのスポーツ
- 14回 スポーツと社会
- 15回 まとめ(期末テスト)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（レポート・中間テストを含む）・・・70%、期末テスト・・・30%
5回以上欠席かつ最終の期末テストを受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

コミュニティスポーツ論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

4分の3以上の出席を必要とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

スポーツ産業論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツと社会の関連について基礎的な専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	スポーツの諸問題を社会学の観点から主体的に学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ産業論

HSS222M

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

戦後、我が国のスポーツ振興は「大衆化」という方針が敷かれる。しかし、我が国の国際復帰のためスポーツが「競技」に傾倒していく中、大衆化の流れは「コミュニティスポーツ」として行政が主導するようになる。その後、国際情勢と高度経済成長期、バブル期を経て、「スポーツの民営化」が謳われ、スポーツが産業として発展していくようになった。世界的には1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見せている。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけではなく、シティマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源としての役割も担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。

そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明するとともに、スポーツプロダクトをマネジメントするシミュレーションなども行い、スポーツサービスの可能性を検討していく。

【主要な学習内容】

スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

(到達目標)

【知識】スポーツと社会の関連について、基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】社会学の観点からスポーツの諸課題を分析するスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)

川西正己著「事業計画書の作り方」(明日香出版社 2004)

細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

スポーツ産業論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：60%、課題やレポートなど：20%、の総合点で評価する。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポートのテーマに応じた論述をすることで、事前学習や事後学習とする

履修上の注意 /Remarks

全体を通してグループワークによる思考・意見集約・合意形成などを行います。情報を与えられるだけでなく、検索・共有していくことも重視しますので積極的なコミュニケーションを心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらうとともに、授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

(到達目標)

【知識】自分自身の健康管理に関して、専門的な知識を身につけている。

【技能】自分自身の健康管理を行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ・ ・ 40% 期末試験 ・ ・ 60%
6回以上欠席した場合、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

健康科学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

スポーツ心理学【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツ心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	スポーツの諸問題を心理学の観点から主体的に学習ができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ心理学

HSS221M

授業の概要 /Course Description

スポーツ心理学とは、運動やスポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とします。本講義の到達目標は、受講生が運動やスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることです。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

スポーツ心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 講義計画 >

1. オリエンテーション

本科目の目的, 背景, 授業の進め方, 約束事について説明します。

2. スポーツ心理学とは

スポーツ心理学の歴史について学習を行います。

3. スポーツと動機づけ

やる気や意欲と呼ばれる動機づけのメカニズムについて学習を行います。

4. スポーツにおける目標設定

スポーツにおける目標設定を行うための原理・原則について学習を行います。

5. スポーツとパーソナリティ

パーソナリティを理解しスポーツとパフォーマンスとの関係について学習を行います。

6. 注意と集中

注意様式からみた集中力の理論ならびに注意集中を高める技法について学習を行います。

7. 運動のメカニズム

運動の学習について心理学的な理論について学習を行います。

8. コーチの心理

社会的勢力の視点からスポーツ指導のあり方について学習を行います。

9. スポーツメンタルトレーニング (基礎)

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

10. スポーツメンタルトレーニング (応用)

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

11. スポーツと発達

生涯発達の視点から学びを深めスポーツのあり方や関わり方について学習を行います。

12. 健康スポーツの心理 1

ライフスキル, 運動・スポーツの心理的効果について学習を行います。

13. 健康スポーツの心理 2

ストレスへの対処方略やストレスマネジメントについて学習を行います。

14. まとめ

授業の振り返りを行います。

15. 授業内期末テスト

授業内期末テストを行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施します。
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施します。
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%, 受講態度20%, 小レポート30%で評価します。
- 4) 4回以上欠席した場合もしくは、評価不能(-)とします。
- 5) 授業内で行う試験及び小レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

準備学習として, 教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み, 授業での議論に備えて下さい。(各回15分)

事後学習として, 授業でノートしたことを整理し, 関連文献を読むなどして, 理解の深化に努めるようにして下さい。(各回15分)

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業やスポーツ科学関係の授業を受講した場合は, 本講義の理解がより深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

(到達目標)

【知識】身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を身につけている。

【技能】運動・スポーツに必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発育・発達
- 3回 運動と加齢
- 4回 運動と神経系
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と肥満
- 7回 運動とエネルギー代謝
- 8回 バイオメカニクス
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と疲労
- 12回 疲労と休養
- 13回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 14回 運動への行動変容【メリット、デメリットについて考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど)・・・40% 期末試験・・・60%

6回以上欠席した場合、試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

身体適応論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を到達目標としている。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 パーバルコミュニケーション①【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第4回 パーバルコミュニケーション②【PREP法・ホールパート法の実践】
- 第5回 ノンパーバルコミュニケーション①【ノンパーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 ノンパーバルコミュニケーション②【ノンパーバルコミュニケーションの実践】
- 第7回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル
- 第8回 チームでのコミュニケーション
- 第9回 コミュニケーションワーク①
- 第10回 コミュニケーションワーク②
- 第11回 自己とのコミュニケーション①【マインドフルネス】
- 第12回 自己とのコミュニケーション②【認知行動療法】
- 第13回 自己とのコミュニケーション③【アンガーマネジメント】
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%
- 4) 4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします
- 5) 授業内で行う試験及び小レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

身体スポーツ論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

トレーニング論【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的なトレーニング計画の作成ができる知識を身に付ける。

<到達目標>

- 【知識】身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につけている。
- 【技能】自分に必要なトレーニングを行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価① 身体組成(レポート①)
- 12回 トレーニング効果の測定・評価② 体力の測定①
- 13回 トレーニング効果の測定・評価③ 体力の測定②(レポート②)
- 14回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 15回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%
授業回数の1/3回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

トレーニング論【昼】

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自身の日常生活に活用できることを期待します。

キーワード /Keywords

トレーニング、体力、体力測定・評価、身体組成測定・評価、SDGs 3. 健康と福祉を

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

認知心理学に関する文献を講読し、われわれが日々行っている認知についての理解を深める。また、文献講読を通じて、心理学の研究手法、統計方法について学ぶ。さらに、資料のまとめかた、プレゼンテーション、ディスカッションについての技術を習得する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション (授業の進め方、発表の順番決め)
2. 研究倫理 (ねつ造・改ざん・盗用の禁止、人を対象とする研究に関する倫理)
3. 文献検索の方法
4. 文献講読1
5. 文献講読2
6. 文献講読3
7. 文献講読4
8. 文献講読5
9. 文献講読6
10. 文献講読7
11. 文献講読8
12. 文献講読9
13. 文献講読10
14. 文献講読11
15. まとめ (研究計画の作成について)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% ディスカッションへの関与度 50%
6回以上欠席した場合は、原則評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は発表資料・発表準備を行うこと。授業後には、その回の内容を復習すること。

演習 A - 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

まず最初に、社会心理学の古典的文献を含めて基礎的ないくつかの論文を講読する。それらの演習を進める中で、理論研究と現実社会における様々な問題との関連を理解することをねらいとする。

到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

DP3 思考・判断・表現力

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。

DP4 コミュニケーション力

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

DP5 自律的行動力

教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの決定
 - 2回 先行研究を読む(日本語)
 - 3回 先行研究を読む(日本語)
 - 4回 先行研究を読む(日本語)
 - 5回 先行研究を読む(日本語)
 - 6回 先行研究を読む(英語)
 - 7回 先行研究を読む(英語)
 - 8回 先行研究を読む(英語)
 - 9回 先行研究を読む(英語)
 - 10回 現実社会の問題との関連を議論
 - 11回 現実社会の問題との関連を議論
 - 12回 資料収集と経過発表
 - 13回 資料収集と経過発表
 - 14回 データ分析の練習
 - 15回 データ分析の練習
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%
6回以上欠席した場合は原則評価不能(-)とする。

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。
日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくと良い。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

主として青年期の心理的特徴や人間関係に関する心理学的研究の文献を講読しながら臨床心理学の理論や知識に関する理解を深めるとともに、心理学的研究の進め方を学ぶ。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

心理学研究、心理臨床学研究、青年心理学研究、教育心理学研究、発達心理学研究等の学会誌から各自が興味を持った論文を選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において適時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回 研究倫理教育
- 3回～14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 20%

6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で取り上げられる論文を前もって読んで自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、論文とレジュメに目を通して内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者は自分が選んだ論文に関してB4サイズ2枚程度でレジュメを作成すること。また、発表担当でない者は、事前に論文を読んで疑問点や批判点を明確にしておくこと。
授業終了後に、論文とレジュメに目を通して内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。グループワークや学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。

到達目標

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を得ることができる。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を得ることができる。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：研究倫理教育

2回～15回 課題について各自がディスカッションペーパーをまとめ、それをもとに議論を実施する。

司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

いずれの評価も得ていない場合、成績評価を不可「-」とする。それ以外は、点数に応じた評価を実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。

テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。

トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習活動を行う。

社会的情勢によっては遠隔での演習に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。

ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。

人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「研究倫理教育」人間を対象に研究する場合の倫理的な基準やその考え方を学ぶ。
- 2回 フィールドワークによる調査法と文献の集め方を学ぶ
- 3回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。

卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ？

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%

各自の調査研究 ... 50%

研究を行わずゼミに参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A - 1 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、卒業論文執筆を最終的な目標として、個人 / グループで専門的研究を行う。各自が執筆のテーマを決定し、計画的に執筆を進めることができるように、まずは文献の読解と個人発表を行う。ゼミではこの個人発表とその後のディスカッションを通じて研究の質を高める。1学期では主にジェンダー / 女性学を中心に基礎研究を進める。このゼミでは「ジェンダー」をメインテーマに、「医療」をサブテーマにして、現代社会におけるさまざまな問題を考察する予定だが、その他、広い社会的関心に基づくテーマ設定も可能である。

到達目標：

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自律的判断力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を授業中に紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記以外にも随時受講生の興味に沿って提示する。

○江原由美子編（1996）『生殖技術とジェンダー—フェミニズムの主張（3）』勁草書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに
各自自己紹介を兼ねて興味のあるテーマについて共有する。輪読担当者を決定する。発表の方法について説明する。
2. 課題論文 / 課題書輪読
3. 課題論文 / 課題書輪読
4. 課題論文 / 課題書輪読
5. 課題論文 / 課題書輪読
6. 課題論文 / 課題書輪読
7. 課題論文 / 課題書輪読
8. 各自テーマ発表
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 個人発表
15. レポート課題のアウトライン提出

演習 A - 1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (60%) , 授業での発表 (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当箇所だけでなく、毎回の課題図書 / 論文を精読し、授業内でのディスカッションに備える。
また、授業後は、各回のテーマを自分なりにまとめ、個人研究に反映させる。

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況の変化により、シラバスの内容を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、医療社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、女性学

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観と科学的人間観を身につけていくことを授業のねらいとする。

この授業は3年生1学期に開講となるが、内容としては社会福祉とその周辺領域の基本的な文献を学習し、個人と集団、社会のあり方について理解を深め、人間的成長が周囲との関係性の中で培われている構造を把握することを到達目標とする。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で参考文献集を配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 レポート、論文の記述方法
- 3回 研究倫理教育
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 文献学習
- 14回 文献学習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（議論の内容、司会進行など）態度（30%）、報告内容（40%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

なお、成績評価のためには全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。
5回を超えて欠席した場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献学習が中心となるので事前学習としては、全員が指定する文献を精読し、担当者は発表用のレジュメを作成すること。事後学習は指定する文献から興味関心を広げ、多様な領域の文献を読むこと。

演習 A - 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず無遅刻で出席し、担当部分のレポートによる報告をおこなうこと
状況が許せば夏季休暇中（9月下旬）に合宿を行い、卒業論文に接近するための文献・資料について討議する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達、集団、少年期、青年期、自己肯定感、自立

演習 A - 1 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本授業は、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、理解を深めるものである。前半は、現代の子どもたちがおかれている環境について、中でも子どもが過ごす「場」（遊び場、居場所、子育て支援、学童保育等）について、幅広く知識を得る。後半には、質的研究の基礎に関する文献購読を行う。それらと並行して、子どもの「場」へのフィールドワークも行う。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生が選択するテーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション（顔合わせ・それぞれの関心事共有）
- 第2回：研究倫理教育
- 第3回：各自の関心事についての発表1
- 第4回：各自の関心事についての発表2
- 第5回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表1
- 第6回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表2
- 第7回：子どもの「場」へのフィールドワーク1
- 第8回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表3
- 第9回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表4
- 第10回：子どもの「場」へのフィールドワーク2
- 第11回：質的研究に関する文献購読1
- 第12回：質的研究に関する文献購読2
- 第13回：質的研究に関する文献購読3
- 第14回：各自の研究テーマについて発表1
- 第15回：各自の研究テーマについて発表2

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

(6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。)

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には資料をまとめてくること。(必要な学習時間の目安は、授業内容の予習時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を自分なりにまとめ、今後の自身の発表にいかせるよう整理しておくこと。(必要な学習時間の目安は90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは大きくは次の二点である。

- 臨床教育学をめぐる問題をテキストの講読を通して検討していく。
愛着スタイルや愛着障害の問題とそこから生じる「内的ワーキングモデル」やスキーマの問題を自分自身の課題とも関連づけながら検討する。
- 認知行動療法、対人関係療法、スキーマ療法などの心理療法の理論や技法について、文献やDVD、具体的なロールプレイ実習などを踏まえて実践的に学習することを通じて、対人援助の基本的な理論と援助スキルの修得をめざす。
- いじめ問題、児童虐待問題、子育て支援、セクシュアルマイノリティの子どもの問題など、臨床教育学における諸問題についてとりあげて議論を行う。

到達目標 教育現場の臨床的な問題に関するアセスメントと援助の基礎的なスキルを修得している。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

昨年度は、岡田尊司著「愛着アプローチ」、伊藤絵美著「事例で学ぶ認知行動療法」(誠信書房)、伊藤絵美著「自分でできるスキーマ療法」(誠信書房)をテキストとして使用した。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加学生の興味・関心に合わせて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 問題意識の交流とゼミ計画の話し合い
- 2回 研究倫理について
- 3回 カウンセリングの基礎的な実習 その1
- 4回 カウンセリングの基礎的な実習 その2
- 5回 文献購読 その1
- 6回 文献購読 その2
- 7回 文献購読 その3
- 8回 文献購読 その4
- 9回 文献購読 その5
- 10回 文献購読 その6
- 11回 見学実習(乳児院、女子少年院他)
- 12回 文献購読 その7
- 13回 文献購読 その8
- 14回 文献購読 その9
- 15回 全体のまとめ

演習 A - 1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 100%

出席について、7回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで、LINEのノートに事前に感想を記載すると同時、当日、自分の意見を言えるようにしておくこと。

強制ではないが、可能であれば、実践現場でのフィールドワークの場をどこかに持ってほしい。

履修上の注意 /Remarks

欠席する場合には必ず連絡すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

愛着スタイル、カウンセリングスキル、認知行動療法、スキーマ療法

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】

教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

それぞれのテーマに基づいて、

1: ガイダンス、2: 政策や制度の変容と課題、3: 実践や実態の動向と課題、4: 論点整理、5: まとめと進めていきます。

第1回 研究倫理教育

第2回～第5回 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日の課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していかうとする実践について理解を深めていきます。

第6回～第10回 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。

第11回～第15回 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習テーマの取り組みと発表...70% 討論・調査・実践活動への参加...30%

6回以上欠席した場合や課題や調査・実践に参加しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、テーマについて、ネットだけでなく、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの論点を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容について、まとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

概要

教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

到達目標

(思考・判断・表現力) 教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。
(コミュニケーション力) 他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
(自律的行動力) 教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
 - 2回 参加型学び(1)【バズセッション】
 - 3回 テーマ学習【子ども・若者】
 - 4回 4年生との共同の学び
 - 5回 面接調査(1)【ライフライン法①】
 - 6回 面接調査(2)【ライフライン法②】
 - 7回 テキスト分析(1)【ソーシャルメディア①】
 - 8回 テキスト分析(2)【ソーシャルメディア②】
 - 9回 参加型学び(2)【ジグソー学習】
 - 10回 文献講読(1)【子ども・若者】
 - 11回 文献講読(2)【子ども・若者と教育】
 - 12回 文献講読(3)【家庭での教育】
 - 13回 文献講読(4)【学校での教育】
 - 14回 文献講読(5)【教育問題】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

* 6回以上欠席した場合や課題を行わなかった場合は原則評価不能(-)

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

4年生との合同での学習を行う回があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生の皆さん自身が積極的に関わることで更に豊かな学びとなります。
共に学びあいましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりすると言った経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していくことを到達目標と考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス，連絡網の作成
- 2回 科学的研究の方法論（ 1 ）
- 3回 科学的研究の方法論（ 2 ）
- 4回 文献の探し方
- 5回 文献購読①
- 6回 文献購読②
- 7回 文献購読③
- 8回 文献購読④
- 9回 グループ研究のテーマと研究内容
- 10回 グループ研究の資料収集
- 11回 グループ研究発表の資料作り
- 12回 グループ研究発表①
- 13回 グループ研究発表②
- 14回 グループ研究発表③
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・・・・・・・・ 100%

4回以上欠席した場合・・・・・・・・・・ 評価不能（ - ）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回，次週行うテーマについての課題を与えるので，文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究倫理教育
- 3回 健康に関する諸問題について (1)
- 4回 健康に関する諸問題について (2)
- 5回 スポーツ実施者の直面する諸問題について (1)
- 6回 スポーツ実施者の直面する諸問題について (2)
- 7回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (1)
- 8回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (2)
- 9回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (3)
- 10回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (4)
- 11回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (5)
- 12回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (6)
- 13回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (7)
- 14回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%
決められたプレゼンテーションをしなかった場合、評価不能 (-) とします。

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

健康に関するプレゼンテーション資料を作成し、その諸問題について考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。発表者以外も疑問点などをしっかり質問をする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

到達目標

「思考・判断・表現力」これまでの授業や大学での学びで得られた知識や経験に基づいた関心や問いを、研究テーマとして設定し、レジュメ作成やプレゼンテーションができる。
「コミュニケーション力」討論を通して、自らの考えを模索、構築し、互いに伝えあい、検討し合うことができる。
「自立的行動力」自ら計画して、資料収集や現地調査を実践し、大学内外の物的人的状況に対応した知的活動ができる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 論文・文献収集と講読
- 4回 論文・文献収集と講読
- 5回 論文・文献収集と講読
- 6回 現地調査計画
- 7回 現地調査計画
- 8回 現地調査
- 9回 現地調査
- 10回 現地調査
- 11回 現地調査のまとめ
- 12回 現地調査のまとめ
- 13回 現地調査のまとめ
- 14回 現地調査計画
- 15回 現地調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

出席回数が半数に満たない場合は原則、評価不能(-)とする。

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する文献購読を通して、コミュニケーション能力や社会性、母子関係や仲間づくりなど、ひとの発達現象について心理学の視点から理解を深める。同時に、研究論文の書き方、データの収集の方法、統計的分析についても学習を深める。
また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】発達心理学について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】発達心理学や発達支援への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

演習 A-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献講読では発達心理学に関連するものを受講者自身が準備し発表を行う。
また、文献講読の内容を踏まえグループ研究のテーマ検討を行う。
その他、学外での実践活動についての検討会やゼミ合宿を行う。

第1回 オリエンテーション

○文献を探す際のキーワード例
母子関係、愛着、共同注意、心の理論、言語発達、育児ストレス、
発達障害（自閉性障害、学習障害、精神遅滞、ADHD…）、発達援助、など

第2回 文献講読1
第3回 文献講読2
第4回 文献講読3
第5回 文献講読4
第6回 実践活動検討1
第7回 文献講読5
第8回 文献講読6
第9回 文献講読7
第10回 文献講読8
第11回 実践活動検討2
第12回 グループ研究1（研究テーマの検討）
第13回 グループ研究2（研究テーマの検討）
第14回 グループ研究3（研究テーマの検討）
第15回 研究倫理教育

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 … 100%
ただし、6回以上欠席した場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

認知心理学に関するテーマについてグループ研究を行う。各自で作成した研究計画書を持ち寄り、グループ研究のテーマを決定する。その後、グループで改めて研究計画を検討し、実験実施準備、実験の実施、データ分析、レポート作成を行う。最後に研究発表会を行う。これらの活動を通して、卒業研究に必要な方法論や技術を修得するとともに、他者と協力するコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、研究計画発表 1
2. 研究計画発表 2、グループ分けと研究テーマ決め
3. グループ研究 (研究計画作成と実施準備 1)
4. グループ研究 (研究計画作成と実施準備 2)
5. グループ研究 (研究計画作成と実施準備 3)
6. 経過報告会 1
7. グループ研究 (データ収集と分析 1)
8. グループ研究 (データ収集と分析 2)
9. グループ研究 (データ収集と分析 3)
10. グループ研究 (データ収集と分析 4)
11. 経過報告会 2
12. グループ研究 (レポート作成 1)
13. グループ研究 (レポート作成 2)
14. 研究発表会 1
15. 研究発表会 2

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究への関与度、授業における発表内容、授業態度を総合的に評価 100%
6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には授業時間内で研究内容を検討できるよう、資料を準備し、議論したいことをまとめておくこと。
授業後には授業時間内に受けたコメントを検討し、研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業の時間だけでなく、その他の時間を利用して自主的に研究を進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

各グループで社会心理学的問題の一つずつとりあげ、仮説構成、実験や調査の計画、データ分析、結果と考察の発表、討議を行う予定である。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行できることも目標である。

DP3 思考・判断・表現力

育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えや判断を論理的かつ適切な方法で表現することができる。

DP4 コミュニケーション力

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

DP5 自律的行動力

教育や人間形成への関心を持ち、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ分けと研究テーマの決定
 - 2回 先行研究を読む(日本語)
 - 3回 先行研究を読む(日本語)
 - 4回 先行研究を読む(日本語)
 - 5回 先行研究を読む(英語)
 - 6回 先行研究を読む(英語)
 - 7回 先行研究を読む(英語)
 - 8回 先行研究を読む(英語)
 - 9回 実験・調査の計画・実施
 - 10回 実験・調査の計画・実施
 - 11回 実験・調査の計画・実施
 - 12回 データ分析
 - 13回 データ分析
 - 14回 データ分析
 - 15回 発表
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%
6回以上欠席した場合は原則評価不能(-)とする。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。
日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくと良い。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成を念頭に置きながら、臨床心理学や青年心理学に関する文献講読を行い、自分の関心のあるテーマや領域を明確化・具体化していくことが求められる。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業開始時に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回～14回 文献購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表・討論への参加度 ... 80%

6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習として、授業で取り上げられる箇所を前もって読んで自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
- 事後学習として、レジュメに目を通して内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

専門書講読の授業開始前に、発表担当者はレジュメを作成すること。また、それ以外の者も事前に読んでおいて疑問点や批判点を明確にし、「輪読メモ」を作成すること。
授業終了後に、レジュメに目を通しながら内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。グループワークや学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。

到達目標

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を得ることができる。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を得ることができる。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：研究倫理教育

2回～15回 課題について各自がディスカッションペーパーをまとめ、それをもとに議論を実施する。

司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

いずれの評価も得ていない場合、成績評価を不可「-」とする。それ以外は、点数に応じた評価を実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。

テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。

トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習活動を行う。

社会的情勢によっては遠隔での演習に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。

ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。

人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。

卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%

各自の調査研究 ... 50%

研究を行わずゼミに参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A-2 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、卒業論文執筆を最終的な目標として、個人 / グループで専門的研究を行う。各自が執筆のテーマを決定し、計画的に執筆を進めることができるように、まずは文献の読解と個人発表を行う。ゼミではこの個人発表とその後のディスカッションを通じて研究の質を高める。2学期は各受講生の興味に沿ったテーマをもとに基礎研究を進める。
このゼミでは「ジェンダー」をメインテーマに、「医療」をサブテーマにして、現代社会におけるさまざまな問題を考察する予定だが、その他、広い社会学的関心に基づくテーマ設定も可能である。

到達目標：

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自律的判断力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を授業中に紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記以外にも随時受講生の興味に沿って提示する。

○江原由美子編（1996）『生殖技術とジェンダー—フェミニズムの主張（3）』勁草書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 課題レポートの発表、ディスカッション
2. 課題レポートの発表、ディスカッション
3. 課題レポートの発表、ディスカッション
4. 課題論文 / 課題書輪読
5. 課題論文 / 課題書輪読
6. 課題論文 / 課題書輪読
7. 課題論文 / 課題書輪読
8. 課題論文 / 課題書輪読
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 個人発表
15. レポート課題のアウトライン提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（60%）、授業での発表（40%）

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当箇所だけでなく、毎回の課題図書 / 論文を精読し、授業内でのディスカッションに備える。
また、授業後は、各回のテーマを自分なりにまとめ、個人研究に反映させる。

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況の変化により、シラバスの内容を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、医療社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、女性学

演習 A-2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観および科学的人間観と、援助の際に必要な発達観を身につけていくことを授業のねらいとする。

この授業は3年生2学期に開講となるが、内容としては社会福祉的援助のあり方を中心として、現在の援助の専門性について研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、研究テーマを設定する際の問題意識を明確にすることを到達目標とする。

教科書 /Textbooks

1学期の最後の授業で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 個別研究テーマの設定
- 14回 個別研究テーマの設定と問題意識の明確化①
- 15回 個別研究テーマの設定と問題意識の明確化②

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（議論の内容、司会進行など）態度（30%）、報告内容（40%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

なお、成績評価のためには全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。
5回を超えて欠席した場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

2学期も文献学習が中心となるが、現代の社会福祉問題に接近することができるような資料も合わせて使用する。そのため事前学習としてはテレビ報道、新聞等で取り上げられる社会福祉問題やその周辺領域の問題に関して資料収集をすること。事後学習としては社会福祉問題やその周辺領域の問題に関する文献を多読すること。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉の諸問題に関して総論的に学習を進め、4年生からの卒業研究に関するテーマ設定の準備を行う。2学期が終了する春休みには状況が許せば合宿を行い、卒業論文のためのテーマ設定を行う。社会福祉の現場などにもでかけ、フィールドワークをおこないたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会問題、生活問題、社会的孤(個)立、自立、社会的包摂、社会的排除

演習 A-2 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本授業では、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について理解を深め、自身の研究テーマを見出すことを通して、卒業論文の土台をつくることを目指す。前半は、自身の研究テーマに関する先行研究を整理し、「問い」を明らかにしていく。後半には、質的研究の手法に関する文献購読を行う。それらと並行して、メインとなる「場」へのフィールドワークを開始する。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生が選択するテーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：各自の研究テーマ紹介 1
- 第2回：各自の研究テーマ紹介 2
- 第3回：先行研究の整理・発表 1
- 第4回：先行研究の整理・発表 2
- 第5回：先行研究の整理・発表 3
- 第6回：先行研究の整理・発表 4
- 第7回：質的研究に関する文献購読 1
- 第8回：質的研究に関する文献購読 2
- 第9回：質的研究に関する文献購読 3
- 第10回：グループ発表準備（先行研究整理・フィールドワーク等） 1
- 第11回：グループ発表準備（先行研究整理・フィールドワーク等） 2
- 第12回：グループ発表
- 第13回：卒業論文に向けての検討 1
- 第14回：卒業論文に向けての検討 2
- 第15回：卒業論文に向けての検討 3

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

(6 回以上欠席した場合は、原則評価不能 (-) とする。)

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には発表資料をまとめておくこと。(必要な学習時間の目安は、授業時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を整理し、今後の自身の発表にいかせるようにまとめておくこと。(必要な学習時間の目安は60分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは大きくは次の二点である。

1. 一学期に引き続き、臨床教育学に関する諸問題について、テキストを購読しつつ考察していく。
2. 対人関係療法、スキーマ療法などの心理療法の理論や技法について、文献やDVD、具体的なロールプレイ実習などを踏まえて実践的に学習する。そのことを通じて、対人援助の基本的な理論と援助スキルの修得をめざす。
3. 来年度の卒業論文執筆に向けての論文構想の発表と指導を行う。また、四年生の卒論発表会に参加し、質問やコメントを行い、来年度の卒論執筆に向けての展望を持てるようにする。

到達目標 教育現場の臨床的な問題に関するアセスメントと援助の実践的なスキルを修得している。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読 その1
- 3回 文献購読 その2
- 4回 文献購読 その3
- 5回 文献購読 その4
- 6回 文献購読 その5
- 7回 文献購読 その6
- 8回 文献購読 その7
- 9回 見学実習(少年支援室など)
- 10回 見学実習(学童保育など)
- 11回 卒業論文構想発表1
- 12回 卒業論文構想発表2
- 13回 卒業論文構想発表3
- 14回 卒業論文構想発表4
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

出席について、7回以上欠席した場合は原則評価不能(-)とします。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えや判断を論理的かつ適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】

教育や人間形成への関心を持ち、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

1：ガイダンス、2：政策や制度の変容と課題、3：実践や実態の動向と課題、4：論点整理、5：まとめと進めていきます。

第1回 研究倫理教育

第2回～第5回 地域における教育の構造や、その連関について理解を深めます。

第6回～第10回 NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行います。

第11回～第15回 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討します。

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

6回以上欠席した場合や課題や調査・実践に参加しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、テーマについて、ネットだけでなく、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの論点を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容について、まとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

概要

演習A-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

到達目標

(思考・判断・表現力) 教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。
(コミュニケーション力) 他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
(自律的行動力) 教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション
 - 2回 テーマ学習(1) 【教育に関する現代的テーマ】
 - 3回 定性調査(1) 【観察法】
 - 4回 デイバート 【4年生の提示したテーマ】
 - 5回 卒論中間発表 【研究の背景・研究方法】
 - 6回 文献講読(1) 【研究関心に沿った文献①】
 - 7回 文献講読(2) 【研究関心に沿った文献②】
 - 8回 文献講読(3) 【研究関心に沿った文献③】
 - 9回 テーマ学習(2) 【海外の教育】
 - 10回 文献講読(4) 【研究関心に沿った文献④】
 - 11回 文献講読(5) 【研究関心に沿った文献⑤】
 - 12回 定性調査(2) 【SCAT法】
 - 13回 課題意識検討会 【リサーチクエスト】
 - 14回 卒論発表会 【研究成果のわかちあい】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%
* 6回以上欠席した場合や課題を行わなかった場合は原則評価不能(-)

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
「自分のテーマ」を見つけ、そのテーマに関する資料等をもとにプレゼンテーションを行うので、
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

4年生との共同の学びの回があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身が深めたい研究テーマは何か、じっくりと考えていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりするといった経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していくことを到達目標と考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 各自で関心のある領域・テーマを見つける①
- 2回 各自で関心のある領域・テーマを見つける②
- 3回 文献購読①
- 4回 文献購読②
- 5回 文献購読③
- 6回 文献購読④
- 7回 グループ研究のテーマ選定と研究内容
- 8回 グループ研究の資料収集
- 9回 グループ研究の調査用紙作成①
- 10回 グループ研究の調査用紙作成②
- 11回 グループ研究の調査
- 12回 グループ研究のデータの打ち込み
- 13回 グループ研究のデータの編集および分析
- 14回 グループ研究の結果および考察
- 15回 ふりかえりと4年生に向けての準備

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・・・・100%
4回以上欠席した場合・・・・・・評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えや判断を論理的かつ適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 科学研究の方法論(1)
- 3回 科学研究の方法論(2)
- 4回 文献の探し方(1)
- 5回 文献の探し方(2)
- 6回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 7回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 8回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 9回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 10回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 11回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 12回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 13回 卒業論文のテーマ選定
- 14回 卒業論文の方法論の決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 70% プレゼンテーション... 30%
決められたプレゼンテーションをしなかった場合、評価不能(-)とします。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

健康に関する文献をまとめ、考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。ディスカッションを通して、卒業論文のテーマ選定を考えていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

到達目標

「思考・判断・表現力」これまでの授業や大学での学びで得られた知識や経験に基づいた関心や問いを、研究テーマとして設定し、レジュメ作成やプレゼンテーションができる。
「コミュニケーション力」討論を通して、自らの考えを模索、構築し、互いに伝えあい、検討し合うことができる。
「自立的行動力」自ら計画して、資料収集や現地調査を実践し、大学内外の物的人的状況に対応した知的活動ができる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 論文講読の分担発表と討論
- 6回 論文講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 現地調査
- 9回 現地調査
- 10回 現地調査
- 11回 調査研究の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 調査研究の分担発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

出席回数が半数に満たない場合は原則、評価不能(-)とする。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する研究テーマに従い、グループ演習を行う。コミュニケーション発達、母子関係など各グループでテーマを設定し、研究計画作成、データ収集・分析、研究レポート作成と研究実施における一連の手続きの学習を目的とする。また、学期最後には研究成果について発表会を行う。

また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】発達心理学について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】発達心理学や発達支援への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー1
- 第3回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー2
- 第4回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー3
- 第5回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー4
- 第6回 実践活動検討1
- 第7回 グループ研究：データ収集・分析1
- 第8回 グループ研究：データ収集・分析2
- 第9回 グループ研究：データ収集・分析3
- 第10回 グループ研究：データ収集・分析4
- 第11回 実践検討活動2
- 第12回 グループ研究：研究レポート作成1
- 第13回 グループ研究：研究レポート作成2
- 第14回 研究発表会1
- 第15回 研究発表会2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%
ただし、6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文のテーマ設定、文献研究、研究計画作成、データ収集、データ整理、卒業論文執筆を行うため、認知心理学的研究の知識と実践の方法を学ぶ。授業の中で各自の研究経過を発表し、議論しながら研究を進めていく。

到達目標は以下の通りである。

- ・文献を引用しながら、論理的に仮説設定や考察を行うことができる。
- ・研究倫理を踏まえた上で、研究目的に合致した妥当な研究計画を立てることができる。
- ・適切な方法でデータの整理を行うことができる。
- ・論理的なプレゼンテーションおよび文章作成ができる。
- ・他者のプレゼンテーションや論文を適切に分析し、意見を述べるることができる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的方法で表現することができる

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション (授業の進め方と全体的な研究スケジュールの確認)
2. 研究テーマの発表と議論
3. 研究テーマの発表と議論
4. 研究テーマの発表と議論
5. 研究進捗状況の発表と議論
6. 研究進捗状況の発表と議論
7. 研究進捗状況の発表と議論
8. 研究進捗状況の発表と議論
9. 研究進捗状況の発表と議論
10. 研究進捗状況の発表と議論
11. 研究進捗状況の発表と議論
12. 研究進捗状況の発表と議論
13. 研究進捗状況の発表と議論
14. 研究進捗状況の発表と議論
15. 研究進捗状況の発表と議論

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表20%、文献・実験研究50%、平素の総合評価30%
6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には授業時間内で研究内容を検討できるよう、資料を準備し、議論したいことをまとめておくこと。
授業後には授業時間内に受けたコメントを検討し、研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中は議論の時間であるので、卒業論文の作成に関わる実質的な活動は授業時間外に行うことになる。授業時間にとらわれず、積極的に活動することが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

DP3 思考・判断・表現力

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

DP4 コミュニケーション力

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

DP5 自律的行動力

教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究倫理教育
 - 2回 研究の基礎
 - 3回 各自の研究テーマ発表、議論
 - 4回 各自の研究テーマ発表、議論
 - 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 14回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 15回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%
6回以上欠席した場合は原則評価不能(-)とする。

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。
卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業研究に向けて、各自が興味・関心あるテーマを選び、そのテーマに関する国内外の文献研究を進め、討議を通じて問題・仮説の設定を行う。さらに、心理学研究方法を用いてデータの収集、分析を行い、論文にまとめる。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 進め方は以下の通り
 研究倫理教育
 研究テーマの選定
 関連する文献の講読、討議
 研究計画の立案
 研究の実施
 研究結果の分析、検討
 卒業論文の作成、提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は卒業論文に関するレジメを作成する。
 事後学習として、レジメに目を通して、内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者はレジメを作成しておくこと。
 授業終了後に、レジメに目を通して、内容に関する理解を深めること。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。
セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。
学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。
卒業論文に向けた研究計画の報告や全体討論も含む。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を得ることができる。
- 【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組み意欲を得ることができる。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：研究倫理教育
- 2回～12回 指定された文献について全員がディスカッションペーパーを作成し、議論を実施する。
- 13回～15回 卒業論文の中間報告（個別報告と全体討論）
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% ディスカッションペーパーの提出50% 議論への参加30%
いずれの評価も得ていない場合、成績評価を不可「-」とする。それ以外は、点数に応じた評価を実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会的情勢によっては遠隔での演習に切り替えることがあります。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「研究倫理教育」人間を対象に研究する場合の倫理的な基準やその考え方を学ぶ。
- 2回 フィールドワークによる調査法と文献の集め方を学ぶ
- 3回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ？

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%
研究を行わずゼミに参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習B-1 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、卒業論文執筆を最終的な目標として、個人/グループで専門的研究を行う。
このゼミでは「ジェンダー」をメインテーマに、「医療」をサブテーマにして、現代社会におけるさまざまな問題を考察する予定だが、その他、広い社会的関心に基づくテーマ設定も可能である。

到達目標：

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的判断力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を授業中に紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時受講生の興味に沿って提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに
前年度からの卒業論文研究の進捗状況の報告、今後の研究計画の発表。
2. 課題論文 / 課題書輪読
3. 課題論文 / 課題書輪読
4. 課題論文 / 課題書輪読
5. 課題論文 / 課題書輪読
6. 課題論文 / 課題書輪読
7. 課題論文 / 課題書輪読
8. 各自テーマ発表
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 個人発表
15. 卒業論文のアウトライン提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当箇所だけでなく、毎回の課題図書 / 論文を精読し、授業内でのディスカッションに備える。
また、授業後は、各回のテーマを自分なりにまとめ、個人研究に反映させる。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況の変化により、シラバスの内容を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、医療社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、女性学

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

この授業は4年生1学期に開講となるが、内容としては社会福祉援助のあり方を中心とした現在の社会福祉問題を、具体的テーマの下、研究する。個人々の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障がい者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。そのことが、“書かなければならない”卒論から、“自己実現のための”研究の転換へと私たちを導いてくれることと思う。この授業では、研究テーマ設定の際の問題意識を明確にすることを到達目標とする。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文執筆作法と研究倫理
- 3回 研究対象の検討
- 4回 研究対象の検討
- 5回 研究方法の検討
- 6回 研究方法の検討
- 7回 研究内容の検討
- 8回 研究内容の検討
- 9回 社会（福祉）調査の検討
- 10回 ソーシャルサーベイの検討
- 11回 フィールドの検討
- 12回 フィールドワークの方法の学習
- 13回 研究テーマと問題意識に関する報告
- 14回 研究テーマと問題意識に関する報告
- 15回 個別報告

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（具体的な発言にみられる問題意識のあり方）態度（20%）、報告内容（50%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

なお、成績評価のためには全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。
5回を超えて欠席した場合は原則的に評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては卒論テーマを確定するための諸資料の収集や調査を行う。事後学習としては卒論テーマに即して諸資料の整理・分類を行う。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

4年生1学期は卒業論文のテーマを個人若しくはグループで設定し、研究計画を考える。卒業論文に必要な諸資料の収集、文献探索、調査の方法についても指導する。状況が許せば夏期休暇中に合宿をおこない、卒業論文の骨子を検討する。
夏季休暇中(9月下旬)に合宿を行い、卒業論文のテーマに即した章立・内容について検討する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究方法、調査方法

演習B-1 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

本授業は、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、理解を深めるものである。前半は、自身の研究に関連する先行研究を整理するとともに、自身の問いに合わせたフィールドワークを行い続け、リサーチクエスチョンを立ち上げさせる。後半は、そのリサーチクエスチョンに基づき、フィールドワークをさらに深め、中間発表会に向けての準備とする。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション（昨年度の振り返り）

第2回：研究倫理教育

第3回：リサーチクエスチョンに関する発表1

第4回：リサーチクエスチョンに関する発表2

第5回：リサーチクエスチョンに関する発表3

第6回：リサーチクエスチョンに関する発表4

第7回：各自の研究の進捗状況についての発表1

第8回：各自の研究の進捗状況についての発表2

第9回：各自の研究の進捗状況についての発表3

第10回：各自の研究の進捗状況についての発表4

第11回：卒論中間発表会に向けての発表準備1

第12回：卒論中間発表会に向けての発表準備2

第13回：卒論中間発表会に向けての発表準備3

第14回：卒論中間発表会に向けての発表準備4

第15回：卒論中間発表会リハーサル

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

(6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には資料をまとめてくること。(必要な学習時間の目安は、授業内容の予習時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を自分なりにまとめ、今後の自身の発表にいかせるよう整理しておくこと。(必要な学習時間の目安は90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標は以下の通りである。

- ①教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的方法で表現することができる。
- ②他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- ③教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

本授業では、3年生での一年間の学習成果を踏まえて、卒業論文の執筆に向けての報告と検討を中心にして進める。

そのことを通じて、①一つのテーマについて、先行研究を踏まえて、主観的、恣意的ではなく、論理的、客観的に考える力、② 研究に必要な研究方法(インタビュー、事例検討など)の獲得をはかる。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション — 卒業論文の書き方
- 2回 研究倫理教育
- 3回 卒論構想発表 1
- 4回 卒論構想発表 2
- 5回 卒論構想発表 3
- 6回 卒論構想発表 4
- 7回 卒論構想発表 5
- 8回 卒論構想発表 6
- 9回 卒論構想発表 7
- 10回 卒論構想発表 8
- 11回 卒論中間報告会
- 12回 卒論構想発表 9
- 13回 卒論構想発表 10
- 14回 卒論構想発表 11
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

なお、11月頃に学科全体で行われる卒論の中間報告会では極力報告できるようにしてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒論執筆に向けて、関連する文献を収集し、その分野の知見を整理すること。
卒論に必要なデータについては早めの収集に心がけること

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

卒業論文の完成に向けての文献の探索、研究方法の明確化を積極的に進めてもらいたい。
卒論の進め方については、演習の時間以外にもどんどん質問をしてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文は大学で学んだことの集大成であり、大学生活を意味づける上で最も大きな意味を持つものです。
「この学科で学んでよかった」、そんな意味づけができるようにがんばってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】

教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。
複数回実施のものは、1回目：ガイダンス・自由討議、2回目：モデル検討・自分の課題への応用検討と進めます。

- 1回～2回 研究倫理教育、理論的な考え方について
- 3回～4回 研究とは何か
- 5回～7回 テーマの設定と課題レポート作成計画の提出
- 8回 先行研究についての文献リストの作成
- 9回～10回 先行研究についての考察
- 11回～12回 分析視点と仮説の設定
- 13回～14回 それらの文章化
- 15回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討議、調査、実践活動への参加...30%
6回以上欠席した場合や課題や調査・実践に参加しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの見解を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容を活かして、自分なりに再整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくことゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

課題

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ、子ども・若者と教育に関するテーマ、様々な教育問題の文献の検討や討論等を通して、教育学の専門的知識や研究の仕方などを学ぶ。

到達目標

(思考・判断・表現)

人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。

他者に理解できるように、自らの考えを適切に表現することができる。

(関心・意欲・態度)

人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。

他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

人間関係学科演習科目における上記の到達目標をふまえ、当科目では以下を到達目標とする。

- ①教育の諸課題を総合的に考えることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを効果的に表現できる。
- ③教育の諸課題を検討する効果的な方法を選択し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際に、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

演習B-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN【研究倫理教育】
- 2回 テーマ学習【子ども・若者】
- 3回 研究計画の検討(1)【研究目的・課題】
- 4回 研究計画の検討(2)【研究方法】
- 5回 研究論文に関わる文献の検討(1)【文献リスト】
- 6回 研究論文に関わる文献の検討(2)【先行研究の整理】
- 7回 研究論文に関わる文献の検討(3)【先行研究の吟味】
- 8回 研究論文に関わる文献の検討(4)【先行研究の批評】
- 9回 研究論文に関わる文献の検討(5)【課題の確定】
- 10回 フィールドワークの報告【観察分析の分かち合い】
- 11回 質問紙調査(1)【ワーディング】
- 12回 質問紙調査(2)【予備調査】
- 13回 研究計画の検討(3)【論文の構成】
- 14回 デイベート【教育に関する時事的テーマ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...40% 課題...60%

*6回以上欠席した場合や課題を行わなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに幅広く関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

3年生との合同の学習の機会においては、3年生のゼミの時間に行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究テーマを決め、必要な情報や資料を収集していく段階に来ました。
参加者が互いに刺激しあう演習にいきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりするといった経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していくことを到達目標と考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文のテーマの検討 (1)
- 2回 卒業論文のテーマの検討 (2)
- 3回 卒業論文のテーマの決定
- 4回 卒業論文の方法論の検討 (1)
- 5回 卒業論文の方法論の検討 (2)
- 6回 卒業論文の方法論の検討 (3)
- 7回 卒業論文の方法論の検討 (4)
- 8回 卒業論文の方法論の決定
- 9回 卒業論文に向けてのプレゼンテーション (テーマ, 目的, 方法を中心に)
- 10回 卒業論文の予備実験および予備調査の準備 (1)
- 11回 卒業論文の予備実験および予備調査の準備 (2)
- 12回 卒業論文の予備実験および予備調査実施 (1)
- 13回 卒業論文の予備実験および予備調査実施 (2)
- 14回 卒業論文の予備実験および予備調査のデータ打ち込み
- 15回 卒業論文の予備実験および予備調査のデータ編集および分析

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・・・・・・・・ 100%

4回以上欠席した場合・・・・・・・・・・ 評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、卒業論文作成について、テーマの選定、方法論について考え、実際に調査・測定を実施する

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究倫理教育
- 3回 卒業論文作成について
- 4回 卒業論文のテーマ決定
- 5回 卒業論文の予備調査
- 6回 卒業論文の方法論決定
- 7回 卒業論文の調査
- 8回 卒業論文の調査
- 9回 卒業論文プロポーザル発表
- 10回 データ処理方法について(1)
- 11回 データ処理方法について(2)
- 12回 データ処理方法について(3)
- 13回 図表の書き方(1)
- 14回 図表の書き方(1)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文のテーマに関する内容について文献を読んだり考えをまとめてくること
決められたプレゼンテーションをしなかった場合、評価不能(-)とします。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文のテーマ決定を行い、なるべく早く調査・測定を実施します。それと同時に、文献研究も同時に行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

到達目標

「思考・判断・表現力」これまでの授業や大学での学びで得られた知識や経験に基づいた関心や問いを、研究テーマとして設定し、レジュメ作成やプレゼンテーションができる。
「コミュニケーション力」討論を通して、自らの考えを模索、構築し、互いに伝えあい、検討し合うことができる。
「自立的行動力」自ら計画して、資料収集や現地調査を実践し、大学内外の物的人的状況に対応した知的活動ができる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 現地調査
- 6回 現地調査
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 現地調査
- 11回 現地調査
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 夏休みの調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

出席回数が半数に満たない場合は原則、評価不能(-)とする。

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献・論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習してくることが必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成と並行して、テーマ設定、関連文献の講読、研究計画について議論を行う。また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】発達心理学について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】発達心理学や発達支援への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学生の卒業論文のテーマに沿って、各自の研究テーマや研究計画の検討、先行研究レビューの発表を行う。その他、学外での実践活動についての検討会やゼミ合宿を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文テーマ検討1
- 第3回 論文テーマ検討2
- 第4回 先行研究・文献レビュー1
- 第5回 先行研究・文献レビュー2
- 第6回 実践活動検討1
- 第7回 研究計画検討1
- 第8回 研究計画検討2
- 第9回 研究計画検討3
- 第10回 研究計画検討4
- 第11回 実践活動検討2
- 第12回 卒業論文経過発表1
- 第13回 卒業論文経過発表2
- 第14回 卒業論文経過発表3
- 第15回 卒業論文経過発表4

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%
ただし、6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1学期の演習B-1に引き続き、卒業論文に関して文献研究、研究計画作成、データ収集、データ整理、論文執筆を行うため、認知心理学的研究の知識と実践的方法を学ぶ。授業の中で各自の研究経過を発表し、議論しながら研究を進めていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 各自の進捗状況と今後の研究スケジュール確認
2. 研究進捗状況の発表と議論
3. 研究進捗状況の発表と議論
4. 研究進捗状況の発表と議論
5. 研究進捗状況の発表と議論
6. 研究進捗状況の発表と議論
7. 研究進捗状況の発表と議論
8. 研究進捗状況の発表と議論
9. 研究進捗状況の発表と議論
10. 研究発表の練習
11. 卒業論文中間発表会
12. 研究進捗状況の発表と議論
13. 研究進捗状況の発表と議論
14. 研究発表の練習
15. 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

発表30%、文献・実験研究50%、平素の総合評価20%
6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には授業時間内で研究内容を検討できるよう、資料を準備し、議論したいことをまとめておくこと。
授業後には授業時間内に受けたコメントを検討し、研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中は議論の時間であるので、卒業論文の作成に関わる実質的な活動は授業時間外に行うことになる。授業時間にとらわれず、積極的に活動することが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行できることも目標である。

DP3 思考・判断・表現力

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的かつ適切な方法で表現することができる。

DP4 コミュニケーション力

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

DP5 自律的行動力

教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表の練習
 - 2回 研究発表の練習
 - 3回 中間発表
 - 4回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 14回 研究発表の練習
 - 15回 最終発表
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%
6回以上欠席した場合は原則評価不能(-)とする。

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。
卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続いて、卒業研究の作成を行う。

<到達目標>

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 進め方は以下の通り
研究テーマの選定
関連する文献の講読、討議
研究計画の立案
研究の実施
研究結果の分析、検討
卒業論文の作成、提出

15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は卒業論文に関するレジюмеを作成する。

事後学習として、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者はレジюмеを作成しておくこと。

授業終了後に、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。
セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。
学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。
卒業論文に向けた研究計画の報告や全体討論も含む。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を得ることができる。
- 【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組み意欲を得ることができる。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：研究倫理教育
 - 2回～12回 指定された文献について全員がディスカッションペーパーを作成し、議論を実施する。
 - 13回～15回 卒業論文の中間報告（個別報告と全体討論）
- 司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% ディスカッションペーパーの提出50% 議論への積極的参加30%
いずれの評価も得ていない場合、成績評価を不可「-」とする。それ以外は、点数に応じた評価を実施する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習を行うことがある。
社会的情勢によっては遠隔での演習に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%

各自の調査研究 ... 50%

研究を行わずゼミに参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習B-2 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、卒業論文執筆を最終的な目標として、個人/グループで専門的研究を行う。
このゼミでは「ジェンダー」をメインテーマに、「医療」をサブテーマにして、現代社会におけるさまざまな問題を考察する予定だが、その他、広い社会学的関心に基づくテーマ設定も可能である。

到達目標：

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的判断力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を授業中に紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時受講生の興味に沿って提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに
卒業論文研究の進捗状況の報告、今後の研究、調査、執筆計画
2. 課題論文 / 課題書輪読
3. 課題論文 / 課題書輪読
4. 課題論文 / 課題書輪読
5. 卒業論文アウトライン提出、発表
6. 課題論文 / 課題書輪読
7. 課題論文 / 課題書輪読
8. 個人発表
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 卒業論文提出
15. 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当箇所だけでなく、毎回の課題図書 / 論文を精読し、授業内でのディスカッションに備える。
また、授業後は、各回のテーマを自分なりにまとめ、個人研究に反映させる。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況の変化により、シラバスの内容を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、医療社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、女性学

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

この授業は4年生2学期に開講となるが、内容としては社会福祉援助のあり方や、その他社会福祉領域を中心としてゼミ生各人が立てた研究計画の下、卒業論文を作成する。個人々の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障がいのある人、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求の内容を学び取っていくことが求められる。卒業論文の作成を通して、学生個人々がテーマ設定の際に確認した問題意識を文章として具体的に表現することを到達目標とする。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・個別研究テーマの確認
- 2回 論文に関する個別指導
- 3回 論文に関する個別指導
- 4回 論文に関する個別指導
- 5回 論文に関する個別指導
- 6回 論文に関する個別指導
- 7回 論文に関する個別指導
- 8回 論文に関する個別指導
- 9回 論文に関する個別指導
- 10回 論文に関する個別指導
- 11回 論文に関する個別指導
- 12回 論文に関する個別指導
- 13回 論文に関する個別指導
- 14回 論文に関する個別指導
- 15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度（論文に関する学習・調査・研究への取り組み）（30%）、報告内容（40%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

なお、成績評価のためには全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。
5回を超えて欠席した場合は原則的に評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては卒業論文の検討を具体的に行うので、進捗状況や論文内容に関するレジュメを作成する。事後学習としては授業中の検討を元に、資料収集や追加的な調査、論文内容の見直し等を行う。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

個人若しくはグループで設定した卒業論文のテーマを、具体的にまとめていく。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏期休暇中に実施した合宿での卒業論文の骨子を具体化し、論文を作成する。1月下旬に学内で卒業論文報告会を実施し、状況が許せば2月には最後のゼミ合宿に参加して卒業論文の詳細な報告を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

本授業は、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、理解を深めるものである。前半は、フィールドワーク最終段階とし、自身の研究についての結果と考察をまとめる。後半は、卒業論文の完成を目指す。

<到達目標>

- 【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】教育や人間形成への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生が選択するテーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション(これまでの振り返り)
- 第2回：研究倫理教育
- 第3回：各自の研究の結果と考察に関する発表1
- 第4回：各自の研究の結果と考察に関する発表2
- 第5回：各自の研究の結果と考察に関する発表3
- 第6回：各自の研究の結果と考察に関する発表4
- 第7回：卒業論文の構成についての発表1
- 第8回：卒業論文の構成についての発表2
- 第9回：卒業論文の構成についての発表3
- 第10回：卒業論文の構成についての発表4
- 第11回：卒業論文の執筆
- 第12回：卒業論文の執筆
- 第13回：卒業論文の執筆
- 第14回：卒業論文の執筆
- 第15回：卒業論文の完成

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

(6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。)

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には資料をまとめてくること。(必要な学習時間の目安は、授業内容の予習時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を自分なりにまとめ、今後の自身の発表にいかせるよう整理しておくこと。(必要な学習時間の目安は90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標は以下の通りである。

- ①教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。
- ②他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- ③教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

本授業では、1月の卒業論文指導に向けて、前半は構想発表、後半は個人指導を中心に進める。

そのことを通じて、①一つのテーマについて、先行研究を踏まえて、主観的、恣意的ではなく、論理的、客観的に考える力、② 研究に必要な研究方法(インタビュー、事例検討など)の獲得をはかる。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。参考文献は個々の学生に合わせて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の卒論テーマに合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション 研究倫理の確認
- 2回 卒論構想発表 1
- 3回 卒論構想発表 2
- 4回 卒論構想発表 3
- 5回 卒論構想発表 4
- 6回 卒論構想発表 5
- 7回 卒論構想発表 6
- 8回 個別指導
- 9回 個別指導
- 10回 個別指導
- 11回 卒論区中間発表会
- 12回 個別指導
- 13回 個別指導
- 14回 卒業論文発表会
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70点 卒論発表会 30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4年間の学びの集大成である卒業論文の完成に向けて、早い段階から執筆作業を始めてほしい。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

二学期は演習の時間以外の個別指導の時間が多くなるので、積極的にアポイントを取り、指導を受けてください。
原則として11月に行われる卒論中間報告会で発表できるように準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について、資料や情報の整理、調査研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、卒論作成につなげます。現代社会における人間の自己教育の到達点、諸活動の課題・可能性について教育的に解明することを課題とします。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的かつ適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】

他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】

教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。
複数回実施のものは、1回目：ガイダンス・自由討議、2回目：モデル検討・自分の課題への応用検討、(3回目：総括討論)と進めます。
1回～2回 研究倫理教育、実証研究とは何か
3回～4回 テーマの設定と関連活動の情報の収集・整理
5回～7回 課題レポート調査計画の提出
8回 調査活動の実施
9回～10回 調査結果の分析
11回 補足資料、補足調査の実施
12回～13回 それらの文章化
14回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評
15回 調査協力者への報告、提案
授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%
6回以上欠席した場合や課題や調査・実践に参加しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの見解を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容を活かして、自分なりに再整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

概要

これまでの演習での成果や課題をふまえ、子ども・青年と教育に関するテーマ、様々な教育問題の文献の検討や討論を通して、さらなる教育学の専門的知識を習得し、研究の進め方・まとめ方などを学ぶ。

到達目標

(思考・判断・表現)

人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。

他者に理解できるように、自らの考えを適切に表現することができる。

(関心・意欲・態度)

人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。

他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

人間関係学科演習科目における上記の到達目標をふまえ、当科目では以下を目標とする。

- ①教育の諸課題を総合的に考えることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを効果的に表現できる。
- ③教育の諸課題を検討する効果的な方法を選択し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際に、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

演習B-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 研究論文完成に向けて【成果に学ぶ】
- 3回 研究論文に関わる発表・討論1【本論・事例研究】
- 4回 研究論文に関わる発表・討論2【本論・質問紙調査】
- 5回 研究論文に関わる発表・討論3【本論・面接調査】
- 6回 研究論文に関わる発表・討論4【本論・テキスト分析】
- 7回 中間まとめ
- 8回 研究論文・中間発表【研究目的・方法、論文構成】
- 9回 研究論文に関わる発表1【論文の仕上げ：キーワード】
- 10回 研究論文に関わる発表2【論文の仕上げ：リライト】
- 11回 研究論文に関わる発表3【論文の仕上げ：最終チェック】
- 12回 研究論文の検討【論文の検討・相互批評】
- 13回 課題意識の検討【研究テーマ接近への支援】
- 14回 研究論文成果の発表【研究成果のわかちあい】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%
* 6回以上欠席した場合や課題を行わなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習B-1に続いて、定期的な報告の機会を活用して研究を進め、研究論文をまとめる。
授業に当たり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

3年生との合同での学びは、3年生のゼミの時間に行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での研究の集大成として卒業論文をまとめあげ、また、それぞれの知的成果をわかちあう時です。
存分に学びましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりすると言った経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していくことを到達目標と考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文の予備実験および予備調査のプレゼンテーション
- 2回 卒業論文のテーマの再検討および決定
- 3回 卒業論文の方法論の再検討および決定
- 4回 卒業論文の実験および調査の準備 (1)
- 5回 卒業論文の実験および調査の準備 (2)
- 6回 卒業論文の実験および調査実施 (1)
- 7回 卒業論文の実験および調査実施 (2)
- 8回 卒業論文の実験および調査のデータ打ち込み、編集、分析
- 9回 卒業論文の執筆 (1)
- 10回 卒業論文の執筆 (2)
- 11回 卒業論文の執筆 (3)
- 12回 卒業論文の執筆 (4)
- 13回 卒業論文の執筆 (5)
- 14回 卒業論文の提出
- 15回 卒業論文のプレゼンテーション、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・・・・・・・・ 100%

4回以上欠席した場合・・・・・・・・・・ 評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、卒業論文完成に向けて、データ整理、結果の解釈について考え、卒業論文を完成させる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】教育や青年期の文化について学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的かつ適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】教育や人間形成への関心を持ち続け、課題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文のデータ整理 (1)
- 3回 卒業論文のデータ整理 (2)
- 4回 卒業論文のデータ整理 (3)
- 5回 卒業論文のデータ整理 (4)
- 6回 結果の解釈 (1)
- 7回 結果の解釈 (2)
- 8回 統計的解釈 (1)
- 9回 統計的解釈 (2)
- 10回 卒業論文中間発表
- 11回 卒業論文作成 (1)
- 12回 卒業論文作成 (2)
- 13回 卒業論文作成 (3)
- 14回 卒業論文作成 (4)
- 15回 卒業論文最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 20% 卒業論文 ... 50% プレゼンテーション ... 30%
決められたプレゼンテーションをしなかった場合、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文の結果に関して、文献を読んだりして考えをまとめてくること

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

卒業論文で行った、調査結果を元に、パソコンを使って、見やすい表、わかりやすいグラフの作り方などについて考えていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

到達目標

「思考・判断・表現力」これまでの授業や大学での学びで得られた知識や経験に基づいた関心や問いを、研究テーマとして設定し、レジュメ作成やプレゼンテーションができる。
「コミュニケーション力」討論を通して、自らの考えを模索、構築し、互いに伝えあい、検討し合うことができる。
「自立的行動力」自ら計画して、資料収集や現地調査を実践し、大学内外の物的人的状況に対応した知的活動ができる。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 調査研究の分担発表と討論
- 6回 現地調査
- 7回 現地調査
- 8回 文献資料講読
- 9回 調査研究の分担発表と討論
- 10回 文献資料講読
- 11回 調査研究の分担発表と討論
- 12回 現地調査
- 13回 現地調査
- 14回 調査研究のまとめ
- 15回 調査研究のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

出席回数が半数に満たない場合は原則、評価不能(-)とする。

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献・論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習してくることが必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成と並行して、自身の研究のデータ分析、結果の解釈、論理的考察などについて心理学の立場から議論を深める。また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】発達心理学について学際的・複眼的に思考し、自分の考えを論理的な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他の学生と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】発達心理学や発達支援への関心を持ち、課題の解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究データ分析 1
- 第3回 研究データ分析 2
- 第4回 研究データ分析 3
- 第5回 研究データ分析 4
- 第6回 実践活動検討 1
- 第7回 卒業論文中間発表 1
- 第8回 卒業論文中間発表 2
- 第9回 卒業論文作成 1
- 第10回 卒業論文作成 2
- 第11回 実践活動検討 2
- 第12回 卒業論文作成 3
- 第13回 卒業論文作成 4
- 第14回 卒業論文研究発表 1
- 第15回 卒業論文研究発表 2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%
ただし、6回以上欠席した場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習II 【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と社会と自然の関係についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間と社会と自然の関係を分析・検討するための基礎的な研究法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	自らの考えやグループでの意見を適切にまとめ表現できる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	人間と社会と自然の関係を多角的に捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間関係学基礎演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、人間関係学科の実験実習に向けた入門演習を中心に行う。
2年次の実験実習科目の選択をする際に、実習・演習を体験して判断することが望ましい。また、2年次以降の科目の履修選択に関しても、実習や演習を実際に体験して学ぶことが効果的である。そこで、この授業では、入門的な実習・実習をいくつかの領域にわたって学ぶことにする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～3回 私たちが生活する地域社会についてフィールドワークを体験する。
- 4回～5回 私たちが生活する環境についてフィールドワークを体験する。
- 6回～7回 私たちが生活する人間関係についてフィールドワークを体験する。
- 8回 人間関係学科実験実習(2年次履修)のガイダンス
- 9回～10回 からだの使い方を意識した動作習得を体験する。
- 11回～12回 教育の基礎についてペアワーク・グループワークを通して学ぶ。
- 13回～14回 心理学の基礎的な実験をペアになって体験する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各実習への取組、指定された課題レポート等によって総合的に評価する。
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で事前に指示された注意事項に基づいて準備する。授業後は、レポート作成等、指定された内容に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学概論

PSY100M

授業の概要 /Course Description

社会心理学及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

到達目標

【知識】心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回調査研究の方法【無作為抽出】【測定の妥当性】
- 第7回心理学研究の社会的意義【研究史】【引用文献】
- 第8回「心理学を学ぶ」について考える【専門知】【問題生成】
- 第9回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第10回パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着】【行動遺伝学】
- 第11回不応の成り立ちについて【防衛機制】【不応】
- 第12回不応の理解と援助【心理アセスメント】【心理的支援】
- 第13回カウンセリングの理論【精神分析】【行動療法】
- 第14回カウンセリングの実践【心理アセスメント】【病院臨床】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 20% 試験（もしくはレポート）... 80%

2名の教員による試験（もしくはレポート）のいずれも受けていない（もしくは提出していない）場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることが望ましい。
授業終了後は、配布プリント等に目を通して、内容に関する理解を深めること。

心理学概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	科学の一分野としての心理学についての基礎を正しく理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	心理学的方法に基づいて人間の行動や心の働きについて学んでいける。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎心理学

PSY101M

授業の概要 /Course Description

この講義では心理学の基礎分野を概観することによって、人間のこころを明らかにする基礎心理学の領域を学ぶことを目的としている。主に認知心理学と発達心理学の立場から、心理学の歴史および研究法、感覚、知覚、学習、さらには発達理論、発達における障害をテーマとして取り上げる。

(到達目標)

【知識】心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のオリエンテーション、基礎心理学とは何か？
- 第2回 心理学の歴史【心理学の誕生】
- 第3回 心理学の歴史【心理学の領域】
- 第4回 心理学の研究法【観察法】、【調査法】、【検査法】
- 第5回 人間の感覚と知覚 その1【感覚様相】【閾値】
- 第6回 人間の感覚と知覚 その2【空間知覚】【運動知覚】【錯覚】
- 第7回 人間の学習【条件付け】
- 第8回 2～7回のまとめ
- 第9回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第10回 乳児期から児童期の発達理論①【幼児図式】【言語発達】【愛着】
- 第11回 乳児期から児童期の発達理論②【共同注意】【心の理論】
- 第12回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第13回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第14回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第15回 9～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(小テストまたはレポート)・・・100%
ただし、6回以上欠席した場合や課題を受験・提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

2学期開講の「心理学概論」と併せて受講されることを薦めます。
授業終了後は、配布プリント等に目を通して、内容に関する理解を深めること。

基礎心理学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科, 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会学を学ぶ上での基礎的な思考の枠組みを理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	身の回りの社会事象について、客観的な視点からの理解や把握を可能にする。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会学概論

SOC100M

授業の概要 /Course Description

この授業では、3つのアプローチを通して基礎となる社会的な思考方法と方法論を習得します。まず社会学における基本的な概念や理論について学びます。次に社会学の古典を精読し、社会学特有の発想や方法論について理解を深めるとともに、文献を読解する力を習得することを目指します。最後に身近な現代社会における諸問題について取り上げながら、社会学の調査法と研究動向について学びます。これらの学習により、関心のあることごとらについて自分の意見を述べるができるようになることを目指します。

到達目標

【知識】社会学に関する基礎的な知識を身につける。

教科書 /Textbooks

- E. デュルケーム『自殺論』（中公文庫）
- M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の「社会学がわかる（基礎編・応用編）」コーナーに配架された基礎文献等。

社会学概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 社会学とは何か
【社会学の領域、基本概念の説明】
- 3回 社会の近代化と個人、アイデンティティ
【ジンメル『社会分化論』、ミードの社会的自我論】
- 4回 社会的相互作用とは
【ミード、ゴフマンの相互作用論】
- 5回 自殺論 1
【意味的行為の理解の仕方】
- 6回 自殺論 2
【自己本位的自殺】
- 7回 自殺論 3
【アノミー的自殺】
- 8回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 1
【近代批判としてのマックス・ウェーバー】
- 9回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 2
【キリスト教と禁欲：ルターとカルバン】
- 10回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 3
【予定説の意味と現代社会】
- 11回 中間テスト
- 12回 現代社会における格差
【階層、子どもの貧困、外国人労働者】
- 13回 現代社会における差別
【コミュニケーション論、様々な差別、文化の盗用】
- 14回 質的調査の方法 1
【ライフストーリー / ライフヒストリー、ガーフィンケル & シュッツのエスノメソドロジー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのコメントシート20%、中間テスト40%、レポート 40%
6回以上欠席した場合は評価不能(－)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義についての案内や資料の配付および補足はMoodleにて実施する。講義の前に必ず確認すること。
テキストの指定された範囲には事前に目を通しておくこと。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況によってはシラバスの内容(評価方法を含む)を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境概論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	人間と自然の関係や問題に関心を持ち、主体的に学習できる。	
	コミュニケーション力			
※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			人間環境概論	ENV100M

授業の概要 /Course Description

地球環境問題が、早急な対応が必要な世界共通の課題であることは、ここ数年の間に世界中で発生した様々な気象災害や森林火災などから、ますますはっきりしてきました。その解決のためには、人間の経済活動の再検討が必要であることはいうまでもありません。しかし、それに加えて環境の正しい理解、とくに環境問題を引き起こした私たち人間と自然の関係について考えをめぐらさなければ、本質的な解決には結びつかないと思われます。地球環境問題は、人間の環境への関わり方が誤っていたことから発生した問題だからです。この授業では、人間と環境との関わりについて、自然、特に大地（地球）と森と人間との関わりについて理解を深めます。

この授業の目標は、以下の通りです。
人間と環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。
人間と環境の関係について関心を持ち、主体的に学習できる。

(到達目標)
【知識】自然と人間の関わりに関する幅広い知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜プリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 只木良也「森と人間の文化史」(NHKブックス)
- 樋口忠彦「日本の景観」(ちくま学芸文庫)
- 有岡利幸「里山III」(法政大学出版局)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球環境の概観 【地球史の中で考える環境問題】
- 2回 環境問題のしくみ1 【代表的な環境問題：地球温暖化】
- 3回 環境問題のしくみ2 【環境問題は自然界のバランスの破壊が原因】
- 4回 私たちの住んでいる場所・今という時 【自然の猛威と災害】【現在は歴史の流れの一部であるという視点】
- 5回 環境と文明1 【文明は環境変動の中で生まれ消滅してきた】
- 6回 環境と文明2 【パラダイムの変遷：環境問題にアプローチする新しい価値観】
- 7回 1～6回のまとめ
- 8回 森林の多面的機能
- 9回 農山村と自然環境1【地形と村落景観】
- 10回 農山村と自然環境2【山村問題と住民生活】
- 11回 森林資源と利用1【森林伐採と林業史】
- 12回 森林資源と利用2【木造住宅と木の文化】
- 13回 森林資源と利用3【世界の林産物と日本】
- 14回 地域社会と森林【北九州市の森林環境】
- 15回 8～14回のまとめ

人間環境概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

野井 (1回~7回) 小テストまたはレポート...50%
岩松 (8回~15回) レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

前半 (野井担当) と後半 (岩松担当) のレポート (あるいは指示された小テスト) を、一方でも未提出の場合は、原則評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題に関する情報が、テレビやネットで最近特に頻繁に発信されています。これらを見て環境問題の最新の状況を知ると、この授業を受けるのが楽しくなると思います。授業後は、ノートを整理し、配付された資料等をもう一度よく読んで理解してから、それらを将来的に利用できる形で保存しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球 環境 森林 災害 文明 文化 景観 山村 木材

人類学概論【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人類学に関する専門的な知識の獲得。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化相対主義と人類の生物的普遍性について理解する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人類学概論

ANT100M

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解するには、なにが必要だろうか。たとえ「心」や「社会」の仕組みががわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だからだ。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準の背景になっているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感したり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。口では「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、考えてみればとても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人にフィールドワークという手法をつかって近づいていく。内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、「他人を知ることは自分を知ることである」という、もっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

(到達目標)

【知識】

人間と文化について基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する。

そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ

○「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール

以下はほんの一部である

○「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル

○「日常人類学宣言! 生活世界の深層へ / から」松田 素二

○「熊から王へ」中沢新一

○「人類大図鑑」ロバート・ウィンストン 小笠原景子

○「フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門」菅原和孝

○「身体の零度」三浦雅士

○「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

人類学概論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 入門編
- 第6講 交換とはなにか 応用編
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 国家とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 入門編
- 第10講 信じるとはなにか 応用編
- 第11講 自然とはなにか 入門編
- 第12講 自然とはなにか 応用編
- 第13講 わかるとはなにか 入門編
- 第14講 わかるとはなにか 応用編
- 第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- | | | |
|--------------------------|-----|-----|
| 講義で紹介するさまざまな活動に参加する | ... | 20% |
| 講義で紹介するさまざまな本を読み考える | ... | 20% |
| 講義に関連して提示されるさまざまな議論に参加する | ... | 20% |
| 講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を提出 | ... | 40% |
- 課題を小論を一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専用のウェブ掲示板または北方Moodleを用いて、双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこなう。主体的でインタラクティブな学びを意識してほしい。

履修上の注意 /Remarks

「人間ってなんだろう」「生きるってなんだろう」みたいなことについて、ふだんからよく考えており、すでに大人の心の準備ができています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切です。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

教育学概論【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 山下 智也 / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 人間関係の諸問題について教育的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育学概論

EDU100M

授業の概要 /Course Description

教育学概論では、学校や市民生活における課題のとらえ方、その克服の視点・方法・実践について基礎的な理解について考えていく。講義においては、以下の柱を中心として学習を進めていく。

- ①教育に関する基礎的な概念を通して「教育とは何か」ということの検討
 - ②今日の青少年の人格発達の危機をめぐる諸問題とその克服に向けての教育指導の課題の検討
 - ③現代社会における生涯学習・生涯教育の意義と課題の検討
 - ④人間形成と教育、子どもの教育環境についての検討
- こうした検討を踏まえて、人間形成と教育の違い、教育の意義や課題について理解を深める。

(到達目標)

【知識】

教育に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は4名の教員によって行われます。

- 1回 教育とは何か-教育学の視座-
- 2回 今日の子どもの抱える生きづらさへの理解と援助 その1 児童虐待問題
- 3回 今日の子どもの抱える生きづらさへの理解と援助 その2 いじめ問題
- 4回 発達障害の問題への理解と援助 ー自閉スペクトラム症に視点をあてて
- 5回 臨床教育学の課題と方法
- 6回 現代の子どものとりまく環境
- 7回 子ども主体の遊びとは
- 8回 求められる「子どもの居場所」
- 9回 子どもにとって豊かな環境を保障するために
- 10回 主体形成のプロセスと援助1 ー海外から見る日本の生活・教育
- 11回 主体形成のプロセスと援助2 ー子どもと大人の育ちと支援
- 12回 主体形成のプロセスと援助3 ー地域における教育
- 13回 教育行政学の視点から1 ー学ぶことと子どもの権利
- 14回 教育行政学の視点から2 ー学校と子どもの権利
- 15回 教育行政学の視点から3 ー父母・住民の権利

教育学概論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...100% (毎回授業時の小レポートと4人の担当者毎の課題レポート)
(評価は4人それぞれの担当者が各25点で採点しその合計点で行います。それぞれの担当者は、授業時の小レポートと課題レポートで総合的に採点します。)

なお、平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 15点、対立の調停のシナリオ 15点

期末試験 40点

6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、指示に従い、テーマについて予習する。

事後は、講義内容を踏まえて、自分の見解を整理する。

履修上の注意 /Remarks

各回の内容を復習し、担当教員ごとに講義の内容について、自分なりの意見を整理していくと効果的な履修になると同時に、課題レポートへの準備になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ学概論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科, 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	これからの健康やスポーツ活動において、必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の健康やライフスタイルに問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯スポーツ学概論

HSS100M

授業の概要 /Course Description

運動やスポーツは、体育実技という枠組みを超えて、われわれの生活の様々な局面に関わりを持つようになってきた。それは、学校の授業として「まじめ」にからだを動かすことを強いられてきた体育実技とは異なり、からだを動かすことの楽しさや健康思考への認識の高まりといえるのではないだろうか。生涯スポーツ学概論では、このような観点に立って、多方面から「生涯スポーツ」について考える。

(到達目標)

【知識】健康やスポーツ活動に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】グループ活動について、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィットネスシリーズ〔全9巻〕○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯スポーツについて【自己実現】
- 2回 スポーツの違った見方
- 3回 スポーツと遺伝子
- 4回 スポーツとドーピング
- 5回 スポーツと緊張
- 6回 認知の再構成
- 7回 心理面の測定方法について
- 8回 生涯スポーツと健康
- 9回 ライフスタイルと健康
- 10回 運動の好き嫌い
- 11回 運動・スポーツの楽しみ方
- 12回 加齢と運動
- 13回 余暇と生活
- 14回 女性の運動・スポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・60% 日常の授業への取り組み(小レポート)・・・40%
5回以上の欠席、試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

これからの自分の健康やスポーツとの関わり方を考えながら受講するとよいでしょう

生涯スポーツ学概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ、健康スポーツ、QOL

心理学実験実習I【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学の基礎的な実験手法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	心理学的な諸現象の実験的手法および分析の技法を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	心理学実験で行った客観的事実及び主張を読み手にわかるように表現する。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	心理学実験における実証的なアプローチを実社会において応用する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して心理学実験を円滑に進めることができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学実験実習 I

PSY280M

授業の概要 /Course Description

心理学の基礎実験を計画、実施し、そのデータ整理、レポート作成の一連の流れを実験者、実験参加者として実際に体験し、心理学における「こころ」を測定するための方法を実践的な実験を通して学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 心理学の基礎的な実験手法に関する専門的知識を学ぶ。
2. 心理学実験において誤差を少なくするためにどのようなことをすべきか、誤差を考慮したデータ処理としてどのようなことをすべきかの技法を身につける。
3. 実験で行った客観的事実及び自分の主張をレポートして読み手にわかるように表現することができるようになる。
4. 心理学実験における実証的な検証が実社会とどのように結びつくかを学ぶ。
5. 心理学実験において実験が円滑に実施できるように、実験参加者に対してどのような配慮をすべきかを学ぶ。

(到達目標)

【技能】心理学の基礎実験を計画・実施し、その結果を分析することができる。

【思考・判断・表現力】心理学に関わる実験結果について論理的に考察し、適切に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 市川伸一 『心理測定法への招待』サイエンス社
- フィンドレイ 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房
- 利島保 『心理学のための実験マニュアル』北大路書房
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』筑摩書房

心理学実験実習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 【実験】
- 第2回 触2点閾の測定 【触覚】【弁別閾】
- 第3回 盲点の大きさの測定(1) 実験の実施 【盲点】
- 第4回 盲点の大きさの測定(2) 盲点の大きさの推定
- 第5回 長さの弁別閾の実験(1) 集団による実験 【弁別閾】【ウェーバーの法則】【心理測定関数】
- 第6回 長さの弁別閾の実験(2) 個人実験と2つの実験の比較
- 第7回 幾何学的錯視の測定(1) 内向・外向図形による実験 【ミューラーリヤー錯視】
- 第8回 幾何学的錯視の測定(2) 内向単独効果の実験 【遠近法説】
- 第9回 フィッツの法則の実験(1) 実験実施 【Fittsの法則】
- 第10回 フィッツの法則の実験(2) フィッツの法則の検証 【回帰分析】【インタフェース】【速さと正確さのトレードオフ】
- 第11回 心理尺度の構成(1) 一対比較法による実験 【心理尺度】【一対比較】
- 第12回 心理尺度の構成(2) サーストンの比較判断の法則による尺度化 【間隔尺度】
- 第13回 無意味綴りの記憶 【学習曲線】【系列位置曲線】【リハーサル】
- 第14回 心理学実験における倫理 【人権】
- 第15回 授業全体のまとめ
(実験の順序は変更する場合がある。4年生の卒業研究実験等に参加する場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート100%
 実験テーマごとに課されるレポートを必ず提出すること。提出されたレポートは添削をして学生に返却する。
 6回以上欠席した場合やレポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実験後、科学的論文としてのレポート作成。

履修上の注意 /Remarks

「心理統計」の授業を受講しておくことが望ましい。
 図書館で少なくとも1冊は心理学実験関係の専門書を読むこと。実験を行うので動きやすい服装などに気をつける。
 データ処理用の関数電卓、図表を描くためのグラフ用紙・定規など必要な購入品についてはオリエンテーションで説明する。
 授業後、授業中にできなかった図表の作成およびレポートの完成をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, チョウ ピンピン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会調査に関する基本的な作法を学ぶ。
技能	専門分野のスキル	● フィールドワークに関する実践的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 研究成果を人に伝えるための技能を習得する。
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)	● 現場での調査実践を通して、課題解決のための力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 現場での調査実践を通して、対人的なコミュニケーション技能を身につける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査実習 (フィールドワーク)	ANT280M
-------------------	---------

授業の概要 /Course Description

フィールドワークをの入門として、知らない人に会ってはなしをしたり、自分が知りたいことを教えてもらうためのノウハウを学ぶ。コロナ禍の中でできることを考えながら各自のテーマを決めていく。

- 1) まず、自分がいままでずっと持っていた疑問や、興味のあることを明らかにして、何を調べるかを考える。
- 2) つぎに、調べたいことを知るためにはどんな方法があるのかをみなで議論しながら検討する。
- 3) それから、実際に外に出て町をみたり人に会ったりする。
- 4) さらに、自分が聞いてきた話にどんな意味があるのか、そこにどんな発見があるのかを分析する。
- 5) そして、長年の謎を解きおもしろさを見つけ出す。
- 6) さいごに、そのおもしろさを人に伝える。プレゼンテーション力を磨く。

(到達目標)

- 【技能】フィールドワークや社会調査の基礎を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】質的調査のデータを適切にまとめ、考察を加えて成果をわかりやすく発表できる。
- 【コミュニケーション力】質的調査に必要なコミュニケーション能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

興味や調査対象に応じて個別に提示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィールドワークは楽しい(岩波ジュニア新書) 岩波書店 / 岩波書店
 フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門 菅原和孝 / 世界思想社
 躍動するフィールドワーク研究と実践をつなぐ 井上真 / 世界思想社
 京大式フィールドワーク入門 京都大学/京都大学東南アジア研究所 / NTT出版
 高齢化社会における介護者と被介護者の研究地域看護学によるフィールドワークと考察 芝山江美子 / 新風舎
 学生のためのフィールドワーク入門 アジア農村研究会 / めこん
 老いと障害の質的社会学-フィールドワークから
 山田富秋 / 世界思想社

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習期間を三段階のフェーズにわけ少しずつスキルを高めていく。

- 調査計画(planning) :1-2
自分の知りたいことをみつける。
- 予備調査(field-work) 手法検討(discussion):3-4
人の話をどうやって聞くのか。他者との接点をどう築いていくのか
- 本調査(field-work) 資料検討(discussion):5-7
得られた資料の傾向や関連性を考える。ほかにどんな資料が必要か
- 資料分析(desk work)考察検討(discussion):8-9
資料から導き出されるもの、発見されたものの意味を考える
- 補足調査(field-work):10
考察に基づき不足する資料を補う
- 提示検討(discussion):11-14
発見したもの、考察したものを提示し、内容を検討する。どうやって人に伝えるかを考える
- 発表会(presentation):15
調査によって明らかにされたことを人にわかるように伝える 資料と結果をレポートにまとめる

成績評価の方法 /Assessment Method

調査計画での議論... 40 %
調査研究... 20 %
考察検討... 20 %
最終発表... 20 %
最終発表をおこなわなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、5つくらいの研究テーマ、自分が調べてみたいものを考えておく。

履修上の注意 /Remarks

指示を待つのではなく自分で状況を判断するトレーニングをおこなう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークの楽しさを知るための実習でもある。いろいろなことをおもしろがってほしい。
複数の教員によって対面的に講義を進める

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学

社会調査実習 (サーベイ) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科, 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会調査の目的や、そのために妥当な各種の方法論を理解する。
技能	専門分野のスキル	● 計量的な手段を用いて、社会調査を計画・実施することができるようになる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自身の研究調査の目的と、その成果を公的な場で適切に報告するためのスキルや、そのための具体的な技法を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 研究課題に対して、課外での対人調査活動を実施する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● グループワークと対人調査を通して、他人との関わりの中で自身の研究目的や、その意義を高め合う。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査実習 (サーベイ)

SOC280M

授業の概要 /Course Description

調査とは何かについて学習した後、主に量的調査（アンケート調査）の基本を学ぶ。班別に学内外で実際に調査を行い、調査報告書を作り、調査結果の発表をする。とりわけこの実習では、社会学、社会福祉学、教育学など分野での量的調査を実践的に学ぶことを目的とする。

到達目標

- 【技能】 礎的な社会調査を行う技能を身につける。
- 【思考・判断・表現力】 礎的な社会調査を行う技能を身につける。

教科書 /Textbooks

必要に応じて教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 調査とは何か・オリエンテーション (サーベイとフィールドワーク)
- 2回 調査の手順概説・例示
- 3回 調査テーマのためのブレーン・ストーミング
- 4回 調査テーマ決定、班分け
- 5回 質問紙の設計
- 6回 質問紙の制作、印刷
- 7回 プリテストと調査票修正
- 8回 本調査実施準備と実施
- 9回 集計方法の概説
- 10回 集計の実施
- 11回 集計結果の確認
- 12回 報告書作成についての講義
- 13回 報告書作成
- 14回 報告書の点検、製本
- 15回 発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業態度 20%
- ② 報告書 50%
- ③ 発表 30%
- ※ 単位取得には全ての評価を満たすことを条件とする。
- ※ 全ての成績評価の合計が0点以下の場合は判定不能「-」とする。

社会調査実習（サーベイ）【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前事後学習の案内はMoodleにて実施する。
実習の進捗状況にはグループで差があるので、各自で把握しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

遅刻や欠席はグループ実習の大きな妨げとなるため、頻発する場合厳格に対処する。
学外で実習は開講時間外になることもある（週末等もあり得る）も理解した上で履修すること。
調査や分析のため、PC経由を利用する機会が多々あります。可能な限りPCを用意して下さい。
社会的情勢によっては遠隔での実習に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三年次のゼミ選択を意識した上で選択してください。

キーワード /Keywords

人間環境実験・実習【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 (ペア) /Class Format 実習 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間と自然との関係を分析・検討するための具体的な科学的方法論や技法を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間と自然の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境実験・実習

ENV280M

授業の概要 /Course Description

この科目では、フィールドや室内での実習と観察を通して自然と人間の関わりを考えるとともに、その研究手法について学びます。この科目には、「自然の中にいる楽しさを知る」、「自然と人間の関わりを考える」、「自然と人間の歴史を考える」という3つの目標があり、それらに基づいて、フィールドワークや実習が設計されています。

人間関係学科の各領域では、フィールドワークや実験が研究の基礎的手法となっているものが多くあります。この科目はそのような手法を学ぶ科目の一つです。「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、学習の中でも自分の手と目と耳で経験することはとても大切です。

この授業の目標は、以下の通りです。

人間と自然の関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。

人間と自然の関係を分析・検討するための具体的な科学的方法論や技法を習得する。

人間と自然の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。

(到達目標)

【技能】自然と人間の関わりに関する情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】自然と人間の関わりについて、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。

別途配布の「手引き書」に従って進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木正崇著「山岳信仰：日本文化の根底を探る」中央公論新社

○泉岳樹ほか著「卒論・修論のための自然地理学フィールド調査」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【スケジュールと安全学習】
- 2～4回 ※貫・曾根地区の自然と文化【地形と歴史の関わりをフィールドで考える】
- 5～7回 ※求菩提山の景観と信仰【山と森の神聖感と内在的価値】
- 8～9回 ※竹の生態と利用【竹林実習】
- 10回 地域の社会を聞き取り調査によって理解する【対面調査法】
- 11～12回 ※北九州市内の農山村で自然資源や食住生活を調査する【農村実習】
- 13回 聞き取り調査結果を分析する【KJ法】
- 14回 地域の歴史を人文地理的に理解する【古地図調査法】
- 15回 環境の変動を調べる【花粉分析】(受講者数により実施日の変更あり)

(注意) 本シラバスは前年度に作成したもので、2022年度の感染症の動向が見通せないため、内容が変更される可能性があります。

人間環境実験・実習【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80 % 授業態度...20 %

野外実習を3日以上欠席した人や、それと同等の回数の欠席者は、原則(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布する「手引き書」をよく読んで、内容を理解しておきましょう。実習後は、見学や観察、聞き取り調査のメモ等を整理して、将来的に資料として使えるよう保存しましょう。各テーマごとにレポートの提出が必要です。実習内容と考察について他者に的確に伝わるよう、文章、図表、写真などを工夫し、レポートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

実習が中心の科目ですから自発的な参加が望まれます。
授業計画・内容の欄で、※のついたテーマは、時間割上の時限ではなく、まとまった時間がとれる日曜日または祝日に集中的に実施します。予定している授業計画・内容は、天候やフィールドの状況等の事情により変更されることがあります。野外での活動が多くありますので安全に十分注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 施設見学や地域スポーツ活動を通して、基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● グループ活動・スポーツ活動において、社会実践の技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 課題を多角的に考えながら、実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と協力して、目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯教育・生涯スポーツ実習

EDU280M

授業の概要 /Course Description

子どもから高齢者を対象とする生涯教育や生涯スポーツに関わる活動のニーズの把握、事業・指導計画、生涯学習施設の経営など、生涯学習社会の構築に関わる専門的能力の育成(専門的な知見を踏まえた実践的な能力の向上、技術の習得)及び学習者とのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

そのため、生涯教育・生涯スポーツに関わる施設や職員、市民活動などについて見学や体験、実習を行いながら、学習を支援する視点や技能を高めていきます。また活動についての聞き取りやアンケートなどを行いながら、支援者や学習者・参加者の視点や課題について理解を深めます。

(到達目標)

【技能】グループ活動・スポーツ活動において、リーダーとして指導・実践することができる。

【思考・判断・表現力】グループ・スポーツ活動について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】他者と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

適時、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム・スポーツ
- 3回 障がい者スポーツプログラム(1) 講義
- 4回 障がい者スポーツプログラム(2) 実習「車椅子バスケット」
- 5回 北方小学校運動プログラム(1) プログラム考案
- 6回 北方小学校運動プログラム(2) プログラム予行
- 7回 北方小学校運動プログラム(3) プログラム指導・実践
- 8回 高齢者との交流プログラム (周望学舎)
- 9回 生涯教育の現状
- 10回 施設見学 (子育て交流ふれあいプラザ)
- 11回 生涯教育支援の技法(1) ワークショップ1 (コミュニケーションワークショップ)
- 12回 生涯教育支援の技法(2) ワークショップ2
- 13回 生涯教育支援の技法(3) ファシリテーション
- 14回 生涯教育・生涯スポーツの意義や課題についての考察
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 70% 課題レポート... 30%
5回以上の欠席、レポートの未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習や活動に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

スポーツ・レクリエーションなどの活動時には、運動ができる服装と体育館シューズが必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部の方々と積極的に関わりを持つように心がけましょう

キーワード /Keywords

国際関係の理論 【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論

IRL200M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

(到達目標)

【知識】国際関係の理解に必要な基礎的知識を体系的に修得している。

【技能】国際関係の理解に必要な情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。

○吉川直人、野口和彦 [編] 『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。

○原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。

滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編] 『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。

パスカル・ポニファス『現代地政学 国際関係地図』 (ディスカバー・トゥエンティワン、2019年)

その他の文献については授業中に紹介します。

国際関係の理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイデア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
15. 講義のまとめ【グローバルゼーションと国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。
小テスト：20% ミニレポート：20% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業内容の復習を行うこと。
必要に応じてMoodleに文書をUPするので参照し準備すること。(必要な学習時間の目安は、60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

キーワード /Keywords

リアリズム、リベラリズム、認識の共有、国際レジーム、地政学リスク、グローバル・ガバナンス

国際関係の争点【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互連関性について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点

IRL101M

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な脈絡からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

【到達目標】

DP1「知識」国際情勢を理解する上で必要となる幅広い知識を身につけている。
DP2「技能」国際関係を理解する上で重要となる情報を収集し、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジュメをMoodle上にアップします。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「平和学の基礎」【積極的平和】【消極的平和】
- 第2回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第3回 「安全保障のジレンマ」【囚人のジレンマ】【チキン・ゲーム】
- 第4回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】
- 第5回 「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
- 第6回 「エネルギー」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第7回 「気候変動」【地球温暖化】
- 第8回 「食料問題」【遺伝子組み換え作物】【ゲノム編集食品】
- 第9回 「感染症」【HIV/AIDS】【NTD】【マラリア】【新型コロナウイルス】
- 第10回 「移民、難民問題」【社会包摂】【多文化主義】【同化政策】【排外主義】【レイシズム】
- 第11回 「中東、イスラーム」【イスラモフォビア】【スンニ派とシーア派】
- 第12回 「アフリカ」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第13回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第14回 「国際貿易」【WTO】【RCEP】【TPP】【FTA/EPA】
- 第15回 「日本社会」（第1回目から第14回目のテーマをもとに日本社会を考える）

※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットな 이슈を取り上げる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(1本)・・・50% 学期末試験・・・50%
毎回Formsを使って出席を取ります。5回以上の欠席で「-」（評価不能）となります。

国際関係の争点【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジユメを前週の金曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として課題レポートを課します。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Moodleにレジユメをアップするので、プリントの配布は行いません。黒板を使用せず、ワードのファイルをスクリーンに投影し、そこに書き込むスタイルを取ります。そのため、大教室の後方では見えづらい可能性があります。なるべく前方に着席してください。できればダウンロードしたワードファイルを印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業中に補足した説明をメモするなど、独自にノートを作成してください。授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

(到達目標)

【知識】立地論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業の立地法則について、論理的に思考して立地行動を探索、判断し論理的に表現することができる。

【自律的行動力】企業立地への関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウエーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

経済地理学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学特講や地域経済、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

なお、今年度は受講者が多くなり、コロナ感染対策からメディア授業となる可能性があります。その際は、Moodleに動画をアップし、オンデマンドで視聴していただくこととなります。

(到達目標)

【知識】都市論および地域論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】都市の立地法則や地域構造の成り立ちについて、論理的に思考して法則性を探求、判断し論理的に表現することができる。

【自律的行動力】都市の立地や地域の成り立ちへの関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

経済地理学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験(オンデマンドの場合は最終課題になります。) ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会

HIS210M

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半では一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違ってきます。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

(到達目標)

【知識】近世史の論点に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】歴史の実証に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】近世史の論点について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えやを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』（吉川弘文館1982年）
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』（吉川弘文館1986年）
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』（東京大学出版会1995年）
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』（平凡社1987年）
- 高木侃『三下り半と縁切寺』（講談社〔現代新書〕1992年）
- 網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社1978年）
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社〔日本史リブレット〕2002年）

日本の歴史と社会 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①荘園制と太閤検地
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②幕藩領主財政と幕政・藩政の改革
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③榎本宗次説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④「百姓身持書」と丸山雍成説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤神崎直美・木崎弘美論争
- 15回 【慶安御触書】を読み直す⑥山本英二説

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館経営論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や、関連施設・組織との連携方法を考える。

（到達目標）

【知識】博物館経営に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】博物館経営について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

【自律的行動力】博物館経営への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、受講者各自に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館学講座』全10巻（雄山閣）
網干善教編『博物館学概論』（関西大学出版）
『月刊 博物館学研究』（日本博物館協会）
伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』（学苑社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての「博物館」
- 2回 「博物館法」の理念と事業
- 3回 博物館の世代と推移（機能と変遷）
- 4回 博物館の設置及び経営方針の策定
- 5回 博物館運営状況の点検と評価
- 6回 博物館資料の収集と保管
- 7回 博物館資料の展示と調査研究
- 8回 利用者への学習機会と情報の提供
- 9回 学校・家庭及び社会との連携
- 10回 博物館の組織（職員配置と研修）
- 11回 施設及び設備と危機管理
- 12回 事業計画と予算編成
- 13回 博物館経費の運用
- 14回 費用対効果の点検（コストの効率化）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。
授業出席だけでは「評価不能（－）」となりますので、必ず試験を受けてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

博物館法を熟読し、社会教育施設としての役割を考える。ついて、新聞などで報じられる博物館に関する情報から、博物館経営の課題を検討する。

履修上の注意 /Remarks

聞き流すことなく、講義のポイントをしっかりメモすること。
授業前に前講義の概要を見直しておくこと。
授業後は筆記したノートの要点を確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

キーワード /Keywords

地域社会への貢献とコスト意識。

博物館資料論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

博物館資料についての基礎知識を養う。

具体的には、博物館資料の種類や意味からはじめ、その収集・整理・保管等に関する理論や方法について学ぶ。また、博物館における調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、資料の活用に関する手順などを知り、博物館資料についての理解を深める。

(到達目標)

【知識】博物館資料に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】博物館資料について論理的に思考し、専門の見地から自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

【自律的行動力】博物館資料への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・『月刊 文化財』(文化庁、1963年～)
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび博物館資料について
- 第2回 博物館法と博物館資料
- 第3回 博物館資料の分類
- 第4回 博物館資料のいろいろなかたち
- 第5回 博物館資料の輸送作業
- 第6回 博物館資料の収集作業
- 第7回 博物館資料の形態および資料の整理・分類
- 第8回 博物館資料災害の実例と文化財保護法
- 第9回 博物館資料の保全-損壊因子①環境因子
- 第10回 博物館資料の保全-損壊因子②二次因子
- 第11回 博物館資料の保全-生物被害からの防除①物理的防除
- 第12回 博物館資料の保全-生物被害からの防除②科学的防除
- 第13回 博物館資料の保全-天災・人災からの保全
- 第14回 ルーブル美術館について
- 第15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%

定期試験...70%

※4回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

※15分以上の遅刻は欠席扱いとします。

※試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能(一)となります。

※その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

博物館資料論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「博物館概論」を受講しておくこと、理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館や文化財の情報に気を配るとともに、日常生活においても「物」を大切に、丁寧に扱う習慣を身につけてもらえればと思います。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館資料保存論【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 浩司 / SATO KOJI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

博物館資料とはいえ、その来歴はさまざまである。

たとえば、遺跡の発掘調査で出土する遺構や遺物は埋蔵文化財と呼ばれ、埋没した環境や使用された状況、また人為的な改変などにより、様々な態様を示して土中から掘り出される。その現状を克明に観察・記録することで、詳細な分類や分析が可能となり、それらを通して当時の生活、生産、消費活動の復元や精神的行為のあり方、さらには当時の人々、家族や組織などの社会形態をも知ることができる。

考古学的調査研究の対象となる遺構や遺物資料の歴史性を重視しつつ、個々の持つ多面的な情報を把握するとともに、それらが土中に埋もれながら今まで守られてきたことの意味を考えると、またこうした埋蔵文化財を保存し後世に伝えていくための技術や方法などを学ぶことで、過去から現在、未来へと受け継がれていく歴史と文化への理解を深めることを目的としたい。

通常の博物館資料保存論は、博物館資料＝「もの」の保存に関する基本的な知識や技術の習得、さらには日常的な管理と非日常的な危機管理を見据えた総合的な維持・管理のなかから、学芸員の役割や責務を理解することを主たる目的にしているため、この講座はやや異例ともいえる内容になる。

博物館に収納される以前の、いわば発見の原点に立ち、資料が残存する現状と限界を見極めることで、保存のあり方を考える講義をめざす。

この講義の到達目標は、①博物館資料保存に関する専門的知識を体系的かつ総合的に身につけること、②いずれ実習科目を受けることになるが、博物館資料保存を行うための基本的なスキルを学んで備えておくこと、③博物館資料保存論への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけること、としたい。

教科書 /Textbooks

なし

適宜、配布資料を用意する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 本田光子・森田稔『博物館資料保存論(放送大学教材)』放送大学教育振興会 2012
- デビッド・ワトキンソン『出土遺物の応急処置マニュアル』柏書房 2002
- 藤本強『考古学の方法 調査と分析』東京大学出版会 2000
- 文化庁文化財部記念物課(編)『発掘調査のてびき-整理・報告書編-』2010
- 国立歴史民俗博物館『考古資料と歴史学』吉川弘文館 1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス.....埋蔵文化財ともうひとつの博物館資料保存論
2. 総論(1) 【先史・原史時代(旧石器～古墳時代)の遺構と遺物】
3. 総論(2) 【歴史時代(古代～近代)の遺構と遺物】
4. 資料保存各論(1) 【土器・土製品の種類と保存】
5. 資料保存各論(2) 【石器・石製品の種類と保存】
6. 資料保存各論(3) 【金属器・ガラス製品の種類と保存】
7. 資料保存各論(4) 【木製品・繊維製品の種類と保存】
8. 資料保存各論(5) 【骨・骨製品・動物製品の種類と保存】
9. 遺跡と遺構調査(1) 【地形・土壌、遺構確認、掘削】
10. 遺跡と遺構調査(2) 【記録と情報】
11. 遺物調査(1) 【接合、復元、実測、拓本、トレース、写真撮影の内容】
12. 遺物調査(2) 【科学分析と保存】
13. 発掘調査報告書の作成と注意点
14. 学外授業.....文化財関連施設の見学および遺跡所在地周辺のフィールドワーク
15. まとめ.....地下保存から地上保存へ(博物館に受け渡すためにできること)

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験を課す。受験資格は3分の2以上の出席とする。(ただし初回は履修未確定期間のため、含めない)

成績評価点の配分方法

平常の授業への取り組み 20%、課題レポート 2回×10点、学期末筆記試験 60%

また、以下の場合には評価不能(-)とします。

- ・ 初回を除き、5回以上欠席した場合
- ・ 学期末筆記試験を受験しなかった場合
- ・ 試験開始後20分以上経過して入室した場合

博物館資料保存論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書、新聞、ウェブなどを通して各回の授業テーマについて事前に情報収集したり、前回までの授業内容の復習を行うこと。(目安の時間 予習60分、復習30分)

考古資料の取り扱いという視点では、近隣で行われている遺跡の発掘調査情報を取得して、現地説明会などの機会で見学したり、他都市の保存整備され公開されている遺跡を訪れて、どのような点に配慮して遺構復元や解説を行っているのか、またガイダンス施設などがあれば、その構造や周辺景観との調和など、多面的に観察して遺跡への理解を深めること。

さらに資料保存という視点で、実際に近くの博物館、資料館の展示を観覧すること。
(目安の観覧時間と頻度 40分×3回)

履修上の注意 /Remarks

講義の14回目は、文化財関連施設あるいは遺跡公園などの見学を行うので、昼休みを利用して各自移動すること。

(現地集合)

また、途中、急遽発掘現場の見学を行う場合もありうる。その際は直前の講義の中で知らせることとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館資料を構成する考古資料がどんな手順で見学・保存され、現在まで守られて来たのか、また今後どう守り伝えていけばいいのかを念頭に講義に臨んでほしい。

受講にあたっては常に積極的、主体的に、問題意識をもって臨むこと。わからないことがあればその場での質問も受けるし、授業後メールでの問い合わせでも構わない。学芸員資格を取得するために、あらゆる機会を利用して知識を習得するんだという前向きな気持ちが必要である。

キーワード /Keywords

考古学 埋蔵文化財 遺構 遺物 発掘調査報告書 保管・保存 公開・活用

博物館展示論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

博物館の展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を養う。
様々な分野の博物館における様々な展示形態・展示方法・機材の使用法について学ぶとともに、実際の展示の現状・課題について習得する。

第5回～第8回および第11回～15回は外部講師として、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館、北九州市立美術館の学芸員をお招きして学内で行う。(詳細な予定については、第1回目の授業のときに説明する。)

(到達目標)

【知識】博物館展示に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】博物館展示を行うための基本的なスキルを身につけている。

【自律的行動力】博物館展示への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・表智之・金澤韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが出会うとき』(臨川書店、2009年)○
- ・難波祐子『現代美術キュレーター・ハンドブック』(青弓社、2015年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「展示」とは?
- 第3回 博物館の分類とその具体的事例
- 第4回 展覧会企画と展示の方法
- 第5回 マンガ資料の特性と展示手法
- 第6回 展示設計と企画展マネジメント
- 第7回 地域の文化としてのマンガ / 北九州ゆかりのマンガ家たち
- 第8回 マンガ展示は誰のために
- 第9回 大学との協働での博物館展示について
- 第10回 仁川広域市立博物館の展示事例
- 第11回 文学館の展示制作物
- 第12回 文学館の展示と図録
- 第13回 美術館の展示作業(絵画・版画・古美術)
- 第14回 現代アートの展示とその特徴
- 第15回 教育普及と展示

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%

課題レポート...90%

※4回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

※15分以上の遅刻は欠席扱いとします。

※試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能(一)となります。

※その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

学芸員の方による授業前には、その方が勤務されている博物館についてインターネットなどで情報を得ておくこと。

講師の学芸員の方が勤務されている博物館を訪れる際は、授業内容を確認の上、観覧すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を訪ね、展示の仕方について観覧しておくことが望ましい。

博物館展示論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、博物館で勤務されている学芸員の方の話を聞ける貴重な科目です。内容を聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモするようにしてください。

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 史緒 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

美術館・博物館には「調査・研究」「保存・保管」「展示」といった役割があります。この授業では美術館・博物館の役割のうち、外に向かって開かれている部分＝人や地域と関わる部分を広く美術館の「教育的機能」ととらえます。そして美術館・博物館の教育的機能の考え方がどのように移り変わってきたかを踏まえつつ、近年の特徴的な試みについて国内外の事例から学びます。

美術館・博物館の教育的役割について考えることは、地域と文化、社会と文化、そしてひとりひとりの暮らしと文化の関わりについて考えることにつながります。例えば高齢化や産業構造の変化に対峙する地方自治体において、あるいは自然災害や公害で破壊されたコミュニティにおいて、美術館・博物館はどのような役割を担っていくことができるのでしょうか？多文化社会を生きていく子どもたち、障害や言語的・設備的ハードルによって施設に足を運びにくい人々に対し、どのように美術館・博物館の資料やノウハウを活用し、豊かな文化的体験を提供することができるのでしょうか？そして昨今の新型コロナウイルス感染症の広がりといった状況の中で、美術館・博物館はどのような社会的役割を果たすことができるのでしょうか？

本講義を通し、既存の美術館・博物館のイメージや現在の美術館・博物館のあり方を受講者それぞれの視点で問い直し、これからの美術館・博物館の役割についてより具体的に考えることができると思います。

(到達目標)

【知識】博物館教育に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】博物館教育の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】博物館教育への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

ありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 博物館の資料を用いた教育プログラム 1
3. 博物館の資料を用いた教育プログラム 2
4. 博物館の教育的役割の変遷
5. 博物館教育の理論的背景
6. 高齢者と博物館
7. 障がい者と博物館
8. 多文化社会と博物館
9. 博物館と地域 (災害と地域の記憶)
10. 博物館と社会の変化 1 (都市の衰退)
11. 博物館と社会の変化 2 (パンデミック)
12. 観光と博物館
13. 最終課題に関連した授業
14. 最終課題に関連した授業
15. 最終課題に関連した授業

成績評価の方法 /Assessment Method

事前事後課題と授業への積極的な参加 : 50% ワークショップ・レポート : 20% 最終課題 (WSづくり) : 30%
理由なく3回以上欠席した場合は評価不能とします。
「WSレポート」と「最終課題」のどちらかもしくは両方ともを提出しない場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の形式 (オンライン/オフライン) にもよりますが、基本的に事前or事後課題を課します。

博物館教育論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 対話・ 演習による授業のため、出席と議論への貢献を求めます。授業はグループワーク (グループで演習を行ったり、テーマに応じてグループで調べ発表する) が中心となります。
- ・ ワークショップ・ レポートは実際に博物館が行うワークショップに参加し、それをもとにレポートを提出してもらいます。進め方は新型コロナウイルスの状況を見て指示します。実際に博物館を訪れる場合は、受講者が各自日程を調整の上参加するものとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を持つ学生の進路も多様化しつつあります。この講義でカバーする内容は、美術館・博物館に勤めることを目指す方だけではなく、地方自治体や政府機関、劇場・音楽堂といった文化施設、まちづくりに関わる企業やNPOなどを目指す方にも有効な視点を多く含みます。自分の中の「問い」を大切にしながら参加してもらえればと思います。

キーワード /Keywords

美術館、博物館、教育、ワークショップ、まちづくり、記憶、地域、文化

博物館情報・メディア論【昼】

担当者名 /Instructor 須 孝幸 / Takayuki Nasu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この講義では、広義の「情報」「メディア」の観点から、美術館という現場の話題を中心に、博物館の仕組み、芸術と日常との関わりについて学びます。また、産業革命から現代まで世界の視覚メディアがどう変わってきたのかという事例を軸に、現代にいたる国内外の芸術表現、メディア思想を幅広く概観し、博物館メディアの現状と今後について考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい
※授業では使用しませんし、未読でもレポートや試験に影響しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 メディアとは何か ～メディア社会の博物館
 - 2回 メディアとしての博物館(1)【展覧会場ができるまで】
 - 3回 メディアとしての博物館(2)【博物館の役割とコレクション】
 - 4回 展覧会見学(1)【北九州市立美術館本館「コレクション展」「院展」視察】 ※学外授業
 - 5回 メディアとしての博物館(3)【学芸員による本の仕事について(立案、構成、執筆、編集)】
 - 6回 メディアとしての博物館(4)【展覧会企画について(調査、立案、交渉、構成、設営)】 ※レポート作成
 - 7回 展覧会見学(2)【北九州市立美術館分館「吉村芳生の世界展」視察】 ※学外授業
 - 8回 視覚メディアの歴史(1)【視覚メディアとは(有史以来の映像装置)】
 - 9回 視覚メディアの歴史(2)【19世紀前半における絵画と写真の関係1】
 - 10回 視覚メディアの歴史(3)【19世紀後半における絵画と写真の関係2】
 - 11回 視覚メディアの歴史(4)【20世紀前半の絵画と写真】 ※レポート作成
 - 12回 展覧会見学(2)【北九州市立美術館本館「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子展」視察】 ※学外授業(開会前特別観覧)
 - 13回 芸術・メディア・社会(1)【1960年代の芸術動向を事例に】
 - 14回 芸術・メディア・社会(2)【アートとメディアの関係】 ※レポート作成
 - 15回 著作権とメディア ～最終講義【アーティストとアート作品の関係について】
 - 16回 期末定期試験
- ※学外授業の日程は変動する場合があります(随時、授業でお知らせします)
※授業の詳細は、皆さんの関心や美術館現場の変化に合わせて変えていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート(3回)50%、定期試験30%、日常の授業への取り組み20%
- ・学外授業を含め3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・期末定期試験を受験しなかった場合または2回以上レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業当日までに各自前回の復習を行ってください。
- (2) 関心のある博物館や美術館など文化施設の自主見学を日頃に行うと、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

- (1) この講義は、博物館や美術館、文学館などに勤務する研究職「学芸員」資格取得のための必修科目です。学外授業を含め、授業への出席は評価以前の前提です。
- (2) この講義は、最新のメディア・テクノロジーを学ぶ内容ではありません。
- (3) 通常の学内講義のほか、北九州市立美術館(本館または分館)での学外授業(計3回程度)を予定しています。また、期末定期試験のほか、テーマごとにレポート課題(計3回程度)があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義や学外授業体験を通じて、博物館にまつわるメディアの知識だけでなく、自身が生きるメディア社会の実態と構図を多角的に洞察する姿勢や分析力を身につけてもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

博物館 展覧会 視覚メディア オリジナリティ 写真と絵画 社会と法律

博物館実習I【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、実際の博物館相当施設での館園実習の事前教育として、北九州市内の博物館相当施設の見学実習と学内での実務実習を行う。見学実習では、学芸員の方から専門的な話を伺う予定。
見学実習の日程などの詳細は第1回目の授業時に指示する。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
※授業開始前に必ず購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として金曜日1, 2限に行うが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、見学実習(学外見学)を土曜日や日曜日・休暇期間中などに変更することもある。初回の授業でスケジュールを提示するが、必ず参加できるように調整すること。なお、初回授業から出席を取る。

- 第1回 事前学習
- 第2回 見学実習①
- 第3回 見学実習②
- 第4回 見学実習③
- 第5回 見学実習④
- 第6回 見学実習⑤
- 第7回 見学実習⑥
- 第8回 実務実習①
- 第9回 実務実習②
- 第10回 実務実習③
- 第11回 実習II報告会(予定)
- 第12回 実務実習④備品の取り扱い方について【額】
- 第13回 実務実習⑤備品の取り扱い方について【桐箱】
- 第14回 実務実習⑥キャプション等作成
- 第15回 事後学習

※内容は変更が生じる場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度と実習日誌で100%評価する。
施設見学を欠席した場合は各自で見学して実習日誌に記入すること。
理由如何を問わず3回以上欠席は評価不能(一)とする。初回も出席を取るの欠席しないように。
15分以上の遅刻は欠席扱いとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には、次に行く施設についてインターネット等で基本情報を調べておくこと。
授業後は、説明内容、見学内容について、授業中に作成したメモに基づいて、「博物館実習日誌」に消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)を用いて記録すること。鉛筆、シャープペンでの記録は認めない。ただし、施設見学時のメモは鉛筆で取ること。

履修上の注意 /Remarks

「博物館実習I」は、「博物館実習II」と2学期連続して取らなければならない。
最初の授業の折におよその授業計画を説明するので、必ず出席のこと。
実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一、見学を欠席した場合は、後日各自で訪れ、日誌を書くこと。
事後学習外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。
事前に、生協などの損害賠償保険に加入しておいてください。

博物館実習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館実習Ⅱ【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業は、博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館園実習である。博物館相当施設において45時間以上(5日間以上)の実習を行うが、その内容は施設によって異なる。

実習は本学が博物館・美術館に依頼して実施されるが、担当学芸員はじめ館員の方すべてが、業務の傍らで時間を割いて機会を作ってください。初めて実現しているものであるため、決して迷惑を掛けるようなことがあってはならない。

取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品である。当然、慎重な取り扱いや真摯な研究態度が求められる。そうしたことに十分に気をつけ学芸員の方のお話を真摯に聞く態度が求められる。

また、2学期開講の「地域文化資源演習」の授業に1回以上参加し、実習で得た知識や経験をもとに「地域文化資源演習」履修生にアドバイスをすること。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習Ⅱ」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行う(これが第1回授業となる)。

第2回以降は、各施設の指定する実習期間と12月に予定している実習報告会および「地域文化資源演習」への参加とする。

「博物館実習Ⅱ」は4年次履修で、期間は2単位分、5~10日間(合計45時間以上)を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行う。

「博物館実習Ⅱ」を履修するためには、その前年度に「博物館実習Ⅰ」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位をすべて修得していなければならない。

- 博物館概論、博物館展示論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館教育論
- 選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

直前説明会に欠席した場合は履修できない。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事がある。

実習報告会に欠席した場合は履修できない。

「地域文化資源演習」の時間割や内容等については、直前説明会で指示する。

館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習日誌に記載された担当学芸員の評価、実習報告会での報告内容、「地域文化資源演習」への参加態度により、100%評価する。

※事前授業および報告会に欠席した場合、評価不能(一)とします。

※実習中、特別な事情以外で欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、実習を行う博物館についてインターネットなどで調べておくこと。また、当該館が扱う分野(たとえば、歴史、自然史)についての基礎的知識を学んでおくこと。

毎日の実習内容を、当日のメモをもとに十分に練られた文書を作成した上で、博物館実習日誌に丁寧に記録すること。記録の際には、消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)で行うこと。シャープペン、鉛筆等は認めない。

履修上の注意 /Remarks

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。

各自で損害賠償保険に加入しておいてください。

博物館実習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、実習を行う館以外にもなるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

法学総論【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それら貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

【知識】法学の初歩的な知識を身につけている

【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

法学総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる（べき）か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら？…【国家＝権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公／私】の区別
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法／私法】、【実体法／手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか / 反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に関連した小課題のできばえ…………… 30%
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験… 70%
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけでなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法（学）には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かい考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる（べき）秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

国際法Ⅰ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の効力
- 第5回 条約の国内適用

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第10回 国際責任の成立
- 第11回 国際責任の追及と解除
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

- 【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている
 - 【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
 - 【思考・判断・表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
- となります。

具体的には、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010）2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年）1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と国家承認

第3回 政府承認

第4回 国家の基本的権利

第5回 国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」

第10回 陸と国際法：領土取得の権原

第11回 陸と国際法：領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習）課題、復習（事後学習）課題、学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】 【SDGs_Goal16】

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたうえで、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えるにとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けることを目指していきます。

(到達目標)

【知識】政治制度についての基礎的な知識を身につけている。

【技能】各国の政治制度の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】制度設計の観点から社会的諸問題を論理的に検討し、その解決策について自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史(2008)『比較政治制度論』有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

レイプハルト, アーレント(粕谷裕子、菊池啓一訳)(2014)『民主主義対民主主義(原著第2版)』勁草書房

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝(2011)『政治学(補訂版)』有斐閣

砂原庸介・稗田健志・多湖淳(2015)『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【公共財】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度①：トップリーダーに何ができるか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】【ダウズモデル】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 執政制度②：執政制度のヴァリエーション
【議院内閣制の多様性】【大統領制の多様性】【半大統領制の多様性】
- 第8回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第9回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第10回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 政治学方法論：数理分析を中心に
【数理分析】【ゲーム理論】【ナッシュ均衡】【公共財ゲーム】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
(オンラインの場合 期末レポート：100%)

*期末試験不受験(オンラインの場合は期末レポート不提出)の場合は「評価不能(ー)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に参加(オンラインの場合は講義動画の視聴を)してください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・教科書は専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して講義(オンラインの場合講義動画)ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。復習時に、教科書の内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・教科書の該当部分、スライド内で引用した文献の出典は教員のホームページにて示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は政治学の学習の入り口に位置づけられるものですが、その後に履修するであろう「発展的な」科目に比して平易というわけではありません。むしろ、政治の基本的な仕組み/ルールである「政治制度」という切り口から、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供する高度な内容であるといえます。大学での知的生活における早い段階で触れつつも、それを咀嚼・理解して自分のものとするために何度も戻ってくる、そういう価値のある内容を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説する。

到達目標

- ・ 学習指導要領に基づき、社会科学の教員に必要な基本的知識や資質について理解している。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科学の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得している。
- ・ 教師としての使命感について理解している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和田清司編2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学の目標と内容 社会科学教師としての資質・能力について
 - 第3回：学習指導要領の変遷 新しい学習指導要領について
 - 第4回：地理的分野の目標と内容
 - 第5回：歴史的分野の目標と内容
 - 第6回：公民的分野の目標と内容
 - 第7回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第8回：社会科学の授業づくり 地図帳・地理の学習について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 教科書の変遷や内容の取り扱いについて
 - 第10回：社会科学の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
 - 第11回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録・実践紹介
 - 第12回：社会科学の授業づくり 社会を教えるということ 指導案の作成
 - 第13回：学習指導案の作成と実践 指導観・教材観・生徒観 模擬授業（1）
 - 第14回：学習指導案の作成と実践 授業計画 模擬授業（2）
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（グループ発表や質疑などへの参加）・・・ 30%
- 最終試験・課題レポート・・・ 40%
- 学習指導案作成・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワーク・発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科学教育法 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事が定期試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科学教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科学教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

◎到達目標

- ・ 学習指導要領に基づき、社会科学の教員に必要な知識や資質について十分に理解している。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科学の授業を行っていく上で求められる知見を修得している。
- ・ 中等教育における社会科学、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていくことができる。
- ・ 教師としての使命感を自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省（平成29年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 学習指導要領における社会科学の位置付け
- 第 3回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 4回 指導案作成上の留意点
- 第 5回 指導案作成と教材研究・教材開発
- 第 6回 資料活用法、オリジナル教材の作成
- 第 7回 社会科学におけるアクティブラーニング
- 第 8回 模擬授業（地理的分野①）
- 第 9回 模擬授業（地理的分野②）
- 第 10回 模擬授業（歴史的分野①）
- 第 11回 模擬授業（歴史的分野②）
- 第 12回 模擬授業（公民的分野①）
- 第 13回 模擬授業（公民的分野②）
- 第 14回 模擬授業（授業研究と評価）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等） 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎積極的な授業参加が望まれる（授業後に感想用紙提出）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科学教育法I、IIの授業で学習した社会科学の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科学教師としてのより実践的な指導力の育成を目指す。

〈到達目標〉

- ・ 社会科学の教員に必要な発展的な知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説することができる。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて、指導計画と学習指導案を作成することができる。
- ・ 社会科学における授業の価値について理解し、教師としての使命感を深く自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和田清司編 2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
 日本教育方法学会編 2009『日本の授業研究 - Lesson Study in Japan - 授業研究の歴史と教師教育〈上巻〉』
 ・他にも、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業目標・成績評価の方法・進め方
 第2回：新しい学習指導要領における中学社会科学と学問領域との関係
 第3回：個が育つ教育 授業分析の視座（教師・生徒・社会の立場から）
 第4回：「単元」を意識した授業づくり 社会科学の持つ連続性
 第5回：授業研究・教材研究 素材から教材・学習材への発展・ICTの活用
 第6回：授業を捉えるために 協働的な学びとアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）
 第7回：授業を捉えるために 授業を評価する（批判的思考とPDCAサイクル・改善の営み）
 第8回：授業のデザイン 指導案および教材の作成（1）
 第9回：授業のデザイン 指導案および教材の作成（2）
 第10回：各自の指導案の相互分析と評価・改善（1）プレゼンテーションと意見交換
 第11回：各自の指導案の相互分析と評価・改善（2）プレゼンテーションと意見交換
 第12回：模擬授業 実践と評価
 第13回：模擬授業 実践と評価
 第14回：模擬授業 実践と評価
 第15回：まとめ 教師としての学び

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（授業デザイン発表や意見交換への参加）・・・30％
 最終試験・課題レポート・・・30％
 学習指導案の作成および資料作成・・・40％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：講義内での配布資料の読み込み、指導案の作成など
 ペアワーク・プレゼン発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
 事後学習：小レポートによる振り返り

社会科教育法C 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も指示された該当箇所・資料を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は3分の2以上している事が、単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科学教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

これまでの社会科学教育法の内容を踏まえうえて、模擬授業や授業検討を行い授業の実践力を養っていく。

〈到達目標〉

- ① 社会科の教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて詳しく解説することができる。
- ② 社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて模擬授業を行うことができる。
- ③ 中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に解説することができる。
- ④ 教師としての使命感を深く自覚して、行動することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会科学教育法IVの目的・進め方・準備に関する説明
 - 第2回：社会科指導案の作成と授業づくり 1
 - 第3回：社会科模擬授業 1
 - 第4回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第5回：社会科模擬授業 2
 - 第6回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第7回：社会科模擬授業 3
 - 第8回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第9回：社会科模擬授業 4
 - 第10回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第11回：社会科模擬授業 5
 - 第12回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第13回：社会科模擬授業 6
 - 第14回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第15回：講義のまとめ
- 学期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業の実践および参加・指導案などの授業デザインに関するもの：60%
期末試験：40%

なお、出席回数10回以上がテストを受ける前提条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
模擬授業に必要な教材開発など（受講人数によって課題の変更あり）
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認や授業の反省についての確認。講義後に指示する。

社会科学教育法D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
受講人数によって、日程が多少変わりますが、模擬授業実践⇒検討の流れで展開します。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの社会科学教育法で学んだことを発揮しつつ、よりよい実践としていくことがねらいとなります。
模擬授業が中心になりますので、いろいろな授業方法の工夫を期待しています。

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こちらは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第3回 【古代】共同体って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第4回 【中世】人間って何？②：(アウグスティヌス)
- 第5回 【中世】共同体って何？②：(アウグスティヌス)
- 第6回 【近代】共同体って何？③：(ホッブス、ロック、ルソー)
- 第7回 【近代】人間って何？③：(カント)
- 第8回 【近代】資本主義って何？(マルクス)
- 第9回 【現代】公共性って何？(ハーバーマス)
- 第10回 【現代】正義って何？(ロールズ)
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

* () の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能(-)となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクシヨン(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクシヨンや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【夜】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス(日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎(3)生命と分子(日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性(4)生態系と進化(日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性(5)多様な生命(日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは(3)人類の起源(日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ(日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高(生物担当)および中尾(物理担当)による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナースhip

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /1 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

自然史へのいざない【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、()内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競走】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (養島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・ぼけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日 (土) 午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
 - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入 (学研災など) の状況を確認しておくこと。
 - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加 (視聴) すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			現代人のこころ	PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生活しているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論:心理学とは:さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1:ものが見えるとは?
- 3: 知覚2:色はなぜ見える?
- 4: 知覚3:形はなぜ見える?
- 5: 知覚4:先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1:目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2:まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1:どうして騒がしい中でも会話ができるのか?
- 9: 注意2:意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1:数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2:昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1:「こころ」どのように芽生えてくる?
- 13: 発達2:「こころ」はどのようにして人とやりとりできる?
- 14: 発達3:発達に苦手さを抱えるのはなぜ?
- 15: まとめ:いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回):30点
レポート(1回):30点
期末試験:40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前:Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
事後:授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート:指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書けてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
 遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

【到達目標】

- 【知識】 国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めどう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標) [自律的行動力] 自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりがえり

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】【複合グラフ】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題への取り組み ... 50%
積極的な授業への参加（タイピング、振り返りレポートなどを含む） ... 50%
課題やタイピング、振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフトExcelなどのコンピュータ操作については、自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

対人心理学【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

(到達目標)

DP1 知識

対人心理学における代表的研究の内容と概念を正しく理解している。

DP3 思考・判断・表現力

理解した知識を用いて現実社会の事柄に関連させて思考することができる。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人認知
第3回	ステレオタイプ
第4回	帰属過程
第5回	社会的態度
第6回	対人魅力
第7回	対人関係の発展と崩壊
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	攻撃と援助
第14回	現代社会における対人心理の諸問題
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度)… 100%
評価材料となる小テストを1回も受けなかった場合は原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

対人心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

< 到達目標 >

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

発達心理学【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房
¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省(2011)「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

発達心理学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害特性と障害者支援についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 障害者支援に関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理学の観点から障害に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害について適切に理解し、他者を尊重した関わりができる。
	生涯学習力	● 障害に関わる諸問題について心理学的観点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害児の心理と指導

PSY223M

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（小レポート含む） ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題（2回）を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

障害児の心理と指導【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育社会学の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育と社会に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関する社会事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育社会学

EDU225M

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とします。

教育社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育課程についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育課程に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育課程に関わる事項に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育課程論

EDU360M

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

教育課程論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小課題等） 40%

最終課題（試験） 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題（試験）受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題（試験）を受験しなかった場合は原則評価不能（ - ）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育原理

EDU110M

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

教育原理 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小課題等） 40%

最終課題（試験） 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題（試験）受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題（試験）を受験しなかった場合は原則評価不能（ - ）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教職についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教職についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教職論

EDU111M

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探索する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の体験報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

教職論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提に進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習・社会教育に関する専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として発見できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯学習・社会教育の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習学

EDU220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

（到達目標）

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

生涯学習学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育相談の基本的な理念や方法を理解できている。近年の生徒が示す様々な問題事象とその要因についての基本的な理解をもっている。
技能	専門分野のスキル	● 教育相談に必要な基本的な相談スキルを実際の対人関係場面で活用できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 生徒個々人の発達課題を把握し、学校内外の関係者とも連携しながら、その自立を援助するための基礎的な力を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの感情やニーズに積極的に応答し、信頼関係を築きあげることができる。
	生涯学習力	● 多様な生徒や保護者との出会いの中から学びと気づきを得ることを通じて実践力の向上に努めている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育相談

EDU264M

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

教育相談【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解を含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
- 最終試験 60%
- （出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。）
- （6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
- 事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
- 授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

- 教育相談、いじめ、不登校、虐待

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標は、「生徒指導に必要な基本的な知見を身につけている」である。
本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、平常点 40パーセント 期末レポート40%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。評価は(-)になります。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

道徳教育指導論【夜】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	道徳教育の指導について基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	●	道徳教育の指導についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	道徳教育の指導についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

道徳教育指導論

EDU262M

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。
本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第10回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

道德教育指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

- 【知識】教育方法に関する基本的知識を身につけている
- 【技能】授業実践を行うための生徒観・教材観・指導観を向上させるための技能および問題解決能力を身につけている
- 【思考・判断】現代教育のなかで生じるさまざまな課題に対し、批判的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法(有斐閣) 2019 田中 耕治(著), 鶴田 清司(著), 橋本 美保(著), 藤村 宣之(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業の研究1・学習指導案
 - 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
 - 第13回：授業の研究3・授業研究
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験
(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力についてテキストを中心に論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

教育方法学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。(-)になります。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

健康科学【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

(到達目標)

【知識】自分自身の健康管理に関して、専門的な知識を身につけている。

【技能】自分自身の健康管理を行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスポモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ・ ・ 40% 期末試験 ・ ・ 60%
6回以上欠席した場合、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

健康科学【夜】

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

身体スポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を到達目標としている。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 パーバルコミュニケーション①【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第4回 パーバルコミュニケーション②【PREP法・ホールパート法の実践】
- 第5回 ノンパーバルコミュニケーション①【ノンパーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 ノンパーバルコミュニケーション②【ノンパーバルコミュニケーションの実践】
- 第7回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル
- 第8回 チームでのコミュニケーション
- 第9回 コミュニケーションワーク①
- 第10回 コミュニケーションワーク②
- 第11回 自己とのコミュニケーション①【マインドフルネス】
- 第12回 自己とのコミュニケーション②【認知行動療法】
- 第13回 自己とのコミュニケーション③【アンガーマネジメント】
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%
- 4) 4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします
- 5) 授業内で行う試験及び小レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

身体スポーツ論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話するとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

(到達目標)

【知識】 法学の初歩的な知識を身につけている

【技能】 法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,200円(税込み)
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版]法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】【法人】【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】【国会】【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】【道徳】【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】【事実】【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

法学総論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジюмеや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、池田真朗他編『法学六法'22』信山社（1,100円）をおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学級づくりと学級経営案(合同授業)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 9回 教科の模擬授業(合同授業)
- 10回 特別活動の模擬授業 その1
- 11回 特別活動の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 教科に関するフィールドワーク(合同授業)
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。
新型コロナウイルス感染症の拡大にによる授業方法の変更などがある場合はアナウンスするのでよく掲示を見ておくこと。

教育実習 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III類-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

本科目の到達目標は以下の通りである。

- ① 教師に求められる使命感、責任感、コンプライアンスの能力を身につけている。
- ② 教職員や保護者と連携、協同していくために必要な対人関係能力を身につけている。
- ③生徒指導と学級経営に必要な知識と指導力に身につけている。
- ④専門教科及び道徳に関する授業をしていくための基礎的な知識と指導力に身につけている。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 学級経営案の報告と検討(教育実習1との合併授業)
- 10回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 11回 保護者理解に関するグループワーク その1
- 12回 保護者理解に関するグループワーク その2
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に) 教育実習1との合併授業
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 学校現場でのフィールドワークの報告 その3(特別ニーズ教育を中心に)
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学級経営案 20% フィールドワークレポート 20%
毎回のノートと期末レポート 60% で評価する。
なお、授業を欠席し、補講を受けていない回があれば、10%の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

教職実践演習 (中・高) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
。 毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

〈到達目標〉

- ・ 公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連に関する理論と実践に関する基礎的な知識を有している。
- ・ 現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげることの意義と課題について理解している。
- ・ 公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割について理解している。
- ・ 学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる当該教科の実践指導のあり方を習得している。
- ・ 教授活動に必要なとされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていくことができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 「高等学校学習指導要領解説 公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』 学文社 2007
- ・ 東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会 編 『新科目「公共」「公共の扉」をひらく授業事例集』 清水書院 2018
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 公共（現代社会）
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科科目における持続可能な開発のための教育
 - 第8回：公民科の授業づくり 教材研究・教材活用・グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む（1）実践と省察
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む（2）主体的・対話的で深い学びについて
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：授業指導案作成
 - 第15回：授業指導案作成・社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
- 最終試験・・・ 30%
- 学習指導案作成・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は10回以上している事が単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

公民科教育法 A 【夜】

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

◎到達目標

- ・ 公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連に関する理論と実践に関する発展的な能力を有している。
- ・ 現代社会（公共）・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材を開発することができる。
- ・ 公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割を踏まえて学習指導案を作成することができる。
- ・ 学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる公民科教育の実践指導のあり方を習得している。
- ・ 教授活動に必要なとされる具体的な技能や方法を十分に踏まえた授業を展開できる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「高等学校学習指導要領解説 公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨN
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシッPと公民科教育
- 第 5回 授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（公共）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済）
- 第 12回 模擬授業（倫理）
- 第 13回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 14回 模擬授業（主権者教育）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等） 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎積極的な授業参加が望まれる（授業後に感想用紙提出）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords